
ホーム・ライブラリー

心を育てる家庭教育

—— チャイルド ガイダンス ——

エレン・G・ホワイト著

広 田 実

訳・編

村 上 良 夫

福 音 社

CHILD GUIDANCE

by

ELLEN G. WHITE

Fukuinsha
Yokohama, Japan

すいせんのことば

このたび、『心を育てる家庭教育』という良書が出版される運びになったことを、わたしは嬉しく思います。今日、教育がますます事業化もしくは産業化されるにつれて、その原点が次第に見失われつつあるような感じを深くしているだけに、本書の出版はまことに時宜を得た企画であると思います。

教育産業の隆盛とは裏腹に、教育の荒廃という憂うべき現象が広くまた深く進行していることをわたしたちは知っております。落ちこぼれ、登校拒否、家庭内暴力、校内暴力、非行といった諸問題がつぎつぎと噴出し、大きな社会問題になっていることは周知の通りであります。しかもこの問題は、単に社会問題という他人ごとではなく、わたしたち個々人のごく身近な経験でもあるのです。

学歴社会や社会的不公正にその責任を転嫁することはいとも容易なことです。しかし、そうすることは責任の回避にはなっても、問題の解決にはなりません。なぜなら、問題の根はより

深いところにあるからです。

教育の荒廃の真因は、家庭教育の荒廃および崩壊にあるのです。現代の親は、自らが依って立つべき精神的基盤を喪失し、また隆盛を極める教育産業に眩惑されて教育の原点であるべき家庭教育をすっかり放棄してしまっているのです。そして、自らは実行不可能なことから他人に期待しているのです。

現代における最大の教育的課題は家庭教育の回復である、と言っても決して過言ではありません。それは別言すれば、人間教育であり、人格教育であり、また心の教育であります。そしてそれは、親たる者にこそ託された神聖な義務なのであります。本書は、この現代における最大の教育的課題と真正面に取り組み、家庭教育の理論と実践とをきわめてわかりやすく、しかも懇切丁寧に説明している名著であります。

三育学院短期大学学長

哲学博士 長 窪 専 三

はじめに

本書の著者であるエレン・ホワイトは一八二七年十一月、アメリカ合衆国の北東部、メイン州ゴーハムの町に生まれました。

彼女は学校教育は殆んど受けませんでした。文字通り自学自習し、著述家として、宗教、教育、健康、家庭などの分野で五〇冊以上の本を書いています。彼女には四人の男の子があり、長男を一六歳で、四男を生後三ヶ月でなくしましたが、次男と三男は成人して立派な働きをしました。自分自身の体験を通してエレンは、子供を育てるということがどんなにたいへんなことか、そして小さいころの家庭教育がその子の一生にとってどんなに大切なものか、身にしみて知っていました。彼女が折りにふれて書いたノートや雑誌に寄稿したりしたものの中から主題別にまとめたのが、本書です。

さて、約一世紀も前に書かれた本を、なぜいま世に問うかといいますと、それは“心を育てる家庭教育”がいま何より必要とされていると思うからです。

わが国における近年の教育荒廃の実状は目をおおうものがあります。シンナー、喫煙、不純異性交遊、万引きなどの非行が日常化し、校内暴力の恐ろしい実態が報道されています。そのような非行とは別に、一方に、ただ流されて生きているような無気力な子供も多くなっているとの報告されています。また登校拒否や家庭内暴力も身近に発生しています。

そこで親子関係や家庭教育をもっと重視しなければならないと多くの人は感じています。学校へ行く前の教育が何より大切なことが広く理解されてきました。

ところが家庭教育といえますと、たいていの親は逃げ腰になるか、困惑するかが実状ではないでしょうか。近年のいわゆる核家族化した家庭では、育児はできても、教育はできないと感じている親たちがふえています。

親たちの自信のなさの背景には戦後教育の欠陥が明らかに読みとれます。その根本は何といっても、人々が物的繁栄を求め、物欲の充足を追い、それを可能にする社会を求めてきたことにあります。物的繁栄はたしかに達成されました。戦後のわが国の経済的な高成長ぶりは奇蹟と言われるほど目ざましいものでした。そして私たちはみなその恩恵に浴し、さらに高度の繁栄を望んでいます。

そのような繁栄を支えるために、戦後の教育は学歴や能力の高い者から順に、社会の上層から下層へ配置されていく学歴社会にとりこまれていきました。そして実利を追う価値観が教育

を支配するようになったのです。

このような全体の傾向の中で、心の教育が隅におしやられてしまいました。心の教育というのは人間はどのように生きるべきかを教えることで、実利を超えた性格をもつものです。利害だけで動く社会は弱肉強食のみにくい社会になってしまいます。そのような社会では人間の人間らしさが失われ、何のために生きているのかが分らなくなるのです。

このような状況のなかで、心の教育を考えると、何よりもまず家庭教育の重要性をとりあげなければならぬと思います。教育の荒廃を論じるだけでなく、地道にわが家の教育法をしつかり築く必要があります。

『心を育てる家庭教育』として本書の特色は、人間として本当の生き方は愛するということにある点です。これを著者は次の文章で美しく表現しています。

「人間の利己心よりほかには、自分だけのために生きているものは何もない。空中を飛ぶ鳥も、地上を動きまわる動物も、すべて何かほかの生命のために奉仕している。」*

“愛の奉仕の喜び”これを著者は教育の土台においています。すべての生命あるものは他の生命のために奉仕している。これが宇宙の法則であると著者は主張します。愛というテーマは人間存在のもっとも重要な課題です。それは昔も今も変わらないものです。教育の土台を愛にしておくことは、変化の激しい現代においてとくに価値のあることと考えられます。つまり社会

はどんなに変化しても、人間はどのように生きるべきかを問うとき、愛はつねに永遠性をもつものとして教育の土台となることができるのです。

ここで著者が愛というのは、情緒ではなく行為や考えの原則としての愛のことです。愛は寛容で親切です。ねたんだり、高ぶったり誇りません。自分の利益を求めません。人を恨んだりもしません。不正は喜ばないで、真理を喜びます。愛は相手のために自分の生命をすてることもいいます。

原則としての愛にもとづいた家庭教育やしつけを著者は強調しています。どのように愛するかが教育の主要な関心事となるのです。このことを考えるとき、家庭教育といいしつけというものは、子供をどう育てるか、どうしつけるかという単なる育て方にあるのではないということに気がきます。愛の教育は、親がどう生きるか、親と子がどのような人間関係を結び、その中でどのように人間として共に成長していくか、ということに重点をおくものです。

愛の教育はまた、子供の自立心を失わせる過保護や過干渉を喜びません。それらは原則としての愛に反するからです。愛の教育はむしろ厳しい側面をもっています。子供の心に本能的に、あるいは衝動的に、利己心、高ぶり、ねたみ、敵がい心、憎悪などあらゆる悪がきざすとき、それを見過さないで正しくしてやります。この厳しさが現代の家庭に欠けているのではないのでしょうか。

ただ厳しさといっても一方的に叱りつけたり小言を言ったりするのでなく、原則としての愛の正しさを静かに教えることによって、心の教育ができることを著者は自分の体験から述べています。

愛の教育はより広い視野をもっています。それは家庭の人間関係にとどまらず、広く社会に出て、人々の問題を背負い、そのために働くことを喜ぶ人格をつくることを目標にしています。著者はそれを“愛の奉仕の喜び”と言っているのです。

こうして本書に示されている原則は、古くなるどころかますます現代的で新鮮なものとなっており、実際に世界的に顕著な影響を与えています。

本書がすでに出版されているエレン・ホワイトの教育書、『生活を豊かに』『教育』『豊かな人生の秘訣』とともに、子供の“心を育てる”働きに広く活用されることを願ってやみません。

発 行 者

目次

第一章	家庭は最初の学校．．．．．	1
-----	---------------	---

一	家庭で基礎が築かれる	4
---	------------	---

二	親は最初の教師	6
---	---------	---

三	親になる準備	9
---	--------	---

第二章	人格形成は最大の事業．．．．．	17
-----	-----------------	----

一	永遠に価値あるもの	20
---	-----------	----

二	親にゆだねられた聖なる任務	24
---	---------------	----

三	よい人格は偶然に生じない	27
---	--------------	----

四	人格をそこなう危険	31
---	-----------	----

五	親の心構え	39
---	-------	----

第三章	人格の基礎をつくる．．．．．	45
-----	----------------	----

一	幼年期の重要性	48
---	---------	----

第四章

家庭におけるしつけ

．．．．．

77

一 しつけの目標

80

二 しつけの与え方

87

三 子供の間違いを正す

109

四 甘やかすこととその結果

126

五 子供の反応

131

第五章

人間教育の基本

．．．．．

145

一 服従

148

二 単純さ

154

三 礼儀と謙遜

159

四 快活さ

162

五 誠実と正直

165

六 自立心と自尊心

七 自己に克つ

八 静かにすること、尊敬

九 きちんとする、秩序を守る

一〇 健康と清い生活

一一 人の役に立つ

一二 勤 勉

一三 節約の大切さ

第六章

心を育てる方法・・・・・・・・・・

一 幼児期に全力を注ぐ

二 親の態度と話し方

三 心を育てる教科書

四 自然から学ぶ

五 心の教育にとり組む

第七章

心を育てる体づくり・・・・・・・・

一 労働と技術を教える

第八章

- 二 生命の法則に従う
- 三 食物と料理

永遠からの使信・・・・・

295

- 一 悪のはびこる時代
- 二 親は目ざめねばならない
- 三 永遠者との交わり

298 301 303

277 283

第一章

家庭は最初の学校

夢のようにすばらしい母親の胎内から冷たくごつごつしたこの世界に生まれてきた赤ちゃんにとってその環境は狼が住む暗い森のようなものでしょう。この危険にみちた世界で、文字通りいのちをばぐんでくれるのが母親です。赤ちゃんは母親の胸にすがって生きるほか、生きる方法をもたないのです。

そんな無力な赤ちゃんが一人前の大人になり、人間として意味のある生活を営むことができるようになるには、数えきれないほど多くのことを学び、自分のものにしていかなければなりません。人生の出发点で、もし赤ちゃんがこれからしなければならぬことを全部言われたら、とても人間として生きていけないと思うにちがいません。しかし、ありがたいことに一歩一歩赤ちゃんを助け導くひとがいます。それが母親であり父親です。赤ちゃんにとって親が頼りがいがあるかどうかはいのちにかかわる問題であるばかりか、いちどだけのかげがえのない人生をどのように生きるかを決める大きい要素ともなるものです。それなのに赤ちゃんは親を選ぶことができない。何と不公平なことでしょう。

そこでこれから親になるひとや、すでに親になったひとは、胸に手を置いて深く自分を探ってみなければならぬのではないのでしょうか。自分が親であることは、生まれてきた子供たちにどれほどの影響を与えているだろうか。自分を親としてくれた子供を、見えない世界からのさずかりものとして、心から受け入れ、いわば人類の名において、全力をあげて育てているだろうか。

そもそもなぜ自分は子供がほしかったのかと考えることも必要でしょう。昔なら家を継がせるためということもありましたが、いまはもっと個人的な願いが多いのではないのでしょうか。育児学で有名なスピック博士は、子供を持ちたい主な理由は、その人が、自分が愛されかわいがられてきた通りのやり方で、自分の赤ちゃんを愛し、かわいがりたいと幼いころから望んできたからだといっています。いわば本能的な愛の衝動

が子供をほしがらせるというのです。これは主として女性についていわれたことですが、男性はもうすこし違った心理を持っています。男性にとっては女性への積極的な愛が子供に結実したということでしょう。いずれにしても出発はきわめて情緒的なものです。赤ちゃんは理屈なしにかわいいのです。その柔らかい肌やまんまるいひとみ、親に頼りきった姿に、親は人生最高の喜びを味わうのです。

しかし喜んでだけいるわけにはまいりません。オムツかえ、授乳、入浴、ベッドづくりなどたくさんすることがありますし、熱を出したり、カゼをひいたりすれば、どっと親の負担がふえます。育児は片時も気をゆるめることができない仕事です。

赤ちゃんが成長するにつれて、人間としての教育が始まります。無力な赤ちゃんは生きるための十分な世話と共に、正常な人間として自分をつくっていくために多くのことを学ばなければなりません。ここに親のもっともきびしい働きが要求されてきます。このごろでは嬰兒期や幼児期にその人の人格の基礎がつけられるといわれていますので、親の働きも、早くから子供の人格形成にふさわしい性質の働きでなければなりません。

ところが体の世話は何とかできても、心を育てる方法はよく分からないというのが、一般に親たちの心配な点ではないでしょうか。ことに若い親たちは経験も未熟ですから、どのように幼児の心のうごきを観察し心を育てることができるかについてとまどいを覚えることが多いのではないのでしょうか。

小さいころは、すなおで、おとなしかった子が、思春期になるとひどく親に反抗するようになるケースがよくあります。そんなことを見聞きするごとに、どのようにして子供の人格をつくっていったらよいかほど、親にとって大切な課題はないと考えさせられます。

一、家庭で基礎が築かれる

最初の学校——子供の教育は家庭で始まります。ここに子供の最初の学校があります。ここで子供は、両親を教師として、一生を通じてよい働きをする尊敬、服従、敬虔、自制などの教訓を学ぶのです。家庭での教育の影響は、善悪に対する決定的な力となります。それは多くの点において、静かにそして徐々になされますが、もしそれが正しい方向に向けられるならば、真理と義のために大きな力となります。

知、徳、体の訓練を施すという義務が、すべての親に負わされています。子供が円満でバランスのとれた品性を形造れるようにすることが、すべての親の目的でなければなりません。これは非常に重大な、そして大切な働きです。それは忍耐と努力を必要とします。そのうえ思慮深さと熱心な祈りがなければなりません。正しい土台が置かれ、頑丈な骨組が組み込まねばなりません。それから日ごとに、築き磨き、完成させていく働きが進められねばならないのです。

第1章 家庭は最初の学校



若枝が曲げられると、その木は曲がったまま成長します。

家庭の教育を第一に——家庭教育を二次的なものとみなしてはなりません。それは、すべての真の教育において、第一位を占めています。父親と母親は、子供たちの心を形造るという責任を負っているのです。

「若枝が曲げられると、その木は曲がったまま成長する」ということわざは、驚くほど真理をついています。これは子供たちの訓練にもあてはまるのです。ご両親がた、子供たちを本当に幼い時から教育するということが、神聖な務めとしてあなたがたにゆだねられていることを忘れてはなりません。これらの若木は、神の庭園に植え変えることができるように、思いやりをもって訓練されなければならないのです。家庭教育はどんなことがあってもなおざりにしてはなりません。

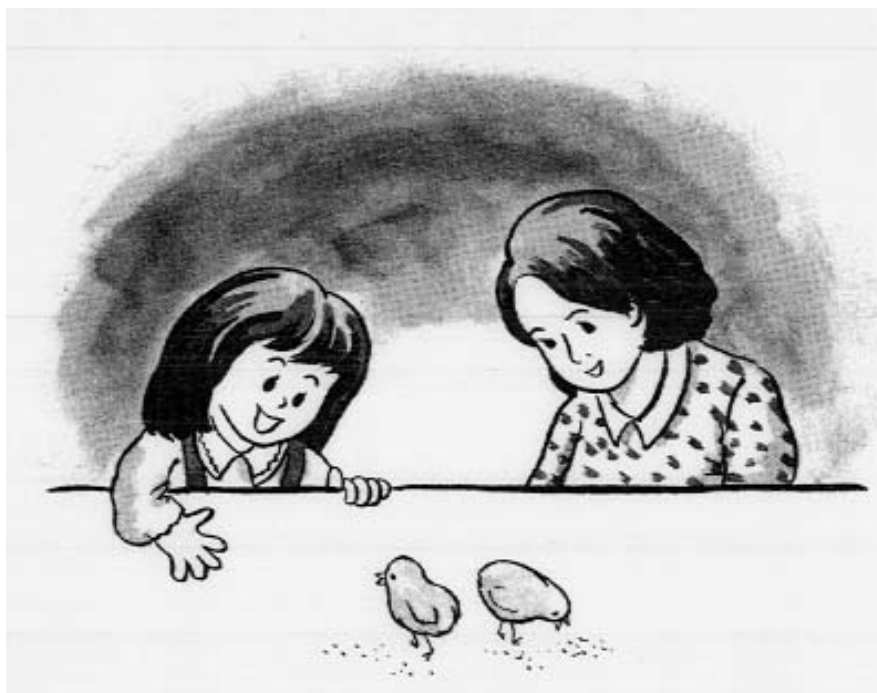
二、親は最初の教師

親の責任を自覚する——父親と母親は、子供たちの最初の教師です。

親は自分の責任を理解する必要があります。社会は青年のゆくてを誤らせる**わな**に満ちています。多くの人々は利己的、肉欲的な快樂の生活に心をひかれ、幸福と見える道に隠されている危険や恐ろしい結果を見抜くことができません。食欲と情欲におぼれて精力を使い果たし、幾百万の人がこの世で破滅し、また来世での滅びを招いています。子供たちがこのような誘惑に遭遇しなければならぬことを心にとめなければなりません。子供が悪に対する戦いにりっぱに勝てるように、生まれ出る前からその準備を始めなければなりません。

子供は神の委託——親は子供たちを、天の家族の一員となるための教育を授けるよう神から託されているものと見なさなければなりません。神に対するおそれと愛をもって、子供をしつけましょう。なぜなら、「主を恐れることは知恵のもとである」からです。

第1章 家庭は最初の学校



親が子どもと同じ感受性をもって新しいことを発見する喜びを共に持つとき、親と子の心のきずなが結ばれます。

神に忠実な人は、家庭生活の中で神をあらわします。彼らは子供をしつけることを、いと高き神から与えられた神聖な仕事と見なします。

両親の協力が必要——夫と妻は、家庭という学校の働きにおいて、密接に協力しなければなりません。誘惑の門戸を開かないように、あくまで柔和で注意深く話しましょう。夫と妻は互いに親切で礼儀正しく、尊敬し合うことができるように行動しなければなりません。家庭に快活で円満な雰囲気をもたらすために、お互いに助け合いましょう。子供たちの前で意見の食い違いがあってはなりません。

母親は特別な教師——子供のしつけの主な働きは母親に与えられています。父親にも責任あ

る大切な任務が負わされていますが、母親はいつも子供たちといっしょにいますから、特に子供たちが小さいうちはいつも子供たちの特別な教師となり、友達となってやらねばなりません。

親も成長する——親自身が神の言である聖書に服従するとき、子供たちに言葉と行動で、尊敬と服従を教えることができます。これは家庭で行われるべき働きです。このようにして、子供たちの成長を願いながら親たち自身も成長していきます。このような教育は、ただ単にものを教えるという以上のことを意味しています。

三、親になる準備

母親になる準備がなおざりにされている——子供にとって最初の教師は母親です。最も感受性が強く、最も進歩の早いこの期間における子供の教育は大部分母親の手に任されています。善悪いずれかの品性を形造る機会はずまず母親に与えられているのです。母親はこの機会の価値を理解して、他のどんな教師よりもこの機会を最善に用いるだけの資格を備えていなければなりません。ところが実際には母親の教育ほど軽視されているものは他にありません。母親は子供の教育上もっとも有力なそして広範囲に感化を与える者であるにもかかわらず、その母親を助けるための組織的な努力がほとんどなされていないのです。

父親と母親に徹底的な準備が必要——子供の幼年時代はもちろん後年の教育についてもその責任は母親ばかりでなくまた父親の上にもあるのです。そのために注意深く徹底的な準備をすることが父親にも母親にも緊急に必要です。父親となり母親となる可能性を持つ前に、男も女

親にも免許証が必要？



も身体の発育の法則すなわち生理衛生学や胎教や遺伝、衛生、衣服、運動、病気の手当てなどについて知らなければなりません。彼らはまた知的な発達と道徳的な訓練について理解しなければなりません。

親の働きの重要さが十分に認識され、彼らがその聖なる責任について訓練を受けないかぎり、教育によって当然達成されなければならないすべてのことはいつまでたっても達成されません。

親たちの教科書——親は自分たちに与えられた責任を正しく果たすためには、神の言葉を生活の基準としなければなりません。そして大事な宝であるひとりひとりの子供が、ついには永遠の命を受けることができるように、子供たちの品性を教育し、形造っていかねばならないと

いうことを悟らねばなりません。

教訓に満ちた聖書こそ、親たちの教科書でなければなりません。もし親が聖書の教えに従って子供たちを教育するなら、子供たちの足を正しい道に向けるだけでなく、子供を正しく教育するというこのいちばん尊い任務によって、自分自身をも教育しているのです。

親としての働きは、重大で厳粛な働きです。親には大きな任務がゆだねられています。しかしもし言葉を注意深く研究するなら、その中には教訓が満ち、また、働きを忠実に行うならば果たされるはずの、たくさんのお約束がなされているのを発見するでしょう。

調和のとれた精神——他のどんなことより子供の教育ほど、心の修養を必要とし、知力体力の健全な調子と活力とを必要とする仕事はありません。

母親の責任ということを考えてみますと、女性はみな、調和のとれた精神と、真実と善と美のみを反映するような清い品性を発達させる必要があります。妻であり母である人は、やさしい言葉とていねいな物腰に表わされる不断の愛によって、夫と子供たちを自分の心に結びつけることができます。そしてそのような言葉使いや動作は、たいがい子供たちもまねるようになっていくのです。

最高の知力が必要——子供を教育するに当たって最高の知力を正しく用いることができるよう、熱心に、しんぼう強く、勇気をもって、自分の能力の向上に努めねばなりません。神に受け入れられるような教育を子供に授けることを、自分の最高の目的としなければなりません。正しく理解して自分の仕事を取り上げるとき、母親は自分の責任を果たしていく力を受けるでしょう。

自己を向上させる——母親は子供たちのために——たとえ他に理由がないとしても、子供たちのために——自分の知性を養わねばなりません。なぜなら母親はその仕事において、王座にある王よりもっと大きな責任を持っているからです。与えられている責任の重さを感じている母親、自己の修養に忍耐強い徹底的な努力を払うことによって、母親独自の仕事を成し遂げることができるということを自覚している母親は、本当に少ないものです。

まず母親は、ゆがんだあるいはかたよった性格を持つことのないように、そして自分の欠陥などの影響を子孫に与えることのないように、頭と心のすべての能力や感情を厳格に訓練し、養う必要があります。多くの母親は、結婚生活に入ることによって自ら引き受けた務めを十分に果たしていくためには、自分の意志や品性を変えることが絶対に必要であるということを、目覚めて悟らねばなりません。人類の運命を左右するこれらのことに、正しい注意を向けるな

第1章 家庭は最初の学校

らば、女性の有用性はさらに広げられ、その感化力をほとんど無限に伸ばすことができます。

知性を磨き心を清く保つ——母親には、知性を磨き、心を清く保つという任務があります。

自分の知的、道德的向上のためには、できる限りのあらゆる方法を活用して、子供たちの心を向上させるにふさわしい者とならねばなりません。

親は絶えずキリストの学校で学ばねばなりません。キリストの単純さをもって、神の家族の一員である子供たちに、神のみ旨についての知識を教えることができるように、親には新鮮さと力とが必要です。

読書に時間をとる——妻であり、母である人は単なる家事にあくせくせず、主人のよき伴侶となり、成長する子供の頭脳におくれぬように読書に時間を取り、物事に精通していなければなりません。愛する者をより高い生活へと導くために現在与えられている機会を賢明に利用しましょう。

婦人はつねに快活で元気よく、限りのない裁縫に全時間を費やさず、夜は、一日の働きを終えて皆が再び共になって、家族一同が楽しく交わる時間としましょう。こうして多くの男女がクラブハウスや酒場よりも自分の家庭のまじわりを選ぶようになり、青年の多くが町をうろつ

忙しい時間をさいて学ぶ親を見ると子どもは親を尊敬するようになります。



き、あるいは町角の売店に行かなくなるでしょう。多くの娘たちもつまらぬ悪友から救われるのです。そして家庭の感化は親にとっても、子供にとっても神が計画なさった一生の祝福となるのです。

眠っている力を目覚めさせる——自分の好みに従ってはなりません。どんなことにも正しい模範を示すよう、細心の注意を払いましょう。不精になってはいけません。眠っている力を目覚めさせなさい。注意深くて役に立つ人間となることによって、自分を夫にとってなくてはならない存在にしなければ。あらゆる点において、夫にとって祝福となりなさい。どうしてもしくはならない仕事をきちんと引き受けなさい。平凡で面白くない、ありふれた、しかし、家庭

生活の上で最も必要な仕事を、どうしたらできなきゃいけないか、研究してごらんなさい。家庭生活を成功させるよう努力なさい。妻であり、母であるということは、あなたが考えていたのよりもっと多くのことを意味しています。家庭生活の訓練と経験があなたには必要です。家庭生活に伴ういろんな変化や活動、熱心な努力、意志力の鍛練が必要なのです。

努力は報われる——母親はもし知恵と能力を増したいと思うなら、他のだれよりも、熱心に考え熱心に研究する者とならねばなりません。このことにためまず励む人は、やがて自分に欠けていると思っていた能力を獲得しつつあることに気づきます。この人たちは、子供たちの品性を正しく形成することを学んでいるのです。この仕事に注がれた労力と配慮の結果は、子供たちの従順さ、純真さ、慎み、清らかさとなって現われます。これは払われたすべての努力に豊かに報いるものです。そして母親たちが自分たちの力を伸ばせば伸ばすほど、親としての仕事もいっそう効果的にできるようになるのです。

第二章

人格形成は最大の事業

人間にとって自分がどんな人格をもつかは何より大切なことです。人間関係をよくするか否かはその人の人格に左右されることが多いからです。またよい社会はよい人格をもつ人びとによってつくられます。人格の破綻者がふえてきますと、その社会はまことに住みにくい社会となるでしょう。

だれでも自分がどんな人間かを気にしています。せっかくこの世に生まれてきて、いちどだけの人生を送らなければならないのに、人びとからうしろ指をさされるような人間にはなりたくないと大部分の人は考えています。しかし、他人に迷惑をかけないとか、うしろ指をさされないなどのことは、人間として必要最小限の資格であって、それだけで人格形成が終わったとは言えません。偉人や聖人と呼ばれる人たちは、常人の及ばない崇高な人格や慈愛に富んだ人格をもっています。人間が到達できる人格の高さや深さや広さをだれも限定することはできません。

では人格を築くにあたって何を目標にしたらよいのでしょうか。本書の著者はそれを永遠者である神の品性においています。聖書は神を人知では到底測り知れない存在者として畏敬をもって描いていますが、一方神の人格的な特性についてはつきり教えています。

聖書のもっともよく知られた言葉に次の聖句があります。「愛する者たちよ。わたしたちは互に愛し合おうではないか。愛は、神から出たものなのである。すべて愛する者は、神から生れた者であって、神を知っている。……神は愛である」(新約聖書・ヨハネの第一の手紙四章七、八節)。

この聖書の使信は愛による神と人との深い関係を示しています。まず何よりも先に、神は人を愛されたのです。その証拠は、神の御子(キリスト)がご自分のいのちを捨てて人の罪のゆるしの道を開かれたことにあります。この絶大な神の愛があるので、人はいのちを支えられ、不安と絶望をのりこえて他の人を愛する

ことができるのです。そして、人が真実に他の人を愛するとき、そこに神が共にいますのです。

この神の愛の秩序に入ることが人間の人格形成の目標です。この愛の秩序は財産や地位や境遇などを越えて成り立ちます。どんなに貧しくとも、どんなに不遇な生活をしていても、神の愛の秩序にはいることはできます。この世の幸、不幸によって、愛はゆるぎません。むしろ愛は愛のゆえに幸をつくっていくのです。愛しているということそのものが、幸せにほかなりません。

神の愛の秩序はこの世限りで終わるものではありません。それはこの世を超えた永遠を郷土としています。そこで人格形成ということは、永遠というしるしを帯びるのです。永遠ということを考えてはじめて人は真に高く、深い人格を築くことができるのです。

この章で著者は、人格の建設は遊びではなく戦いであることを述べています。神の愛の秩序に生きることが断固として決意をもってでなければ到底実現しない、なぜならば人間には底深い悪の性質があるからだということです。人間の本性については、性善説、性悪説あるいは白紙説などがありますが、安楽を求め、快楽を追い、欲望に屈する性質が現実に行っていることはだれしも認めることでしょう。もしそのような快樂追求を行動の基本とするならば、それによって形成される人格は人間の高い価値を失わせるようなものとなることでしょう。それは社会をも墮落させ、人間の崇高な使命を失わせることでしょう。

家庭の教育がめざすべき第一の目標は、子供たちが神の愛の秩序に入ることにはほかなりません。それは両親の真剣な愛を通して子供たちのうちに築かれていくものです。

一、永遠に価値あるもの

人格こそ価値がある——知能や素質は人格そのものではありません。なぜなら、こういったものを持っても、良い人格の持ち主とはとても言えないような人たちが、しばしばいるからです。名声も人格とは関係ありません。人格とは人間それ自身の資質であって、行為の中に現われるものです。

良い人格は、金や銀よりもっと価値のある資本です。それは、恐慌や破産にも影響されることがありません。そしてこの世の財産がみな一掃される日にも豊かな報いをもたらします。誠実さ、堅固さ、そして忍耐こそ、わたしたちがみな熱心に養い育てねばならない特質です。なぜなら、こういったものを身につけてこそ、わたしたちは、何ものにも打ち負かされない力を持つことができ、力強く善をなし、悪を退け、そして逆境に耐えることができるからです。



欲望を抑える自制力と理想を実現させる
意志力が人格を立派に築きます。

人格の二大要素——人格の持つ力には二つの要素があります。意志の力と自制の力です。多くの青年たちは、抑制されない激しい感情を、人格の強さだと勘違いしています。しかし実際には、感情によって支配される人は弱い人なのです。人間の真の偉大さや気高さは、自分を支配する感情の力によってではなく、自分の感情を押さえる力によって測られます。最も強い人とは、間違ったことに敏感でありながらも、怒りを押さえて敵を許す人です。

一生の仕事——人格の形成は一生の仕事です。それは永遠に備えるためのものです。もし、わたしたちがみなこのことを自覚するなら、永遠の命か永遠の滅びか、どちらかの運命を自分で決定しているのだということに気づくなら、ど

んなにか大きな変化が起きることでしょう。この恵みの期間はどんなにか違ったものになることでしょう。どんなにか違った人格の持ち主が、この世に満ちることでしょう。

人生の収穫は人格——人生の収穫は人格です。そして現世と来世における運命は実にこの人格によって決定されるのです。利己心、自分を愛する心、自負心、放縦は、繁殖を続けているうちに、ついには、不幸と破滅を招くのです。愛と同情と親切は、祝福という実を結び、それは滅びることのない収穫となります。

測りしれない善への感化——人間にゆだねられた仕事の中で、人格の形成ほど大切な仕事はありません。子供たちは、教育されるだけではなくて、訓練される必要があります。育っていく子供の将来がどのようなものか、だれも知りません。真理の原則によって正しくしつけられ、神を愛しおそれる精神が人格に織りこまれていく子供が、一人いたならば、測りしれないほどの善への感化を世に及ぼすのです。

来るべき世界へ——神のかたちにかたどって形成された人格は、この世から来たるべき世界に持って行ける唯一の宝であります。この世で、キリストの教えを受けたものは、その身につ

けた神の性質を全部天の住居に持つていくのです。そして、天ではそれを絶えず改善します。ですから、この世で人格を形成することは、非常にたいせつなことなのです。

二、親にゆだねられた聖なる任務

危機の時代に——人格を築くことは、人類に任された最もたいせつな働きであって、今日ほどこれについて熱心に研究しなければならない時はかつてありませんでした。これほど重大な問題に直面した時代はこれまでになく、また青年男女が今日ほど大きな危機に直面したこともかつてありませんでした。

親には、神のみ言葉の教えに調和するように子供たちの人格を育てる、という仕事を与えられています。これこそ第一にしなければならない仕事です。なぜならこれには永遠の利益が関係しているからです。子供たちの人格を築くことは、畑を耕すことよりも大切なことであり、家を建てることよりもまたどんな種類の事業や商売を営むことよりも、絶対に必要なことです。

家庭こそ最上の場所——正しい基礎の上に子供の人格を築き上げるのに、家庭にまさるものはありません。

ここで失敗してはならない——ご両親がた、この世と永遠のために子供たちの人格を築くという、あなたがたの最も大切な働きに失敗があってはなりません。きちんと教えることを怠ったり、溺愛しすぎて子供たちの欠点に気づかず、必要なブレーキをかけてやらないような、あなたがたの側における誤りは、結局は子供たちの破滅を招きます。あなたがたの道が、子供たちの将来に誤った方向を与えるかもしれないのです。子供たちがいまにどうなるか、子供たちがキリストのために、人々のために、そして自分自身の魂のために、何をするかということとは、あなたがたが決めているのです。

正直に、そしてまじめに子供たちを扱いなさい。勇気を持って忍耐強くやりなさい。苦難を恐れたり、時間や労力を惜しんだり、重荷や苦痛をいってはなりません。あなたがたの働きがどんなものであったかは、子供たちの将来が証明します。あなたがたがキリストに忠誠を尽くすなら、それは他の何ものよりも、子供たちのバランスのとれた人格となって表われます。

造り主が助けくださる——お母さんがた、宇宙の創造主があなたがたの仕事を手助けくださるということを忘れてはなりません。主の威力と名によって、あなたがたは子供たちを勝利者となるよう導いてやることができます。力を神に仰ぎ求めることを子供たちに教えなさい。神は祈りを聞いてくださることを話してやりなさい。善をもって悪に勝つよう教えなさい。他

人を高め向上させるような感化を与えるよう教えなさい。神とつながるよう導いてやりなさい。そうすれば子供たちは、どんなに強い誘惑をも退ける力を得るでしょう。そして勝利者としての報いを受けるようになるでしょう。

あわれみ深いあがないの主は、愛と同情をもってあなたを見守り、いつでもあなたの祈りを聞き、あなたの一生の仕事に必要な助けを与えてくださいます。クリスチャンの人格の特質は、愛、喜び、平和、寛容、慈愛、信仰、そして思いやりです。これらの尊い恵みは、聖霊の実です。それはクリスチャンの冠であり盾です。

親から子へ——ご両親がた。子供たちの中に忍耐と誠実さと純真な愛を育てることがあなたがたの仕事です。神が与えてくださった子供たちを正しく扱うとき、あなたがたは、子供たちが、清い、調和のとれた人格の基礎を築けるよう助けているのです。あなたがたが子供たちの心に少しずつ教え込んでいるその原則を、いつの日にか子供たちがそれぞれの家庭の中で実行するようになるのです。あなたがたが子供たちを正しく導くよう努力するなら、子供たちも自分たちの家族を主の道に従って導くようになるでしょう。

三、よい人格は偶然に生じない

しんぼう強い努力によって——人格は偶然に生じて来るものではありません。怒りを一度爆発させることによって、あるいは間違った道に一步踏み込むことによって、決定されるものでもありません。その行為をくり返す時に、それが習慣となり、善か悪のどちらかに人格を形造っていくのです。正しい人格は、ただしんぼう強い不屈の努力によって、そして託された才能や能力を神の栄光のために活用することによって、つくられていくのです。けれど多くの人はそうしないで、衝動や環境に押し流されるにまかせています。これはよい素質を持っていないからではなくて、若いうちに最善を尽くすよう神は望んでおられる、ということに気づいていないからです。

神に対して、また同胞に対してのわたしたちの第一の義務は、自己を進歩向上させることにあります。創造主が与えてくださったあらゆる能力は、最高の段階にまで伸ばして、わたしたちが自分たちにできるよいことを最大限に行なえるようにしなければなりません。人格を清め、

洗練するためには、欠点に気づかせてそれを直させ、そして良い所は伸ばすようにさせてくださるキリストの恵みが必要です。

あらゆる行為が影響する——生活のあらゆる行為は、たといどんなにささいなことであっても、人格の形成に影響を及ぼします。良い人格は世のどんな財産よりも貴重です。そしてそれを築いていく仕事は、人がたずさわることのできる最も崇高な仕事です。

環境によってつくられたような人格は、変わりやすく不調和で、矛盾のかたまりのようなものです。そのような人格の持ち主は、人生になんら高い志や目的を持っていません。彼らは人の人格を高めるような感化力を持ちません。彼らは目的とするものを持たず、無力です。

模範に従うことによって——わたしたちが目の前に示された模範にならって人格を築くよう、神は期待しておいでになります。わたしたちは、ちょうどレンガを一つずつ積み上げるように、恵みに恵みを加え、自分の弱点を見いだしたなら、与えられた指示に従ってそれを改めていくようにしなくてはなりません。建物の壁にひびがはいるのは、建物のどこが悪いからです。人格の形成においても、ひびがはいることがよくあります。こういった欠陥が直されない限り、試練のあらしが打ちつけるとその家は倒れてしまうでしょう。

第2章 人格形成は最大の事業



堂々とした教会も一つ一つのレンガ積みから始まるのです。

神は、ご自分がよしとお認めになることのできる人格をわたしたちが築くことができるよう、わたしたちに力と理性と時を与えておられます。神は、ご自分の子供たちひとりびとりが、清く気高い行いをするにによってりっぱな人格を築き、ついには、神と人から尊ばれるような、調和のとれた建物、美しい宮となるよう望んでおられるのです。

人格を築くにあたってはキリストの上に築かねばなりません。キリストこそ、決して動かされることのない確かな土台です。誘惑と試練のあらしも、永遠の岩に固く打ちつけられた建物は動かすことができません。

主のための美しい建物になりたいと思う人は、持っているあらゆる力を伸ばさなくてはなりません。才能を正しく用いることによってのみ、

人格は調和のとれた成長をしていきます。このようにする時わたしたちは、み言葉の中に金・銀・宝石として表わされているもの、つまり神の清めの火の試練に耐え得る材料を、土台の上に積むことになるのです。人格の形成にあたっては、キリストこそわたしたちの模範です。

断固たる決意が必要——もし青年たちが、人格の建設というこの大切な問題を正しく理解するならば、自分たちは神のみ前での審査に耐え得るような人格を築かねばならないということがわかるでしょう。どんなにつまらない弱い人間でも、粘り強く誘惑を退け、上からの知恵を求めるならば、今は不可能に見えるような高さにも到達することが可能です。このことを達成するには、小さな務めをも忠実に成し遂げようとする、断固たる決意が絶対に必要です。それには、ゆがんだ面が強くなるままにほうっておかないよう、絶えず警戒しなければなりません。

四、人格をそこなう危険

甘やかすことと厳しすぎることに——赤ん坊の時から甘やかされて、そのために悪い習慣が身についてしまった子供たちがよくいます。親は若木を曲げてきました。親の教育次第で子供の人格は、欠陥あるものにもなれば、調和のとれたすばらしいものにもなるのです。しかし、一方では甘やかして失敗する親がたくさんいるかと思うと、他方では逆の極端に走って鉄のむちで子供を支配する親たちもいます。どちらも聖書の教えに反しており、恐ろしいことをしているのです。親たちは子供たちの心を形造っているものであって、神の審判の日には、自分たちのとった方法について申し開きをしなければなりません。この世での働きの結果は永遠が明らかにしてくれるでしょう。

正しい訓練を怠るとき——主の道を守るように、そして主が命じられたことをするように、子供たちを訓練することを怠るとき、親は厳粛な義務をなおざりにしています。

叱られたことに不満をもつとき、反抗が芽生えます。



放任されてしたい放題にしている子供がいるかと思うと、欠点ばかり見つけられて気落ちしている子供もいます。しかし楽しさや心を明るくすること、子供の良さを認める言葉などは、少しも与えられていません。

もし母親たちが、子供たちの肉の性質をしつけて押さえるのに、賢明に、落ち着いて、そして断固としてするなら、どんなに多くの罪がほぼみのうちにつみとられ、どんなに多くの教会の困難を防ぐことができるでしょう。……親が子供を正しくしつけることを怠り、権威に従うことを若いうちに教えることを怠るために、多くの魂が永遠に滅びてしまうのです。

不満から反抗する——現代の青少年の恐るべき状態は、わたしたちが終末時代に生きている

ということの最も顕著なしるしの一つですが、しかし多くの青年たちが破滅に向かっていくことは、両親の誤った処置に直接の原因があるとも言えるのです。しかられたことに対する不満の気持ちに根が生えて、反抗という実を生じていきます。親は子供たちが育てていく人格を快く思わないのに、子供たちをそうさせている自分たちの誤りに気づかないでいます。

ブレーキをかけないことによって——親が子供に正しくブレーキをかけて導いてやらないために、ゆがんだ人格やだらしない品行の持ち主、また実際の生活の義務にたずさわる教育をほとんど身につけていない人たちが無数に生じてきています。彼らは、衝動のおもむくままに、時間も知能も好き勝手に使うよう放任されています。これらのタラントを活用しないために神のみわざに及ぼす損失は、父母がその責任を問われます。子供たちのすべての能力を創造主のみ栄えのために発達させるという神聖な義務をゆだねられた、神の財産管理人たる両親は、神の御前にどんな申し開きをするのでしょうか。

親たちは自分たちは子供を愛していると思ってきました。しかし実は子供たちの最悪の敵となってしまうました。彼らは悪を制止しませんでした。彼らは子供たちに罪をはぐくむことをゆるしてきましたが、それは毒ヘビをかわいがって育てるようなものでした。毒ヘビは自分をかわいがっている者をかむだけでなく、その人とながっている人たちをみなかむのです。

子供を甘やかすことによって——子供に好きなようにさせるほうが扱いやすく思われるために、親はしばしば子供を甘やかしてしまいます。子供たちの内に非常に強く起きる手に負えない傾向を抑制するよりも、したい放題にさせておくほうがたしかに仕事は楽でしょう。しかしこれは卑怯なやり方です。このようにして責任を回避することはよくありません。なぜなら、抑制されなかった傾向がますますひどくなって、どうしようもない悪癖を身につけてしまった子供たちが、やがて自分自身にも家族にも、恥辱と不名誉をもたらす時が来るからです。彼らは、誘惑に対処する備えもなく、困難や苦しみには耐える力も十分にはないまま、多忙な生活に入ってしまう。感情的で尊大で、わがままな彼らは、他人を自分の意志に従わせようとし、これに失敗すると、自分たちが世の人々から虐待されたと考えて反抗するのです。

うぬぼれの種をまくことによって——どこにいても子供たちが甘やかされ、かわいがられ、おやみにほめられているのが目に入ります。これは子供たちを、見え坊で厚かましく、うぬぼれの強い人間にしてしまいます。子供たちの将来のことも考えずに、ただほめそやし甘やかす思慮のない親や保護者によって、うぬぼれの種がたやすく心にまかれます。わがままと誇りは、天使を悪魔に変え、天国のとびらを閉ざしてしまった悪徳です。それなのに親たちは、それと気づかずに子供たちを、サタンの手下となるようわざわざ教育しているのです。

子供の奴隷となることによって——子供たちの奴隷となって重荷を負う疲れはた親たちが、なんと多いことでしょう。一方その子供たちは、まさしく自分たちの受けている教育や訓練に見合って、自分自身を喜ばせ、楽しませ、あがめるような生活をしています。親は子供の心に、刈り入れたくないような収穫をもたらす種をまいているのです。こんなふうに教育されている子供たちは、十や十二や十六ぐらいだというのに、自分たちは非常に賢い非凡な人間だと考えてしまい、親の言うことなどばかしくて聞けない、日常生活の務めなどつまらないものはやりたくない、と思うようになってしまいます。快楽を愛する思いが心を支配し、利己主義と高慢と反抗心が生活の中に苦い結果を生み出していきます。彼らはサタンの誘いを受け入れ、世間で何か目立つことをしたいという汚れた野心を育てていくのです。

服従を要求しないことによって——感謝することを知らない子供たちが、その点を直されもせずに、食物をあてがわれ衣服を与えられていくなら、増長してそのまま間違った道にとどまってしまう。そして親や保護者は、子供たちに甘くするだけで、きちんと親の言うことをきかせようとしなければ、子供たちの悪い行為の共犯者なのです。

子供を気ままにさせることによって——社会の風潮は、若い人に自分の心が自然におもむく

がままにさせています。

親は、子供たちの望みをかなえてやって、それぞれ好きなようにさせておけば、子供たちの愛情を得ることができると考えています。しかしこれは、とんでもない間違いです。このように甘やかされた子供は、欲望を制することができず、強情な性質をもち、利己的で強引で横柄な人間になり、自分自身にも周囲の人々にもわざわざいとなってしまします。

誤った態度をほうっておくことによって——幼いころに学んだ教訓は、善きにつけ悪しきにつけ、おだになることはありません。人格は幼いうちに善か悪のどちらかに発達していきます。家庭ではほめられたり、おだてられたりするでしょう。しかし世間に出れば、実力で立たねばなりません。家庭の権威をみな自分に従わせてしまったわがままな子供たちは、世の中では毎日他人に従わなければならないので、屈辱感を味わうことになります。多くの者は、この時になつてやつと、こうした人生のきびしさから自分たちの本当の立場を教えられます。はねつけられ、失望させられ、上役からはっきり言われることによって、自分たちの本当のレベルを知り、謙遜になって、自分たちの身のほどがわかるようになるということです。しかしこれは、子供たちが味わうにはきびしい不必要な試練で、もし子供の時に正しく教育していたら避けられたはずです。

このように誤ってつけられた子供たちの大半は、成功したはずのところでは失敗したりして、世と食い違った行動をとりながら人生を渡っていきます。彼らは、世の中の人々は自分たちに悪意を持っているのだ、なぜならほめたりかわいがったりしてくれないから、と感じるようになります。そして世間を恨み、世に反抗することによって恨みをはらそうとします。時々彼らは周囲の事情に迫られて、うわべだけの謙遜さを装わねばならないことがあります。しかしそれは身についた自然なものでは全然なく、遅かれ早かれ真の人格が必ず現われてきます。

親はなぜ、子供たちが、接する人々と円満な人間関係を築けないような、そんな教育をするのでしょうか。

自分だけの幸福追求を許すことによって——もし成功の本質について正しい考えを持って人生を始めていたなら、社会の祝福となり、神の働きのほまれとなったかもしれない青年たちが、たくさんいます。しかし彼らは、理性と原則で制御されるよりも、気まぐれな性向に従うようにつけられ、自分勝手な楽しみにふけることによって自分を満足させようとしませんでした。自分本位の道で幸福を求めても、不幸しかもたらさないからです。このような青少年は社会で役に立たず、神の働きにも役立ちません。この世的に見ても来世に関しても、彼らはほとんど見

込みがありません。というのは、自分だけの楽しみを求めることによって、彼らはこの世も来世も共に失ってしまうからです。

五、親の心構え

最大の時間を用い最大の配慮をする——親が腕に抱いている子供は、無力な存在です。子供は何も知りません。この何も知らない子供に、神を愛することを教えてやり、主の教えと戒めのうちに育ててやらねばならないのです。神聖な模範に従って子供を形づくっていく必要があります。

子供を訓練するという自分たちの仕事の大切さを悟るとき、そしてそれが永遠の利益を伴っていることを知るとき、親はこの仕事に最大の時間を注ぎ、最大の配慮をしなければならないことを感じるでしょう。

原則を理解する——乳児期や小児期に学んだ教訓や形成した習慣は、その後施されるどんな教育や訓練よりも人格の形成に関係があり生涯を支配するようになります。

このことを両親は考慮する必要があります。子供の養育と訓練の基礎となる原則を理解しな

ければなりません。子供を肉体的、知的、精神的に健康に育てることができなければなりません。

浅薄さを避ける——わたしたちが住んでいる時代は、ほとんどすべてのものが浅薄で深みのない時代です。堅固でしっかりした人格はほとんどありません。子供たちのしつけや教育が、その幼い時からすでに浅薄でうわべだけのものだからです。子供たちの人格は不安定な砂の上に築かれています。彼らの人格の中には克己や自制が形造られていません。かわいがられ、甘やかされて、ついには実生活には役に立たなくなってしまうます。楽しみばかり求める気持ちが心を支配し、子供たちはちやほや甘やかされて台なしになってしまいます。

祈りと信仰のとりでを築く——あなたがたは子供たちを生みましたが、子供たちは自分たちが生まれてきたことについて何の責任もありません。あなたがたが自分で、子供たちの将来の幸福、永遠の幸福のために、大きな責任を負いこんだのです。自覚すると否にかかわらず、子供たちを神のために教育する責任は、あなたがたにあります。子供たちの周りに、祈りと信仰のとりでを築きなさい。そして勤勉に見張りなさい。サタンの攻撃に対しては、ちょっとした間でも安心できません。目を光らせてたゆみなく働くのを休んでいい時は、いつときたりとも

ないのです。あなたがたの持場で一瞬の間も眠ってはなりません。これは本当に大事な戦いです。永遠の結果がかかっているのです。あなたがたとあなたがたの家族にとって、それは生か死かの問題です。

断固たる立場をとる——一般に親というものはあまりに子供を信用しすぎるようです。というのは、親が子供を信用しているのに子供はこそ悪いことをしているという場合がよくあるからです。両親は油断なく子供を見守ってやらねばなりません。立つときもすわるときも、外に出かけるときも帰って来るときも、いつも子供たちを教え、戒め、助言してやりなさい。「教訓に教訓、規則に規則、ここにも少し、そこにも少し」と、少しずつ、くり返し教えてやりなさい。子供たちがまだ幼いうちに服従を教えなさい。多くの親たちはこれをはなだ怠っています。子供たちに関してとるべき断固とした立場をとっていません。

知、徳、体の調和をはかる——正しくバランスのとれた人格を造るためには、身体的能力も知的能力も霊的能力も発達させる必要があります。そしてこれが正しくできるよう、子供たちを見守り、保護し、しつけてやらねばなりません。

健康を保ち思いわずらわない——子供たちの道徳的感受性を目覚めさせて、神のご要求に気づかせるためには、体の構造のうちにある神の律法に従うにはどうすればよいかを、子供たちの心と心に刻みつける必要があります。なぜなら健康は知性と道徳心とに大いに関係しているからです。もし子供たちが健康と清い心を兼ね備えているなら、世の祝福となるような生活をしていくのによりよい準備ができます。正しい時期に正しい方向に子供たちの心のバランスをとってやることは本当に大切なことです。決定的な時機になされる決断は、影響するところ大だからです。

とするなら、親の心が、イライラしたり、不必要なことを思いわずらったりすることからできるだけ解放されて、落ち着いた思慮と知恵と愛をもって考え、行動し、子供たちの心と体の健康を第一のそして最大の関心事とすることが、どんなに大切でしょうか。

子供たちがどうも前よりずっと扱いにくくなったと親たちは首をかしげます。しかしたいいていの場合、親自身の間違ったやり方が子供たちをそうさせてしまったのです。食卓に出して子供たちに食べさせる食物の質が、子供たちの動物的な感情を絶えずかりたて、道徳的知的能力を弱めています。

頭がいいというだけでは不十分であることを知る——あなたは子供が非常に頭がいいと言っ

て喜ぶかもしれません。しかしすばらしい知能も、きよめられた心に支配されるのでなければ、神の目的とは逆の働きをしてしまいます。神がわたしたちに持っておられるご要求を強く自覚することだけが、この世でもまた来るべき世でも成功するのに必要な、堅固な人格と心の洞察力、そして深い理解力を与えてくれるのです。

高い目標をめざす——子供たちに勤勉であるよう教えるなら、危険は半分なくなります。なぜなら怠惰が、罪へのあらゆる種類の誘惑に引き入れるからです。子供たちが、飾り気がなくてしかもぶしつけではなく、親切で自己犠牲的でありながらも極端ではなく、倏約家でありながら欲深にはならないように、教育しようではありませんか。そして、特に、子供たちに対する神のご要求、つまり、宗教を生活のあらゆる面に行き渡らせねばならないこと、神をこの上なく愛し、隣人を愛し、幸福に不可欠な生活上の小さな思いやりを大切にしなければならぬことを、教えてやろうではありませんか。

天よりの知恵を祈り求める——親は子供たちを正しく訓練して、子供たちが神に喜ばれる人格を養うことができるよう、神の知恵と助けとを熱心に祈り求めねばなりません。子供たちが世の称賛や栄誉を受けられるようになるためにはどのように教育しなければならないか、とい

うことよりも、神に受け入れられる美しい人格を築くようになるためにはどのように教育したらよいかを、心配すべきです。どのように子供たちの心を扱うかを知る天来の知恵を得るために、多くの祈りと研究が必要です。親が子供たちの心と意志にどんな指導を与えるかに、非常に多くのことがかかっているからです。

第三章

人格の基礎をつくる

この章では人格の基礎をどのようににつくるかについて、いくつかの要点をとりあげています。

はじめに「幼年期の重要性」についての主張がまとめられています。人格形成について幼年期——ことに最初の三年が非常に大切なことは、現代の教育学でも広く認められていることです。ですからここにあげられている主張を読むと、大変新鮮な感じを与えます。

わが国ではこのような主張が広く認められたのは、ごく最近のことです。伝統的な考えでは、子供が育つのは自然のことだから自然にまかすのがよいというものでした。しかし、いまの世の中で子供を自然に育てることは全く不可能です。子供は人工の環境の中にどっぷり漬かっています。

人工の環境は子供たちの心を育てるには多くの難点をもっています。幼児期からテレビで育てられた子供に自閉症児が多いという報告もあるほどです。学校でさえ子供たちの天国とはいえない面があります。感受性の強い子や、やさしい心の持ち主が、集団生活で傷つくことがあるのです。画一的な教育制度には基本的に解決できていない問題があります。そのうえ、依然として強い進学至上主義など、現代は子供受難時代と言われるのも不思議はありません。

このような時代に子供たちが人間として高い目標めざして成長していくためには、まず初期に基本をしっかりと学ぶ必要があるのです。そこで著者は習慣の力について述べています。習慣というものは数多いくらいえしをして身につくものです。親が子供の将来を見通すような考え方をもたない限り習慣をつくることに注意深くあることはないでしょう。ことに子供が小さいころは、親はかわいさのあまり習慣の種を見逃しがちです。忍耐強く繰り返し、よく教えることが大切でしょう。短気なやり方は効果がないばかりか、意図したことと反対の結果を生むようになるかも知れません。

第3章 人格の基礎をつくる

子供は生まれつき持っている気質があります。同じ家に生まれただいでも性格がちがう場合が多くあります。外向性の子と内向性の子とでは親の対応の仕方も変わります。気をつけなければならないことは気質や性格のよしあしを問題にしないことです。どんな気質であれ、その子が持っている長所をのばし、短所を正しくしていくのが親としてのつとめでしょう。

親は時として自分の子供の気質が自分になじまないと思うことがあります。その子とはあまりよいコミュニケーションができないで、何か満足しない感じがあるのです。そのような子に対して、まず、親は心を開いてその子のありのままを受容することが必要です。自分の好みや考えとちがう子であっても、そのままに受け入れ理解するのです。親の態度が変われば子供の態度も変わるのです。

意志の力が人格形成にどんなに大きい影響を与えるかを著者は力説しています。意志力とは選択の能力のことを指していますが、この力を正しく育てることによって独立心の旺盛な人間として子供は成長するので、意志を強くするには何か非常な困難に会わせてそれに耐えさせることがよいように考えられています。本当はそうではなく、日常の生活の中で子供に選択の力を十分に働かすことができるように導いてやることによるといわれています。小さいときから親が何でもしてやったり、一方的に親の考えを押しつけたりしていると、子供は自分の選択の能力を十分に働かすことができないので、自分の選択ができなくなります。親は注意深く子供の意志の働きを導いてやる必要があります。

人格形成に影響を与えるもので、いちばん大きいものといえば、親自身の影響です。子供は親の態度や行動を見て、その通り行います。このことを考えるとき、親は自らのえりを正し、いつわりのない真実な生き方を求められていることを知るのである。

一、幼年期の重要性

最も大切な時期——幼年期の子供の教育が大切であることは、いくら強調してもしすぎることはありません。子供が人生の最初の七年間に学ぶことは、後年学ぶすべてのことよりも、人格の形成に関係があります。

方向をきめる——善であれ悪であれ、子供の心が最も印象を受けやすいのはその幼年期です。この年代の間に、正しい方向が誤った方向かのどちらかに、決定的な発達がなされます。つまらないことばかりたくさん覚える子供もいれば、多くの堅実で有益な知識を得る子供もいます。知力や堅実な知識は、オフルの金をもってしても買うことのできない財産です。その価は金銀以上です。

消えない幼年期の印象——父親も母親も、あるいは家族のどれであろうと、幼児や児童、青

第3章 人格の基礎をつくる



新生児にことばは通じなくても、感情は通じます。お母さんが話しかけるのを赤ちゃんはどんな思いで受けとめるのでしょうか。

少年たちに対して、決して短気な言葉を出してはなりません。なぜなら子供たちは、ほんとうに早い時期に影響を受けるのであって、親が今日子供をどう育てているかが、子供たちの明日を、そして将来を、決定するからです。子供に印象づけられた最初の教えは、めったに忘れるものではありません。

幼いとき心に刻まれた印象は後年になっても見られます。隠れているかもしれませんが、消え去ることはめったにありません。

基礎をすえる最初の三年間——お母さんがた、子供たちを最初の三年間に正しくしつけるようになさい。子供たちが誤った願いや欲求を持つことを許してはなりません。母親が子供の思いを導いてやらねばならないのです。最初の三年

間は小さな細枝を曲げる時期です。母親はこの時期の持つ大切な意味を理解しなければなりません。基礎がえられるのはこの時なのです。

大きくなったらよくなると考えてはならない——子供が大きくなってから細心の注意を払って悪いところを抑え、正しく教育しようと考えて、最初の数年にシなくてはならない務めを怠ってしまう親がたくさんいます。しかし、「子供を正しくしつけるという」この仕事をしなければならぬのは、子供がまだ赤ん坊で自分たちの腕に抱かれている、まさにそのときなのです。親が子供たちを甘やかしたり機嫌をとったりすることはよくありません。そうかといって、子供たちを虐待するのも間違っています。ゆるぐことなく断固とした率直なやり方が、最良の結果を生むのです。

小さな子供たちの悪い習慣を、親が助長している場合があります。わたしがそのことに注意を促しても、全く無関心に見える親たちもいれば、微笑を浮かべてこう言った親たちもいました。「かわいい子供たち！わたしはとにかく子供たちを怒らせるに忍びないのです。大きくなれば良くなりますよ。その時には今みたいにカンシヤクを起こしたりするのが恥ずかしくなるでしょう。小さな子供たちにあまりやかましく厳格にするのはよくないです。ウソをついたりごまかしたり、怠けたりわがままだったりというような、こういうことは、今になくなります

よ」。母親たちにとっては、これはたしかにとっても安易な、手のかからないやりかたでしょう。しかしこれは神のみ心にそうものではありません。

実生活の準備をさせる——子供が最初の十二年間あるいは十五年間に、この世の事柄と永遠の事柄について、どんなにたくさん知識を得るか、じっくり考えてみる人はほんとうに少ないものです。こういう小さな子供たちは、本からの知識を得るだけではなくて、実際の生活になくてはならない技術を覚えるようにしなくてはなりません。本からの知識にばかり力を入れて、実生活のための訓練がおりそかにされるようであってはなりません。

二、習慣の力

習慣が人格をつくる——幼い時に心にいだく思想や感情によって、どの青少年も自分たちの生涯の歩みを決定していくのです。子供の時に形成された、正しく立派な高潔な習慣は、人格の一部となり、一生を通じて常に本人の生き方の特徴となるでしょう。青少年は、自分たちの選択しだいで、良くも悪くもなることができます。真実で気高い行いによってひととき目立つ者となることもできれば、大きな罪や邪悪さによって目立つ者となることもできるのです。

習慣はどのようにしてつくられるか——善であれ悪であれ、ただ一つの行為が人格をつくるではありません。そうではなくて、気ままな思いや感情にふけるときに、同じように気ままな行為行動をするようになっていくのです。

行為を繰り返すことによって、習慣がつくられ、人格が固められていきます。

第3章 人格の基礎をつくる



テレビに子育てをまかせてはなりません。テレビは注意深い管理が必要です。なぜならテレビは強い習慣性をつくるからです。

良い習慣をつける時期——人格は、大部分、早いうちにつくられます。早い時期に身についた習慣は、どんな生まれつきの才能よりも強い影響力を持って、人を知的巨人にもすれば小人にもします。なぜなら、どんなにすぐれた才能でも、悪い習慣によってゆがめられたり弱められたりするからです。悪い習慣がつくのが早ければ早いほど、その犠牲者はいっそう強く捕えられ、霊的標準はより確実に引き下げられてしまいます。反対に、もし正しい立派な習慣が若いうちにつくられるなら、それはたいいていその人の一生を通じて見られるようになります。晩年になってから神を敬い、正義を尊ぶ人たちは、多くの場合、世がその魂に罪のイメージを押す前にその教訓を学んだ人たちです。大人になっってしまうと一般に、堅くなった岩のように、



一度習慣がついてしまうと、それは性格にきざみこまれます。

新しい印象に対して無感覚です。しかし若い人たちは敏感です。

柔らかな心に深い線を引く——子供が見たり聞いたりすることは、柔らかな心に深い線を引いていきます。その後のどんな環境も、それをすっかり消してしまうことはできません。知性はだんだんと形成され、感情は方向づけられ、強められていきます。ある決まった行為を繰り返すときに、それは習慣となっていくます。こうした習慣は、後年、きびしい訓練によって部分的に改めることはできるかもしれませんが、完全に変えてしまうことはめったにできません。一度習慣がついてしまうと、それは人格にどんどん強く刻みつけられていきます。知性は絶えずいろんな機会や便宜から影響を受けて、良

第3章 人格の基礎をつくる

くもなれば悪くもなります。わたしたちは日ごとに子供たちの人格を形づくっているのです。

ねばり強い努力が必要——一度思い切つて事をする、次にはもつと抵抗なくできるようになります。節制、自制、節約、熱心、健全で分別のある態度、忍耐と真の礼節、といった習慣は、勤勉に熱心に自分を見張ることによつてのみ得られるものです。自己を常に抑制しながら、真の美德を育てて、欠点に勝利することよりも、墮落し悪くなってしまうことのほうが、ずっと簡単です。それだからこそ、クリスチャンの美德が生活の中に完成されるには、しんぼう強い努力が必要なのです。

小さな行為が大切——どんな行為も二重の性質と重要性を持っています。つまり、その動機によつて、善か悪か、正しいか正しくないかのどちらかです。悪い行為は、たびたび繰り返されることによつて、それをする人の心に、またその人と、どんな関係であれ、つながりのある人々の心に、いつまでも消えない印象を残します。小さな悪い行為に、少しも注意を払わない親や教師は、子供の中に悪い習慣を作りあげているのです。

親は自分たちにゆだねられた魂を、誠実に取り扱わねばなりません。子供たちの中に、高慢やぜいたく、見せびらかしの気持ちなどを助長させてはなりません。小さな子供ならかわいく

見えても、大きくなれば注意されてやめねばならないような小さいたずらを、子供に教えた
り、おぼえさせたりしてはならないのです。

小さいたずらや間違いは、子供が赤ん坊の時にはおもしろく見え、許され勧められるかも
しれません。しかし子供が大きくなるにつれて、それはうんざりしたいや気のさすものになっ
てしまいます。

悪い習慣をつけるのはたやすい——いくらいろんなことを勉強しても、子供の時のだらしな
いしつけから生じる悪い結果を、取り消して元どおりにすることはできません。何か一つおろ
そかにしても、それをしばしば繰り返すなら、習慣となってしまう。一つ不正なことをす
ると、それは次の不正への道を備えます。悪い習慣は良い習慣より、つくるのは簡単でやめる
のは困難です。

小さな子供たちは、放っておかれると、良いことより悪いことのほうをすぐに覚えてしま
います。悪い習慣は生まれつきの心にいちばんよく合うものだからです。そして子供たちが幼
い時に聞きすることは、心に深く刻みつけられていきます。

幼児期の習慣の影響——わたしたちはみな、現世に対しても来世に対しても、習慣によつて

つくられるとありの者となっていけます。正しい習慣を身につけ、すべての務めを忠実に果たす人の生活は、他の人の道に明るい光を投げかける、輝くともしびのようなものです。しかしもし不忠実な習慣がそのままにして放っておかれたり、だらしない、怠惰でなげやりな習慣がひどくなるままにしておかれるなら、暗黒の闇よりなお濃い雲が前途の望みをおおい、その人を未来の生活から永久に閉め出してしまおうでしょう。

子供の時と、青年時代には、人格は非常に影響を受けやすいものです。自制力はこの時代には身につけねばなりません。家庭の炉辺や食卓で永遠につづく結果をもたらす影響が及ぼされるのです。生まれつきの能力よりも、幼いころ身についた習慣が人生の戦いに勝つか負けるかを決定します。

三、年齢、性格、気質を考える

子供をせきたててはならない——親は決して子供たちをせきたてて、子供時代から追いたてたりしてはなりません。子供たちに与える教訓は、心に気高い目的をいだかせるような性質のものでなければなりません。しかし子供らしい心を失わないようにさせ、天のみ国に入る備えをさせるあの単純な信頼と率直さ、そして真実さをもって成長するようにさせたいものです。

それぞれの時期にふさわしい美しさがある——親や教師は、少年少女たちが人生の各段階において、庭の植物が自然に花を開いて、その時期にふさわしい美しさをあらわすように、彼らの傾向を指導するように心がけるべきです。

家族の中の気質の相違——同じ家族でも、お互いの気質や性格がそれぞれ非常に違っているということがよくあります。いろんな気質の人たちが共に交わるということが神のお考えだから



子どもは小さいころの写真を喜びます。それは自分がこの家の子だということを確かめて安心するからです。

からです。ですからこういう場合、家族のひとりひとり、お互いの感情を大事にし、お互いの権利を尊重しなくてはなりません。こうすることによって、互いの思いやりと忍耐が養われ、偏見がやわらげられ、品性の粗野なところがみがかれていきます。そしてそこに調和が得られ、多種多様の気質の人がまざり合うことによって、互いに益となりうるのです。

ひとりびとりの考え方と性格をよく知る——
子供が生まれることは、親の責任が増えることを意味します。……子供たちの気質、傾向、性格の特徴などが研究されなくてはなりません。
親は、子供たちの悪い傾向を抑え、正しい感覚と正しい原則を育てることができるよう、自分の識別力を注意深く養う必要があります。

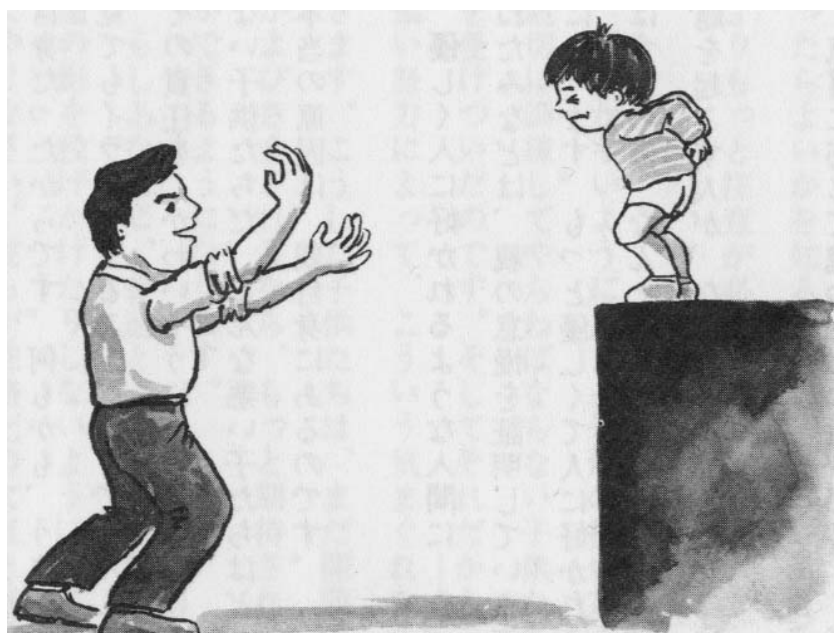
この仕事に暴力や厳しさは必要ではありません。親は自制心を養い、それを子供の精神や心に印象づけねばなりません。

人間の心を扱うことは、本当にデリケートな仕事です。子供たちをみな同じように扱うことは不可能です。ある子供には抑制が必要であっても、他の子供にとっては、抑制はその子をおしつぶしてしまうことになる、という場合があるからです。

子供の気質を知る——子供には不断の注意が必要ですが、親がいつも見守っているということと子供に知らせる必要はありません。子供同志の交わりに現われるそれぞれの性向を知ってから、その欠点を正して反対の特質を育てるよう努めなさい。知力と体力の発達はどちらも自分次第であること、それは努力の結果であることを、子供に教えてやらねばなりません。利己的な楽しみにふけても幸福は得られないこと、しなければならぬ務めを果たしていくことの中にこそ幸福があることを、子供たちは早くから学ぶ必要があります。それと共に、母親は子供たちを幸福にする努力をしなくてはなりません。

子供の心の必要にこたえる——子供たちの直接的な必要には注意深く世話を焼く親たちがいまします。子供が病気のときは親切にまた献身的に看護し、そしてそれですべきことはしたと考え

第3章 人格の基礎をつくる



臆病な子は、注意深く、新しい体験を積み重ねるようにしてやりましょう。

るのです。しかしそこが間違っています。仕事はまだ始まったばかりです。心の必要に気を配ってやらねばならないのです。正しい治療を施して、傷ついた心をいやしてやるには、熟練を要します。

子供たちにも大人たちと同じように、やっかいな、つらい試練というものがあります。親自身、いつも同じ気持ちでいられるわけではありません。どうしてもいかわからなくて、心を悩ますことがしばしばです。いろいろ誤解されて苦しむこともあります。サタンに打ちのめされ、誘惑に負けます。こうして親たちはイライラした話し方をしては、子供たちの心に腹立たしい気持ちを起こさせてしまいます。またやかましく、怒りっぽい時もあります。かわいそうに、子供たちは親と同じような気持ちになるのです。

が、親には子供たちを助けてやる用意ができていません。なぜなら問題を引き起こしたのは親自身だったからです。何もかも、うまくいかないようにみえるときが、時々あります。どこを見てもイライラすることばかりで、みんながみじめで不愉快な思いをします。そんなとき親はその責任を、かわいそうに、子供たちに負わせます。まったく言うことをきかない、手に負えない子供たちだ、こんな悪い子供たちはどこを探してもいないだろうと考えるのです。しかし、本当の原因は、親自身にあるのです。

優しく人に好かれるような人間に——バランスのとれていない心、短気、いらだち、羨望、ねたみなどは、親の怠慢を証明しています。こういう悪いところを持っていると、非常に不幸になります。もっと優しくて人に好かれるような性質だったら、仲間や友人たちから愛されたいはずなのに、なんと多くの人たちが、失敗していることでしょう。行く先々で、何をしても問題を起こす人が、なんと多いことでしょう。

気質に応じて違ったしつけが必要——子供たちはそれぞれ違った気質を持っています。ですから親は、いつもみんなを同じやり方でしつけられるとはかぎりません。子供たちの心の特質も皆違ってきます。子供たちが神の計画なされた目的を果たすよう形造られていくためには、

第3章 人格の基礎をつくる

子供たちの心の特質を祈りをもって研究しなくてはなりません。

お母さんがた、時間をかけて、子供たちのことをよく知るようになさい。子供たちをどう扱ったらよいかを知るために、性質や気質を研究するのです。ある子供たちにはほかの子供たちよりもっと注意が必要です。

望みがないように見える子供の扱い方——他の子供たちよりもっと根気よくしつけ、もっと親切に訓練してやらねばならない子供たちがいます。こういう子供たちは、見込みのない特質を受けついだのです。そしてそれだからこそ、もっと多く同情と愛が必要なのです。しんぼう強い努力によって、こういう気まぐれな子供たちも、主のお働きに加わる準備をすることができます。こうした子供たちは、まだ開発されていない能力を持っていることがあります。それがよびさまされるなら、もっと期待されている人たちよりも、さらに進んだ役割を果たすことができるようになります。

もしあなたに、普通とは違った気質の子供たちがいても、そのためにその子たちの一生に失望の影を投げかけたりしないようにしてください。……忍耐と同情をもって、子供たちを助けてやりなさい。彼らが性格上の欠点を克服できるよう、やさしい言葉と親切な行為で子供たちを力づけてやりなさい。

四、意志の力

意志の力を理解する——意志は人間の本性の中で、他のすべての能力を従わせる支配的な力です。意志は、好みや傾向といったものではなくて、人間を神に従わせるか従わせないかの、決定的な力です。

どの子供も真の意志力を理解しなければなりません。この賜物にどれほど大きな責任が含まれているかを彼らに認めさせましょう。意志は決定の能力、すなわち選択の能力です。

子供の意志力は神聖な宝——意志の力をすべて大切に守ってやりなさい。人間にはそれが全部必要だからです。そしてそれに正しい指導を与えてやりなさい。神聖な宝を扱うように、子供の意志を賢明にやさしく扱いなさい。それを粉々に砕いたりしないで、子供が責任を負える年ごろになるまで、訓戒と真の模範によって、それを賢明に形造ってやりなさい。

押しつぶすのではなく、導く——親も教師も、どうすれば子供の発達を不当な干渉によって妨げることなく導くことができるかということを研究しなくてはなりません。干渉しすぎることは放任と同じく弊害があります。子供の意志を抑えつけようとすることは、はなはだしいあやまちです。人の心は十人十色です。強制して表面は服従させることができたように見えても、大抵の子供はその結果もっと固い反抗心を持つようになってしまいます。親や教師が子供をうまく自分の思い通りにさせることができたとしても、結果は子供にとって有害であることに変わりはありません。ある生徒にとっては他の生徒よりも意志の服従が困難な場合があるので、教師はなるべく要求に従いやすいようにしなければなりません。われわれは、意志を導き養い育てるべきで、これを無視したり押さえつけたりしてはならないのです。

強いてはならない——あなたがたの監督下にある子供たちに、あなたがた自身と同様、個性を持たせてやりなさい。いつも子供たちを導くようにしてやらねばなりません。しかし決して強いてはなりません。

心を広くし強くする——子供が自分の意志を持たないようにしつけることもできます。個性さえも、しつける人の中にのみ込まれてしまい、意志は事実上、教える人の意志に支配されて

しまいます。このように教育された子供たちは、常に、精神的な活力にも、個人的な責任感にも欠けています。こういう子供たちは、理性や原則で動くようには教育されてきませんでした。彼らの意志は他人の意志によって支配され、彼らの精神は、働かせることによって広くされ強められることができたはずなのに、呼び起こされることがなかったのです。彼らは、彼ら自身の心身的能力に対する指導や訓練を受けてこなかったもので、いざという時に最大限の力を発揮することができません。

意志が衝突するとき——子供が強情な場合、自分の責任を理解している母親なら、それが自分から受け継がれたものであることを悟るでしょう。彼女は子供の意志を、碎かれねばならぬものとは考えません。母親のがんこさが子供のがんこさとぶつかるとき、母親の安定した大人の意志が子供の無分別な意志とぶつかるとき、年と経験にまさる母親が子供を支配するか、それとも子供の若く未熟な意志によって老練な意志が支配されてしまうか、という分かれ目のとき、そのようなときには大きな知恵が必要です。なぜなら、ここで愚かな処置をとったり、手きびしく強制的に従わせたりするなら、子供はこの世においても、来世のためにも、だめになっってしまうからです。思慮を欠くことによって、すべてが失われてしまうかもしれないのです。

第3章 人格の基礎をつくる

こういう危機は、めったに招いてはなりません。母にとっても子にとっても、たいへんな戦いだからです。このような衝突を避けるために、十分な注意を払う必要があります。しかし、いったんこのような衝突が起きたなら、子供を親の、よりまさった知恵に従わせるようにしなくてはなりません。母親は自分の言葉を完全に抑制するようにしましょう。大声で命令したりしてはなりません。子供に反抗心を起こさせるようなことは、何もしてはなりません。子供をイエスのもとに引きつけるようなやり方で取り扱うにはどうしたらよいか、研究する必要があります。サタンが子供の意志を打ち負かすことがないよう、母親は信仰をもって祈りましょう。天のみ使いたちがその場を見守っています。

母親は、神が自分の助け主であられること、そして愛こそ自分を成功させるものであり、自分の力であることを、悟らなければなりません。賢明なクリスチャンである母親は、子供を無理に服従させるようなことはしません。彼女は祈ります。そして、祈っているうちに、自分の内の霊的な命が新しくされるのに気づきます。そしてまた、自分の中に働いている力が、同時に子供の中にも働いているのを知ります。子供は無理に強いられる代わりに、導かれ、前よりも穏やかになります。戦いは勝利を収めます。優しい思いやり、しんぼう強い行為、賢明に抑えた言葉、それら一つ一つが銀の絵の中の金のりんごのようです。母親は、言葉では言い表わせない貴重な勝利を得ました。彼女は新たな光を得、経験を豊かにしました。「すべての人を

照すまことの光があつて、世にきた」とある「まことの光」が、彼女の意志を征服しました。雨の後の太陽の輝きのように、あらしの後には平安があります。

親は若々しい感受性をできるだけ保つ——若々しい感受性をできるだけ保って、とげとげしい、同情心のない性質にはならないようにすることがどんなに大切か、気づいている人はほとんどいません。神は、親が、子供の優しい単純さと、大人としての力や知恵や円熟とを、共に持つようにさせたいと望んでおいでになるのです。本当の子供時代というものを経験しなかった大人たちがいます。しだいに芽を出していく時期の、自由と単純さと新鮮さを一度も味わわなかった人たちです。彼らは叱られ、冷たくあしらわれ、小言を言われ、ぶたれて、しまいには、子供らしい無邪気さと信頼に満ちた率直さが、恐れ、羨望、しつと、ごまかしに変わってしまいました。このような人たちが、大人になって、自分のかわいい子供たちに幸福な子供時代を送らせたいと思つても、なかなかできにくいものです。

大きな間違い——子供が支配権を握つて、家庭を支配するようなことは、たいへんな間違いです。これは意志力というすばらしいものを、正しくない方向に向けることです。しかしこのようなことがこれまでされてきましたし、これからもずっとなされるでしょう。父親も母親も

第3章 人格の基礎をつくる



甘やかされた子どもは一生苦労しなければなりません。彼らの心は未熟で、不安と不満があるからです。

盲目で洞察力がなく、先のことが見分けられないからです。

泣く子の言いなりになる母親——あなたのお子さんを正しく導くには、賢い手が必要です。その子はほしいものがあるとき、泣けばそれが手に入ったので、とうとうそんなくせがついてしまいました。泣けば父親がきてくれました。何度も何度も、子供の聞いているところで、その子がどんなに父親を求めて泣き叫ぶかが話されてきたので、その子はいつも必ずそうするようになってしまいました。もしわたしが親なら、三週間あればその子は変わるでしょう。わたしは彼に、わたしの言葉が絶対従わねばならないものであることを理解させます。それから、やさしく、けれど断固として、自分の目的を実行

していきます。わたしは自分の意志を子供の意志に従わせるようなことはしません。ここにあなたがいなければならぬ仕事があります。それをしっかりとらえてこなかったために、あなたには多くのものを失ってしまいました。

甘やかされた子供は一生不幸——注意深く祈りをもつてしつけられることをされない子供はみな、この試練の時代にあつて不幸であり、主が天の家族に加えることがあできにならないような、好ましくない品性をつくつてしまいます。甘やかされた子供は、一生苦勞しなくてはなりません。試練のとき、失意のとき、誘惑のとき、彼は、未熟で間違つた方向に向けられた自分の意志に従つてしまいます。

自分たちの思うがままにさせられている子供たちは、決して幸福ではありません。抑制されない心には、安らぎと満足がないのです。品性が、わたしたちの存在を支配している賢明な法則に調和するようになるためには、心も精神も訓練され、正しく抑制されるようにならねばなりません。不安と不満は、甘やかしとわがままの結果です。

五、模範を示す

子供は親を見習う——子供は親を見習うものです。ですから本当に注意して、正しい模範を与えるようにしなくてはなりません。親が家庭でやさしくて礼儀正しく、それと同時に、しっかりした断固たるところを持っているなら、子供たちにもそうした特質が見られるようになるでしょう。親がまっすぐで正直な、高潔な人なら、その子供たちもそういう点で親によく似た人間になっていきます。もし親が神をあがめ、礼拝しているなら、同じように教育されたその子供たちもまた、きつと神に仕える者となることでしょう。

家庭では、父親も母親も、子供たちに見習ってもらいたいお手本を、常に子供たちの前に示すようにしなければなりません。言葉にも顔つきにも、行為にも、互いにやさしい尊敬の念を表わしましょう。

教訓と模範によって教える——子供の教育にあたる母親は、ずっと学校にいるようなもので

す。彼女は子供を教えながら、自分も毎日学んでいるのです。子供たちに自制ということをお教えるなら、まず自分自身が実行しなくてはなりません。さまざまな気持ちや気分を持った子供たちを扱うには、鋭い知覚力・洞察力を必要とします。これがないと判断を誤って子供たちを不公平に扱ってしまう危険があるからです。もし子供たちに、礼儀正しく親切であってほしいと願うなら、まず自分が家庭生活の中で、親切という原則を実行しましょう。そうすれば子供たちは、日ごとに教えと模範によって、くりかえし教訓を学んでいきます。

学校の先生がたも、あなたの子供たちの教育に尽くしてください。あなたが、しかしあなたの模範こそ、他のどんな方法によるよりもっと多くのことをするので。あなたの態度、仕事を片付けていくあなたのやり方、好ききらいの表わし方、こういったことすべてが、人格形成の手助けをします。子供があなたの中に見る、やさしい性質、自制心、落ち着き、礼儀正しさなどが、子供にとって日ごとの教えとなります。この教育は、時間がいつも進み続けるように、常に続けられます。そして、この日ごとの学校が、子供をあるべきすがたにしていくなければなりません。

子供たちに荒々しくあたらないよう、気をつけなさい。「子供たちに」服従を求めなさい。しかしあなた自身、子供たちに不注意なものの言い方をしないようにしなさい。あなたの態度と言葉は、子供たちの教科書だからです。子供たちの生涯のこの大切な時期に、子供たちをや

第3章 人格の基礎をつくる

さしく親切に助けてやりなさい。あなたの存在という日光が、子供たちの心を明るく照らすようにしなさい。成長期にある少年少女たちは、とても感じやすく、荒々しい扱い方をすると、一生を傷つけてしまうことがあります。お母さんがた、注意してください。決してガミガミ叱ってはなりません。ただガミガミ言っても何にもならないのですから。

自製の模範——子供たちをなるべく興奮させないようにしなければなりません。ですから、母親は、あらゆる興奮やイライラを避けて、いつも冷静で落ち着いていなくてはなりません。これは子供にとっても母親自身にとっても鍛練の場です。子供たちに自制することを教えながら、母親は子供たちのお手本となるよう自分自身を教育していくのです。やさしい関心をもつて子供たちの心の土を耕し、生来の罪の傾向を抑えるようにしてやりながら、母親は、自分自身の言葉やふるまいのうちに聖霊の恵みをつちかっています。

あなたが自分自身に一つでも勝利するなら、それは本当に大きな価値があり、子供たちに対する励ましとなります。

ご両親がた、あなたがたが自分自身を制御できるときに、あなたがたは子供たちの指導に大きな勝利を収めることができるのです。

傷つきやすい人間の心——子供たちに、やさしく語りなさい。「親である自分たち自身」、どんなに傷つきやすい人間か、とがめられるのがどんなにづらいかを思い起こして、自分たちに耐えられないことを子供たちに負わせないようになさい。子供たちはあなたがたよりも弱く、あなたがたよりもっと耐えられないからです。あなたがたが自制し、思慮深く、そして労を惜しまないようにするなら、それはやがて幾倍にも報いられることでしょう。

あなたがたの快活で気持ちのいい言葉が、いつも日光のように家族を照らすようにしなさい。親が子供たちに、正しい人間になって正しいことをしてほしいと思うなら、親自身が考えにおいて実行においても正しくなければなりません。

親は誘惑に対してノーと言わねばならない——お母さんがた、あなたがたは、世に習うことをしないことによつて、子供たちの前に、神に忠実であることの模範を示すことができます。そして子供たちに、ノーと言うことを教えてやることができます。「悪者があなたを誘っても、それに従つてはならない」という戒めの意味を、子供たちに教えなさい。しかし子供たちに、誘惑をはねつけるようになってほしいと望むなら、あなたがた自身がそうできなくてはなりません。子供が、悪いことはいやだと言えるようにしなければなりません、それは大人にとつてももちろん必要なことなのです。

第3章 人格の基礎をつくる

やさしさの手本——ご両親がた、子供たちにやさしく親切にしてやりなさい。そうすれば子供たちは、やさしさということを学んでいきます。わたしたちがクリスチャンであることを、家庭の中であらわしましょう。家庭生活の中で、やさしさや忍耐や愛を実践しないようなら、信仰を告白しても意味がありません。

あらさがしや横柄な態度——イライラした言葉、とげとげしい言葉、カンシヤクを起こした言葉などは、一言も口にしてはなりません。軽率で無慮な言葉を出して、自らをはずかしめるようなことは、決してしないでください。清い言葉を語り、敬虔な態度をとるよう、注意してください。子供たちにこうあってほしいと思うその模範を示してやりなさい。心に平安を持ち、快活な言葉を語り、元気な顔をなさい。

どんな場合であれ、親が高飛車な態度をとることは危険です。横柄で、批判的な、あらさがしの精神を表わしてはなりません。親が語る言葉、語る口調などは、子供たちに、善悪いづれかの教訓を与えます。ご両親がた、もしあなたがたの口から怒った言葉が出たなら、あなたがたは子供たちに、そんなふうに話すよう教えているのです。そして聖霊の洗練する力は、無力にされてしまいます。子供に対する義務を果たそうと思うなら、よい行ないをしんぼう強く続けることが不可欠です。

神のみかたちを印する——あなたがたは自分たちの顔つきや言葉、そして行為が、あなたがたのかわいい子供たちの将来の道に直接影響するということを常に心に留めながら、教え、戒め、忠告するようにしなくてはなりません。あなたがたの仕事は、キャンバスの上に美しい形を描くことでもなければ、大理石から美しい形を刻み出すことでもなく、人間の魂に神のみかたちを印することなのです。

第四章

家庭におけるしつけ

子供がいつも親の言うことをよく聞いてくれて、親にさからわないならば、どんなにしつけがしやすいことでしょう。しかし実際は親は何かをよくしつけようとすると、子供から強い反発を受けます。その理由を考えてみますと、まず小さい子供の場合には、子供の自然の欲求と人間としての社会生活との間にずれがあることをあげることができません。山野に育った自然児には必要のないことでも人間社会に生きなければならぬ子供たちにはどうしても学ばなければならないことが数多くあります。子供は自然に生きたいという強い欲求を持っていますから、自分を束縛するものと対立するようになります。親は社会を代表して、子供がこれからその社会で支障なく生きていけるように、子供の行動に一定のわくをはめようとしています。自然児のままでは、人間の社会に生きてはいけないからです。

このようなわけでしつけということが子供の幼少時に大きい課題となっているのですが、これにもいろいろな考えがなされています。たとえば社会の要求は最小にしてできるだけ自然児に近いほうがよいという考えや、家風に完全に一致するような厳格な行動を求める考えもあります。

この章で著者が述べていることは、善への強い意志力をもつように、子供を教育することです。現代は価値観が多様化していますので、何が善かについて親たちはとまどいを感じることが多くあります。このような状況に対して本書はどんな時代になっても変わらない生き方があるという信念に立っています。

欲望の交通整理としてのしつけであれば、他人に迷惑を及ぼさなければ何をしてもよいという考えが出てもふしぎはありません。しかしそれだけでは道德の乱れに歯止めをかけることはできないのです。人間として本来守るべき道徳があるということは、人間を超えた至上の存在者である神の意志にもとづかなければなりません。神を敬う心が、人間としてあるべき道をふみはずすことなく行動させるのです。

子供をしつける親には信念がなければならぬでしょう。人間は無目的に生きているのではなく、利他愛の輪を拡げるために生きているのだという強い信念を本書は強く主張しています。

しつけの方法として著者が強調していることは、強制ではなく、愛情によって親切にということですが、しかし決して甘やかしてはいけない、甘やかしは子供の性格をゆがめ一生の損失を与えることになるから、とも言っています。親切な心で静かによく教えること、それには時間をとるかもしれませんが、決して短気になつてはいけませんと教えています。しつけは親の忍耐力が試されることでもあります。親が短気になれば子供は親の言葉よりも感情に反応してしまいます。親の怒りやいらだちは子供の心に疎外感や反抗心を生み、しつけは台無しになってしまいます。

この章で感情的な親に子供がどのように反応するかがよく書かれていますが、このように子供の立場から考えることは非常に大切なことと言われています。

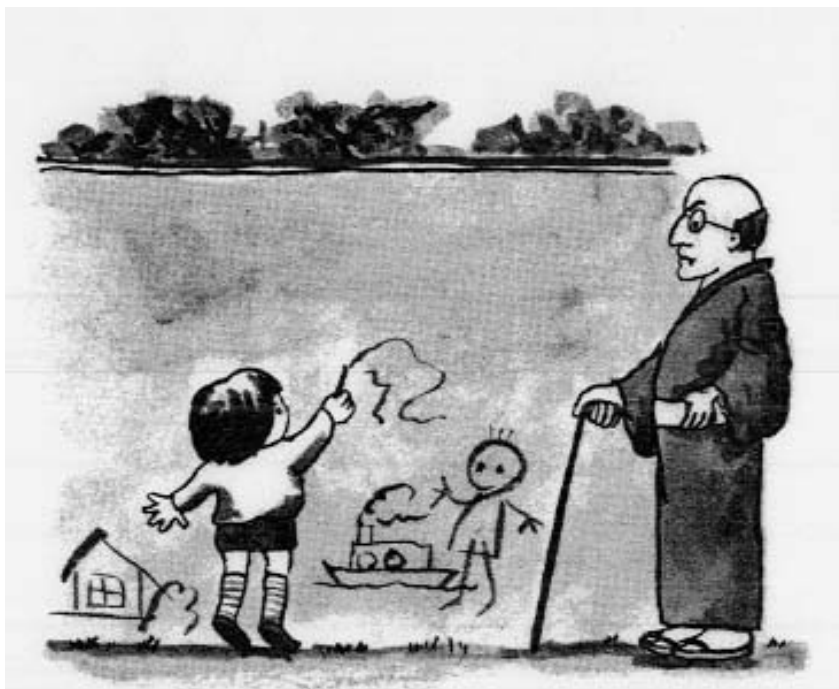
子供の感情や考えを批判しないで受容することは、しつけにおいても必要です。子供は一人の人間として自分の感情や考えを尊重してほしいと思っています。親が言葉や態度で子供を一人の人格として大切にし、子供の求めや悩みを心から聞いてやるべきとき、子供は親の前で自由にのびのびした気持ちを持つようになります。そのような親しい関係を築いてこそ、しつけは意味のあるものとなるのです。親と子が理解し合い、互いの立場と考えを尊重し合うような関係をつくることですが、しつけを成功させることにつながるのです。

しつけは人間としての生き方を教えるものですから実に広く深いものといえるでしょう。親自身が自分をふだんに訓練する気持ちがないと、やがて子供たちは親への尊敬を失うでしょう。ここでも親の真剣な自己開発が求められます。

一、しつけの目標

最高の目標である自制——訓練の目的は自分で自分が治められるように子供をしつけることです。独立心と自制を子供に教えましょう。子供に物事の理解ができるようになったら、すぐに服従ということをしつけさせる必要があります。子供を取り扱うときには、服従することが道理にかなった正しいことだということを示すような取り扱いをいつもしなくてはなりません。子供に、すべてのことには、規則があること、不服従は結局不幸と苦しみの原因となることをさとらせましょう。神がこうしてはいけなとおっしゃるときには、わたしたちを災いや滅びから救うために、愛をもって不服従の結果を警告しておられるのです。

意志を強める——しかるということの真の目的は、悪いことをした本人がその過失をみとめてこれを直そうという意志を持ったときにはじめて達せられるのです。この目的を達すること



しつけの目標は人に迷惑をかけないということだけを教えるではありません。

ができたなら、つぎに許しと力の源を示さなければならぬのです。

生徒たちが有用で尊敬されるおとなになる力は自分の中にひそんでいることを自覚するように、彼らを訓練するものは、最も長つづきする成功をおさめます。

習慣や悪い傾向を正す——抑制し、導き、統御することは親の仕事です。子供たちに子供じみた欲望や気まぐれを全部満足することを許し、彼らの気持ちがおもむくままにすることを放置する親は、それ以上の悪事を犯すことができません。子供たちが自分を喜ばせ楽しませるために生き、自分の勝手な道を選んで、快樂と仲間を見つけるのはよいことだという考えを子供たちの心に持たせることほど大きい悪事はありません。



絶えず監視することはとても悪いことです。

せん。青年たちは、彼らを教育し、彼らの悪い習慣や傾向を正し、また彼らの悪い性癖を摘み取る親を必要としています。

原則に従うようにする——子供たちにしてほしいことをはっきり言いましょう。そしてあなたの言ったことはきまりであって、服従しなければならぬことを、子供たちに理解させましょう。こうしてあなたは、「……しなさい」とか「……してはならない」とはっきり語られている神の戒めを尊ぶように、子供たちに教えているのです。強制されるからではなく、原則だから従うということは、あなたの子供にとってははるかによいことです。

自尊心を築く——子供が自分たちは信頼され

ていると心に銘記できるように彼らを扱うべきです。彼らは自尊心を持っていて、尊敬されることを求めています。またそれは彼らの権利でもあります。もし生徒たちが、行ったり来たり机に向かつて坐ったり、そのほかどこにいくにも、自分の部屋にいくのにさえ、監視つきで、いつも批判とつげ口をされていると感じるならば、彼らは萎縮し、気晴らしも楽しくできなくなります。絶えず監視することは、親の保護の範囲を越えたことで、とても悪いことです。賢明な親であれば、表面に表われないものを目ざとく見つけ、物にあこがれたり誘惑を受けたりして落ちつかない子供の心の動きにに応じて、悪を防ぐ計画をたてることができます。絶えず監視することは不自然ですし、避けなければならぬ弊害を生じます。子供たちが健康であるためには、運動や快活さや幸福な楽しい雰囲気に含まれていることなどがが必要です。こうして彼らの体が健康になるばかりか、調和のとれた健全な品性が発達するのです。

自立心を養う——しつけを受けているあいだは大変よくしつけられているように見える子供がたくさんいます。しかし彼らを規則にはめて訓練する組織が壊れると、彼らは自分で考えることも、行動することも、また決断することもできなくなるのです。このような子供たちは長い間鉄の規則にしばられて、当然そうすべきであるのに自分で考えたり行動することを許されなかったので、自分の意見をもち、自分の判断にもとづいて行動する自信がないのです。です

から親からはなれ自分で行動するようになりますと、彼らはたやすく人の判断に動かされ、誤った方向に行くのです。彼らの人格は安定しません。彼らはできるだけ実際的にしっかりと自分の判断に頼るようにならなければならないので、彼らの精神は正しく啓発されず、強くなっていないのです。このような子供たちは長い間完全に親に支配されてきたので、親に全面的に依頼するようになりました。その子供たちにとって、親は彼らの心となり判断となっているのです。

しかし一方、子供は親や教師の判断を離れて、気ままに考えたり行動したりするように放置されてはなりません。子供たちは経験が豊かな親や教師の意見を尊重し、導いてもらうことを学ばなければなりません。彼らは自分たちの考えが親や教師の考えと一致するように教育され、またその勧告に耳を傾けることを好んでするように訓育されなければなりません。そうすれば子供たちが親や教師の指導の手を離れていくとき、彼らの品性は風に揺れ動く葦のようにはありません。

子供たちは自分の能力と生来の思考がそうさせるように、自分で考え自分で行動するように正しく自分を方向づけ、それによって、思考を発達させ、自尊心をもち、自分の力で実行する自信を得るようにならなければならないのです。そのような方向づけのないきびしいしつけは、つねに知的にも道徳的にも弱い人間をつくり出すものです。彼らが世に出て自分で行動しようとするとき、彼らは教育をうけたのではなく、動物のように訓練されてきたことを表わすでし

よう。その子供たちの意思は親や教師のきびしいしつけに強制的に従わせられたのであって、指導を受けたのではないのです。

個性を奪ってはならない——子供の心も意思も完全に自分の支配下にあると自慢している親や教師は、強制的にあるいは恐怖によって服従させられた子供たちの将来の生活がどんなものとなるか想像できたなら、自慢することをやめるでしょう。これらの子供たちは人生のきびしい義務を果たしていく準備が何もできていないのです。彼らが親や教師からはなれ、自分で考へたり行動したりしなくてはならなくなったとき、彼らはほとんどきまって誤った道を選び、誘惑の力に負けるのです。このような子供たちはこの世の生活にも成功しませんし、宗教生活にも同じような欠陥があることが分かります。子供や若者の教育者たちは、間違ったしつけの結果を目の前にはっきり示されたら、その教育計画を変えることでしょう。生徒たちの意思をほとんど完全に統御していると満足している教師たちは、当分の間は得意に思っているけれども、成功をおさめる教師ではないのです。

神は一人の人間の心が他人に完全に支配されるようには決して計画されませんでした。ですから生徒の個性を自分の個性で消し、生徒にかわって生徒の考えや意思や良心になるうとする教師は、恐ろしい責任を引き受けているのです。これらの生徒たちは、ある場合、よく訓練さ

れた兵士のように見えるでしょう。しかし拘束が除かれたとき、彼らはしっかりした原則に立つ自主的な行動が自分たちのうちに欠けていることに気がつくのです。

熟練と辛抱強い努力が必要——子供を正しくしつけるには熟練と辛抱強い努力が必要です。ことに親の罪の直接の結果である悪い遺伝の重荷を負って生まれてきた子供たちは、道徳的知的能力を強めのばすために、もっとも注意深く養育される必要があります。その場合、親の責任は非常に重いのです。悪い傾向は細心の注意を払って抑制し、やさしく言ってきかせなければなりません。また正しいことをするように励ましてやるべきです。子供の自制しようとする努力を励ましてあげましょう。こうしたすべてのことを思慮深くしましょう。さもないと望ましい目的が達成されないからです。

二、しつけの与え方

従わない子供たち——終末時代のしるしの一つは、子供が親に従わないことです。それにしても親は自分たちの責任を自覚しているでしょうか。多くの親は、いつも子供を用心深く見守ることを怠り、子供たちが悪感情にとらわれて親にさからうままにしているのです。

子供たちは神から与えられた遺産です。彼らが主の道を守ることができるよう教育しないならば、親は厳粛な義務を果たしていません。子供たちが不法で乱暴で、粗野になり、不従順で感謝せず、邪悪な心もち、わがままで、高慢で神より快楽を愛するようになることは、神の意思ではありません。このような社会の状態は終末時代のしるしだと聖書は述べています。

しつけを始める時期——子供が自分の意思と道を選び始めるようになるそのとき、しつけという教育を始めるべきです。これは無意識の教育と呼ぶことができます。この時が親の側の意識的な力強い働きを始めるときです。この働きの最も重い重荷は当然母親に負わせられます。

彼女は最初に子供の世話をする人であり、彼女こそ子供が強い均斉のとれた品性を育てるのを助ける教育の基礎をつくる者なのです。

子供のうちに頑迷な性質が強くなってしまいうまでしつけや訓練を怠ることは、その子供に対してもっともひどい仕打ちをすることにほかなりません。そうすれば子供は自分本位で強情でかいげのないものに育つからです。その子供は、他の子供たちが友達との交わりをたのしんでいるのにくらべて、自分の友達との交わりは少しもたのしむことができないのです。母親の仕事は、幼いものたちの心や性質を支配する機会をサタンに与えないように、早期に始めなければなりません。

乳児期から——子供があなたの腕にだかれている赤ん坊のうちに、しつけを始めましょう。あなたの意志に自分の意志を従わせるように赤ん坊に教えるのです。これは公平な態度を保ち、きつぱりした態度を示すことによってすることができます。親は自分の気持ちを完全に抑制し、温和で、しかも確固とした態度をもって、赤ん坊が親の考えに従う以外は何も要求しなくなるまで、赤ん坊の意志を従わせるようにしなければなりません。

親がしつけを早期に始めないで、最初にあらわれたかんしゃくを抑えないならば、その子供は強情になり、子供が大きくなり体力をつけるに従ってその強情さもますます強くなってしま

います。

訓練の最大の障害は盲目な親の愛情——親の怠慢の罪は広くゆきわたっています。自然のきずによって結ばれている者たちに対する盲目的な愛情があちこちで見られます。この愛情は行きすぎることがあり、神の知恵や神への畏敬と釣り合いがとれません。盲目的な親の愛情は、子供の正しいしつけに最大の障害となります。盲目的な愛情のために、ときどき、親は理性を失っているように見えます。それは悪者のあわれみ、つまり愛情に変装した残酷さなのです。それは子供を滅びに押し流す危険な暗流です。

親は神の律法に従うことを犠牲にして、生来の愛情におぼれる危険にたえず直面しています。子供を喜ばすために、神が許されないことを許す親が多くいます。

偏愛からくる間違い——親が自分の子供を偏愛するのは当たり前のことです。ことに親が他の人よりもすぐれた能力を持っていると思う場合、彼らは自分たちの子供はよその子供よりすぐれていると思います。ですから他人に対してはきびしく非難することでも、自分の子供に対しては、気がきいて頭がよく、働くといっただけで見逃すのです。偏愛は当たり前のことですが、それはクリスチャンが持つべきではなく、正しいことではありません。子供の欠点を正さないで



両親の笑いとおどやかな会話のある家庭に明るく物おじしない子どもが育ちます。

くとき、わたしたちは彼らに大きな間違いをしているのです。

父母の協力——子供の中にクリスチャン品性の基礎を据える仕事に母親は常に父親の協力を求めましょう。子供を溺愛する父親は、子供の過ちを直すのが愉快な仕事ではないので、それを大目に見てしまいます。

子供の心に正しい原則を植えつけなければなりません。両親がしつけにおいて互いに協力するならば、子供は自分に何が要求されているかを知ることができます。しかし、もし父親が言葉や表情で、母親のしつけに賛成しないそぶりを見せたり、厳格すぎると思ったり、そのきびしさを甘やかし溺愛することによって埋め合わせようとするとするそぶりを見せるなら、子供の心は

損なわれます。同情的な親は偽りを行ない、やがて子供は自分の思うままにすることができ、ことを学びます。子供にこのような罪を犯している親は、彼らの魂の滅びに対して責任があるのです。

愛情と権威の結合——家庭内に太陽が輝くように天よりの恵みがあなたの心を照らすようにしましょう。平和と愉快的言葉、明るい笑顔があるようにしましょう。こうすることは盲目的な愛情ではありません。これは愚かな溺愛によって罪を助長し、残酷そのものである誤ったやさしさではありません。またそれは子供に支配することを許し、親を子供の気まぐれの奴隷とする誤った愛情ではありません。そこには親の偏愛や圧迫があってはなりません。愛情と権威が結合して生ずる影響力のもとにあつて、家庭の正しい形態ができ上がるのです。

両親は家庭の光——両親は家庭の光です。快活な言葉や心を和らげるような声で、その光を輝かせなさい。神に自制心を求め、すべてのとげを取り除きなさい。そのとき使いは、あなたの光を認めて、あなたの家に住むでしょう。あなたが子供たちに与える訓育は、強く清らかな流れとなつて、正しく治められた家から世へと出ていくのです。

親の權威を認める——むかしは親の權威は認められていました。子供は親に服従し、親を恐れ敬いました。しかし現代はそれが逆になりました。ある親は子供の言いなりになっています。彼らは子供の意志に逆らうことを恐れ、子供に従います。しかし子供が親と共に一つの屋根の下に住み、親に依存している限り、子供は親に従うべきです。親は自分たちの正しい考えが現実に達成されるように求め、決断をもって行動しなければなりません。

故意の不服従が止まない場合は強い処置をとる——子供を甘やかし、安易な道を愛する親は、始末におえなくなった子供が家をとび出すことを心配して、正当な權威を行使することを恐れます。子供が家にとどまって、親の扶養を受けて生活していながら、人間や神のすべての權威を踏みじめることを許すよりは、家を出ることを許すほうが、ある子供にはよい場合があります。そのような子供たちには、彼らが望ましいと思う独立をさせ、生きていくのには努力が必要であることを学ばせることは、有益な経験になるでしょう。家を出ると言っておどかさずに親はこう言うことができます。「もしおまえがこの家にふさわしい正しい規則に従うよりも家を出た方がよいと決心するならば、わたしたちはそれをとめない。おまえを子供るときから世話してきた親よりも、世間の方が親切だと思うなら、おまえは自分で自分の誤りを学ばなくてはなりません。お父さんの家に帰ってきて、親の權威に従いたくなったら帰ってきてきなさい。」

責任は互いに負わなければならない。おまえが衣食住を親の世話になっっている間は、家の規則や健全なしつけに従う責任がある。わたしの家をたばこの悪臭や神を汚す行ないや酔っぱらいで汚すわけにはいかないのだ。わたしは神の使いがこの家の中に入ってくるのを望んでいる。もしおまえがサタンに仕えることを堅く決心しているのなら、おまえは家にいるのと同じように、おまえが好きな社会の人たちと楽しくやっていけるだろう。」

このような道は多数のものの生活を墮落から阻止することもあります。しかし多くの場合、子供たちは自分たちがいちばん悪いことをしていると知っているのに、愚かな母親は彼らのために弁護し、彼らの罪をかくします。親に逆らう多くの子供は、親が自分を制する勇氣を持たないといつて得意になります。……そういう親たちは子供に服従を強いません。彼らは子供の放縦を助長し、自分の愚かな溺愛によって神をはずかしめます。学校や大学で統御しにくい最も困難な事態をひきおこすのは、このように反抗的で墮落した青年たちです。

善を行なうことに疲れてはならない——親の仕事は止むことがありません。それは今日一生懸命やって、明日はあそかにしてよいというものではありません。仕事にとりかかる人は多いのですが、それを持続する意志がありません。彼らは何か大きいことをしたり、大きい犠牲を払うことには熱心ですが、日常生活の小さいことに、辛抱強く心を配り、努力して、わがま

まな性質を直し、訓練し、また必要に応じて少しずつ教え、叱り、励ますことなどは消極的です。彼らは子供たちが、気長にしないで一足飛びに頂上をきわめ、すぐに過ちを直し、正しい品性を築くように望むのです。そしてこの希望がすぐに実現しないと云って失望します。このような人たちはみな、「わたしたちは善を行うことに、うみ疲れてはならない。たゆまないでいると、時が来れば刈り取るようになる」と云った聖書の言葉を思い出して、元気を出すべきです。

子供の個性に合った方法——わたしは母親たちが、他の人たちが持っている家庭を治める才能は自分たちにはない、それは自分たちが持ち合わせていない特殊な才能だと言うのを聞ききました。この点で自分の力が足りないことを認める者は、家庭を治める方法を一生懸命に研究すべきです。しかし、人の言うことを鵜呑みにして、たとえそれが有益なものであっても、よく考えずに採用してはなりません。それらのものはどこの母親の環境にも、また家族の子供ひとりびとりの性質や気質にも適応するとは限らないのです。母親は注意深く人々の経験を研究し、人の方法と自分の方法の違いに注意し、本当に価値があると思われるものだけを注意深く試してみなさい。一つのしつけの方法によって願っていたような結果が得られない場合には、他の方法を試み、その結果を注意深く書き留めましょう。

母親はだれよりも考えることと研究する習慣を身につけましょう。このようなやり方を守っ

ていけば、自分に欠けている能力を学んでいること、また子供たちの品性を正しく形成することとを学んでいることが分かります。この働きに払われた労力と配慮の結果は、従順、素朴、謙遜、純潔となって子供たちのうちに見られ、なされたあらゆる骨折りが豊かに報いられます。

愛情と義務を両立させる——子供を扱うには、原則や結果が大きく異なる二つの方法があります。神のみ言葉の教えに従って、知恵と固い決意に結ばれた誠実と愛は、この世においても来るべき世においても幸福をもたらします。義務の怠慢、思慮のない甘やかし、また子供の愚かな行為を禁じたり矯正したりするのを怠ることは、子供には不幸と決定的な破滅を、また親にとっては失望と苦悩をもたらします。

愛情は義務という双子の姉妹を持っています。愛情と義務は並んで立つものです。義務がなおざりにされて愛情がひとり歩きをすれば、子供は強情になり、わがままな、ひねくれた性質をもち、自分本位で不従順な子供となります。心をやわらげ、引きつける愛がなく、ただきびしい義務感だけが残る場合も同じような結果となります。義務と愛情は、子供を正しくしつけるためには混じり合わなければなりません。

短所が矯正されないと不幸を生じる——子供がしたいと思っていることをやめさせ、子供の

考えに反対する必要があると思われるときには、親が自分の満足や横暴な権威を振るいたいためにするのでなく、子供のためになることを思っただけのことである。子供に強く印象づけなければなりません。矯正されない短所はどれも彼自身に不幸をもたらし、神に喜んでいただけないことを子供に教えましょう。このようなしつけを受ける子供たちは、自分の意志を天の父のご意志に従わせることに、最大の喜びを見いだします。

自分の衝動や傾向に従う子供は、現世で真の幸福を持つことができず、やがて永遠の命をも失ってしまいます。

愛情は家庭の法則——神の統治の仕方は、模範的な子供の教育法でもあります。主のご奉仕には何の圧迫もないのですから、家庭や学校においても圧迫があってはなりません。しかし親も教師も、自分たちの言葉が無視され、一顧もされずに終わるようであってはなりません。もし彼らが子供たちの悪い行いを矯正することを怠れば、神はその怠慢の責任を彼らに負わせられます。しかし、彼らがそういう非難を受けないでするようにさせましょう。愛情を家庭や学校の法則としたいものです。主の律法を守ることを子供たちに教え、しっかりした愛情のこもった感化を与えて、彼らを非行に走らないようにさせたいものです。

子供の無知に対する思いやり——親は家庭で、神のご性質を代表する者とならなければなりません。ですから、あなたがたは口やかましく服従を要求するのではなく、親切な愛情深い態度でそうしましょう。心にいつくしみを満たして子供たちを自分にひきよせましょう。

家庭では快活に振る舞いましょう。悪い感情を起こすような言葉はすべて慎みましょう。「父たる者よ。子供をおおらせしないで、育てなさい」とは神のご命令です。子供たちはまだ幼く、経験も足りないことをおぼえてください。彼らを監督し、しつけるときは、しっかりした態度で、しかもやさしくしましょう。

子供はいつも善悪を正しく判断できるとは限らないのです。しかも彼らは、悪いことをするとやさしく言いかけられないで、手荒く扱われることがたびたびあります。

神のみ言葉には、親がきびしすぎたり、子供を圧迫したりすること、また子供が親に従わないことは全く容認されていません。家庭生活や国家を治める神の律法は、限らない愛の心から流れ出ているのです。

将来性のない子供に対する思いやり——わたしは、間違いを犯している子供たちには、キリストの知恵をもって対処できる親が必要であると思っています。最も大きな忍耐と親切、この上なくやさしい思いやりが必要なのは、将来性のない子供たちです。しかし、多くの親は冷た

く同情のない気持ちをあらわしますが、これは、誤りを犯している子供たちを、決して悔い改めに導くものではありません。だから、キリストの恵みによって両親の心がやわらげられるようにしよう。そうすれば、キリストの愛が心に通じる道が見いだされるのです。

救い主の法則は「人々にしてほしいと、あなたがたの望むことを、人々にもそのとおりによ」です。青少年の教育にたずさわる者はだれでもこの言葉を法則としなければなりません。どんなに頭の鈍い子供に対しても、どんなに幼い子に対しても、どんなにへまなことばかりする子に対しても、そしてまた過失を犯したり反対したりする子に対してさえも、キリストのこの法則を神聖に守らなければなりません。

すっきりとほめる——子供がよいことをするときにはほめてやりましょう。すっきりとほめられると、子供たちは大きい力を受けます。これは、理解力が増す年長のものにとっても同じです。家庭という神聖な場所では、決して気むずかしくあってははいけません。クリスチャンの丁重さを大切にし、子供たちがあなたを助けてくれることに感謝し、またほめてやったりして、親切なやさしい心を持つようにしましょう。

快活にやさしく——快活にしましょう。大きな声で感情的な言葉を語ってはなりません。子



ほめることは認めてあげることです。子どもにとって親に認めてもらうことほどうれしいことはありません。

供を制し、しつけるときは、しっかりと、しかもやさしくしましょう。家族の一員としての義務を果たすよう、彼らを励ましましょう。悪いことをしそうな傾向を、子供たちが抑えようとして努力しているのをあなたが認めていることを、分からせましょう。

子供たちがそれぞれに家庭の責任を持つようになるとき、彼らにそうなってほしいと思うようにあなた自身がなりなさい。彼らに語ってほしいと思うように、語りなさい。

声の調子に注意する——感情的でない、もの静かな、まじめな声でいつも語りなさい。言ったことをすぐに守らせるようにするのに、感情は必要ではありません。

親としてあなたがたは、子供に対して責任が

あります。彼らをどんな影響の下におくかに注意しましょう。叱責したりいらだったりして、子供たちへの感化力を失ってはなりません。あなたがたは彼らを指導しているのであって、彼らの感情を乱しているのではありません。あなたがたはたとえ何かに怒っていても、決してそのいらだちを声に出してはなりません。

横暴な親——家庭で横暴な支配者になっている親は、恐ろしい誤りを犯しています。彼は子供の心の中の愛を冷やし、愛情が行為と言葉になって流れ出るのをとどめます。このような親は、子供ばかりでなく自分自身にも誤りを犯しているのです。子供にしてやった親切と忍耐と愛は、親にもどってくるのです。彼らがまくものは、彼らが刈り取ることになるのです。

あなたが正しいことをしようとするとき、正しさにはいつくしみという姉妹がいることを覚えましょう。この二つのものは並んで立ち、離すことができません。

きびしさは好戦的な気持ちをひきおこす——愛の混じり合っていないきびさと正しさは、子供を正しい行動に導きません。子供の中にどんなに早く好戦的な精神が生じるかに注意してみましょう。ところで、彼らを取り扱うのに、単なる強制よりもよい方法があります。正義は愛という双子の姉妹を持っているのです。あなたが子供を扱うときには、愛と正義が固く手を

握るようにしましょう。そうすれば、あなたは必ず、あなたの努力に協力して下さる神の助けを受けることができます。あなたの恵み深いあがない主であられる主は、あなたを祝福し、あなたにその心と恵みと救いを与えて、神が嘉納される品性をあなたが持つことができるようにと望んでおられます。

愛情深いやさしさをもってしかる——たしかにあなたは、子供たちの側に欠点やわがままを見るでしょう。ある親は子供をしかって罰しても、それが何の益にもなっていないとあなたに話すでしょう。そのような親には新しい方法をさせてみたらよいのです。彼らの家族を治めるのに、やさしさと愛情と愛を混ぜ合わせながら、しかも正しい原則に対しては、岩のごとくしっかりと立つようにさせるのです。

子供を扱う者はだれひとり、鉄のような心を持たず、いつくしみ深く、やさしくあわれみに富み、親切で人をひきつけ、人づきあいをよくしなければなりません。しかも悪い行いを断固としてやめさせるためには、時に叱責や譴責の言葉すら語らなければならないこともあることを知っていないくはなりません。

きびしくても甘やかしすぎてもよくない——わたしたちはきびしい譴責によって子供を失望

させたり、感情的な懲罰によって彼らを怒らせたり、そうかと思うと、気が変わると息がつまりそうになるほど愛撫したり、不適当なほうびで彼らの心を損なったりするしつけには、何の共感も持つことができません。甘やかしすぎたり、不当な厳格さは、どちらも避けなければなりません。油断なく、注意していることと堅固さは、なくてはならないものですが、同じようにまた、やさしさもなくてはならないものです。

あなたがた親としては、誘惑と戦っている子供たちを扱うのであり、彼らにとってこれらの悪い刺激は、大人を襲う刺激と同様に拒みがたいものであることをおぼえなさい。正しいことをしたいと心から願う子供は、幾度も失敗するかもしれませんが、元氣と忍耐力とをたびたび励ましてやらなければならないかもしれません。このような子供の心の営みを、祈りをこめた心づかいをもって見守りましょう。よい感情はみな強くしてやり、立派な行為はみな助長してやりましょう。

変わらない堅固さと愛の共感——子供は敏感な愛らしい性質を持っています。彼らはちょっとしたことで喜び、ちょっとしたことで怒ります。愛のこもった言葉や、身をもって示すやさしいしつけによって、母親は子供を自分の心に結びつけることができます。変わらない堅固さと冷静な操縦法が、どこの家庭のしつけにも大切です。あなたの言いたいことを冷静に言い、

思慮深く行動し、言ったことからはずれないであなたの言葉を実行しなさい。

子供との交わりにおいて愛情を表わすことは、十分に報われます。彼らの子供らしい遊びや、喜びや悲しみを共に味わうことをせず、彼らを寄せつけないことがあってはなりません。決してひたいにしわをよせたり、口からとげとげしい言葉を出してはなりません。

甘やかしは悪い結果を生む——やさしさですら限度がなければなりません。権威は揺るぐところのない厳格さをもって維持されなければなりません。そうでないと、たびたび権威があらわれたり、ないがしろにされたりするようになるでしょう。親や保護者が子供に対して用いているいわゆる愛情というものや、なだめたり甘やかしたりすることは、子供たちにとって最悪のものです。堅固さと決断力と、断固とした要求がどの家族にも必要です。

自分の過失を自覚する——父親も母親も、自分たちが成長した子供にすぎないことを自覚しましょう。たとえ彼らの道がすぐれた光に照らされ、彼らが長い経験をもっていたとしても、彼らはどんなにたやすく羨望や嫉妬や、悪い推測にあり立てられることでしょう。自分自身の過失や誤りを覚えて、彼らは誤りを犯している自分たちの子供を、やさしく扱うことを学ばなければなりません。

あなたはときどき、あなたが話しておいたことと反対の方に子供が行ってしまうために、遂方に暮れることがあるかもしれません。しかしあなたは、あなた自身が主からなすように命じられたことと反対のことをすることが、幾度もあることを考えたことがあるでしょうか。

愛と信頼を得る方法——親も教師も、彼らが子供や生徒たちと十分に交わらないで、命令し指図しすぎる危険があります。彼らはあまりに打ち解けない態度で彼らの権威をふるっているので、子供や生徒の心を獲得することができません。もし彼らが子供を近くに集め、彼らを愛していることを示し、たとえばスポーツでも彼らがしているすべてのことに、興味を示し、時には子供となって彼らの遊びに加わるならば、彼らは子供たちを非常に楽しくさせて、彼らの愛と信頼を得ることができます。また子供たちは、親と教師の権威を尊敬し愛することを、もっと早く学ぶでしょう。

キリストをまねる——キリストは身分の低い者、貧しい者、苦しむ者とご自分を一つにされました。彼は幼な子を腕にだき、若い者の水準にまで下られました。その大きな愛の心は、子供たちの試練や必要を理解することができました。イエスは子供たちが幸福であることを見て、お喜びになりました。雑踏した町の騒音と混乱に疲れ、狡猾で偽善的な人との交わりにうんざ

りしたイエスの心は、無邪気な子供たちとの交わりに休息と平安を見つけました。イエスがいديになっても、子供たちは逃げたりしませんでした。天の主権者は身を低くして子供たちの質問に答え、ご自身の大切な教えを、子供に理解できるようにやさしくされました。彼は若くふくらむ心に真理の種をまかれました。それは芽を出し、時がくれば豊かな収穫を与えるのです。

過ちを犯した青年——わたしはあなたのお手紙を、興味と同情をもって読ませていただきました。あなたのおすこさんは、かつてなかったほどに父親を必要としていると思います。彼は過ちを犯しました。あなたはそれを知っています。彼もあなたがそれを知っていることが分かっていきます。そして彼が何も悪いことをしていなかったとき、あなたが言っても何でもなく、何の悪い結果も生じなかったような言葉が、今は彼にとり不親切でナイフのように鋭く思えるのです。自分たちに身を切るようにつらい恥をかかせた子供の悪事を、親が恥ずかしく思うことはわかります。しかし、神の子としてわたしたちが天の父のみ心を痛めるほどに、地上の親の心を痛め傷つけているでしょうか。天の父はこれまでずっと私たちを愛して来られ、また今でも愛しておられます。そしてわたしたちの罪とがを悔い改めて、神に帰るように招いておられます。天の父はわたしたちの罪をゆるしてくださるのです。

今あなたの愛を引っこめてはなりません。あなたの愛と同情がいちばん必要なときです。人があなたのむすこの過失を冷たい目でながめ、それにひどい判断をくだすとき、父と母こそは、あわれみのこもったやさしさをもって、彼の歩みを安全な道に導くべきではないでしょうか。わたしはあなたのむすこさんの罪がどんな性質のものであるかは知りませんが、たとえばそれがどんなものであろうと、このように言うことができると思います。つまり、正しいことをしていると思うている人々の批評や、その人たちの人間的な反応に圧迫されて、あなたがむすこの信用を回復してやり、彼の罪を忘れるようなことは、あまりに恥ずかしくてできそうもないと思っているのではないかと、あなたのむすこに解釈されるような行動をしてはならないということです。何もかもあなたの望みを失わせてはなりません。過ちを犯したあなたのむすこさんに対する愛とやさしさを、何もかも断つことがあってはなりません。彼は間違いを犯しているというだけであなたを必要とし、サタンのわなから自分を立ち返らせるために、父や母に助けてもらいたく思っているのです。信仰と愛によって彼をしっかりと引きとめ、彼にはあなた以上に関心を持っておられるお方があることをおぼえて、あわれみに富んだあがない主にすぎりなさい。

失意や失望をひきおこすことを語ってはなりません。勇気をひきだす言葉を語りなさい。彼は自分を回復できるのです。父と母が上から彼をしつかり支えてやり、堅い岩であるキリスト

・イエスの上に立たせて、イエスのうちに確実な支えと信頼できる力を見いださせてくれることを話さない。もし彼の過失が非常に悲しむべきものであったとして、それを絶えず思い出させ心を重くしたら、あなたのおすこさんはいやされないでしょう。死から魂を救い、多くの罪を犯すことから魂を守るためには、正しい方針による行動が必要です。

短気を克服するには神の助けを求めなさい——わたしはあらゆる父親と母親に言いたいと思います。もしあなたが短気な気性を持っているなら、それに勝つために神に助けを求めなさい。短気を起こしたときは自分の部屋に行ってひざまずき、あなたが子供たちの上に正しい感化力を持つことができるように、神に助けを求めなさい。

母親たちよ、あなたがたが短気に負けて子供たちをひどく扱うとき、あなたがたはキリストに学んでいるのではなく、別の支配者に学んでいるのです。イエスは言っておられます、「わたしは柔和で心のへりくだった者であるから、わたしのくびきを負うて、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。わたしのくびきは負いやすく、わたしの荷は軽いからである」と。あなたがたが仕事を困難に思うとき、困難や試練をつぶやくとき、また試練に耐える力がないと言うとき、あなたは短気を克服することができません。

永遠を考える——教会はがまん強く忍耐深く、謙遜で静かな精神の持ち主を必要としています。家族の者を扱う場合、このような態度を彼らに学ばせましょう。子供たちの目の前の満足を考えるよりも、彼らの永遠の関心事について親がもっと考えるようにさせましょう。子供たちを主の家族の子供と見るようになり、子供たちが聖なるみかたちを反映するように教育し、しつけさせましょう。

三、子供の間違いを正す

知恵を祈り求める——家庭内では強く服従を求めましょう。しかしそうするために、子供といっしょに神に願ひ、神が導いてくださるよう祈りましょう。子供は罰を与えなければならぬようなことをするかもしれませんが。しかし、もしあなたがキリストの精神をもって子供を扱うならば、彼らはあなたにしがみつき、主の前にへりくだって、自分の悪かったことを認めるでしょう。それで十分です。そのときはもう罰する必要はありません。わたしたちが一人一人の魂に達することができる道を、主が開いておられることを感謝しましょう。

子供が不従順なときは矯正すべきです。彼らを矯正する前に、ただ一人主のみもとに行って、子供の心をやわらげ、しずめてくださるように、また彼らを扱う知恵を与えてくださるようと祈りましょう。わたしはこの方法が失敗した例を一つも聞いたことがありません。心が感情で波立っているとき子供に霊的なことを理解させることはできないのです。



父親は子どもにとって社会の代表です。やさしく、ものわかりがよいだけでは父親としての資格は不十分です。子どものわがままな気持ちをはね返す力強さが必要です。

怒りをあらわさない——忍耐をもって子供を教えなさい。時には子供を罰しなくてはならないこともあります。しかし、決して彼らが怒りをもって罰せられたと感じるような方法で罰しはなりません。あなたはそのようなやり方は、もっと大きな悪を行うだけです。両親が主の勧告に従って子供を訓育すれば、家庭内における多くの不幸な不和を避けることができるでしょう。

怒りは悪を増大させる——あなたは愛をもって子供を矯正しなくてはなりません。子供をしたい放題にさせておいた上で、怒り、彼らを罰するようなことをしてはなりません。そのような矯正の仕方は、悪を正す代わりにそれを助長するだけです。

あやまちを犯した子供に対して怒りの感情を表すことは、悪を増大することになります。それは子供の最悪の感情をひきおこし、あなたが彼をかわいがっていないかのように思わせます。あなたがもし自分を愛しているならそのような扱い方はできないはずだと、彼は自分に言っ
てきかせるのです。

拒絶するのではなく、受容してやって、矯正するなら、どんなに恵まれた結果になるかを知
でしよう。

どうぞ怒りをもって子供を矯正しないでください。そのようなときこそ特に、あなたは謙遜
と忍耐と祈りとをもって行動してください。そのときこそ、子供といっしょに神の前にひざま
ずいて許しを求めるべきときです。親切と愛をあらわすことによつて、彼らをキリストにみち
びくように努めなさい。そうすれば、地上の力よりもっと強い力があなたの努力を助けてくだ
さることがわかるでしょう。

子供をどうしてもこらしめなくてはならないときは、声を高めてはなりません。自制心を失
わないようにしましょう。子供を教えさすときに怒る親は、子供よりも大きなあやまちをし
ているのです。

叱責やいらだちは役に立たない——とげとげしい怒りの言葉は、天から出たものではありません。

せん。しかったり、いらいらと怒ったりすることは、決して助けになりません。それどころか、それは人間の心にある最悪の感情をかき立てます。子供が悪いことをして反抗心に満たされているとき、そしてあなたがとげとげしいことを言ったりしたりしたくなるとき、子供をこらしめることはちよつと待ちなさい。彼らに考える機会を与え、あなたの気分をしずめましょう。

あなたが子供をやさしく親切に扱えば、子供もあなたも主の恵みを受けます。

短気の口実はない——親が気分のすぐれないことを、自分の間違つたやり方の言いわけにすることが時々あります。彼らは神経質で、自分は忍耐深く落ち着いて気持ちよく話すことはできないと考えます。こうして彼らは自分自身をあざむくのです。彼らはいつでも自制することができますし、自制しなければなりません。神はそうすることを彼らに要求されるのです。

時々労働で疲れたり、気苦労で心が重くなるとき、親は平靜な気持ちを保つことができず、神を悲しませ、家族の者を暗くするような忍耐のなさを表わすことがあります。ご両親がたよ、あなたがいらいらするとき、家中をこの危険なおこりっぽい気持ちで毒するような、恐ろしい罪を犯してはなりません。そのようなときは自分を二重に警戒し、快活で気持ちのよい言葉だけを口から出すように心がけましょう。あなたはこのようなに自制心を働かすことによって強くなるのです。あなたの神経組織はそれほど敏感でなくなります。

時々家庭内で、すべてのことがうまくいかないように見えることがあります。至るところにいらだちがあり、すべてが非常にみじめで不愉快に思えます。親はさわぎの原因が自分にあるのに、気の毒な子供たちを責め、彼らが不従順で手に負えない、世界中で一番悪い子供だと考えます。神はこのような親たちに自制心を働かせるよう要求されます。彼らは自分が短気やいら立ちに負けるとき、ほかの人たちを苦しめることに気づかねばなりません。周囲の者は彼らが表わす感情によって影響されます。次にその人たちが彼らと同じ気持ちで行動すれば、弊害はますますひどくなります。

沈黙は力がある——人を治めようと思えばまず自分自身を治めなければなりません。親でも教師でも、がまんがでなくなつて、おもしろくない言葉が口から出そうになつたときは口をおさえましょう。沈黙にはふしぎな力があります。

命令を少なくして服従を求める——母親は人の前に自分の権威を示そうとして、 unnecessary 要求をしないように注意しましょう。命ずることは少なくして、それに子供が服従するかどうかを見るのです。

子供をしつけるときには、子供にしなさいと言ったことをさせないで放っておいてはなりません。

せん。またあなたがしてはならないと言ったことを彼らがしてしまうことがあっても、あなたは彼らの保護者の務めを怠けてはなりません。

命ずるときには、みな子供のためにいちばんためになることを目的としましょう。その上で、命じたことが守られたかどうかを見るのです。あなたは氣力や決心を動揺させることなく、しかも常にそれらを、キリストのみ霊に従わせなくてはなりません。

怠慢な子供の扱い方——あなたが子供に一つのことをするように頼み、子供が「はい、します」と言いながらその言葉を守らないときは、そのままに放っておいてはなりません。あなたは子供を呼んで、その怠慢を清算させなくてはなりません。注意しないでそのままにしておく、あなたは子供に怠慢と不忠実を習慣とするような教育をしていることになります。子供は親に服従しなくてはなりません。彼らは家庭内の義務と責任を負う助けをするはずです。ですから、彼らが定められた仕事を怠るときには、彼らを呼んでそれを清算させ、改めるように要求しなくてはなりません。

性急で発作的なしつけの結果——子供が悪いことをしたときは自分で自分の罪をとがめ、それを恥じて苦しむものです。彼らのあやまちをしかることはしばしば彼らを頑固にし、隠しだ



くどくど叱るのはよくありません。

てをさせるような結果を招きます。彼らは手に負えない子馬のように、困らせることを決意しているかのように見えます。ですから、しかることは何の益にもなりません。親は彼らの心を転換するようにすべきです。

しかし困ったことに親はその取り扱い方が一様でなく、原則によらず衝動で行動します。彼らは感情にかられ、クリスチャンの親が示すはずの模範を子供に示しません。きょうは子供のまちがった行為を見過ごしたかと思うと、翌日は少しも忍耐せず、自制もしないという具合です。彼らは正義と罰を行なわれる主の道を守りません。彼らは子供より罪深いことがしばしばあります。

ある子供は自分にした父や母のあやまちをすぐ忘れますが、彼らと違った性質をもつ子供は、

不当に受けた理屈に合わないきびしい罰を忘れることができません。このようにして彼らの魂は傷つけられ、心は途方に暮れるのです。母親は子供の心に、正しい原則を注入する機会を失います。それは彼女が自制心を保ち、態度と言葉に分別のある精神を表わさなかったからです。あなたが子供を罰することはしても、ほんとうは愛しているのだということを経験させるために、平静になりなさい。おこることはやめなさい。

ほうびは罰よりもよい——わたしはかつて教育の働きに非常に興味を感じて、正しい方法で子供を教育してみようと、養子をもらったことがあります。わたしは彼らが悪いことをしたとき罰する代わりに、正しいことをしたらほうびを与えるようにしました。ある子供は、自分の思うままにならないと床にからだを投げ出して、だだをこねるくせがありました。わたしはその女の子に、「今日一日そのようなかんしゃくを二度と起こさなかったら、ホワイトおじさんとわたしとで、あなたを馬車でいなかに行行って、一日を楽しくすごさせてあげましょう。でももう一度床にからだを投げ出したら、楽しい権利はなくなってしまうよ」と言いました。わたしはこれらの子供たちにこのような方法をとっていましたが、今になってわたしはこうした方法を取ってよかったと思っています。

悪いことはすぐに、処置する——不服従は罰しなくてはなりません。悪いことは改めさせなくてはなりません。子供の心に固まった罪は、親や教師がそれを処置し、征服してしまわなくてはなりません。悪は直ちに、賢く、きっぱりと決断をもって処置しなくてはなりません。抑制されることをいやがり、気ままを愛し、永遠のものに無関心であるときは、注意深く扱いましょう。悪を根絶しないと魂が滅びます。

おちを用いるのは一生に一度でいい——「わたしたちは子供を決して罰してはいけないのでしょうか」と、尋ねる母親があるかもしれません。

おちで打つことは、他の方法ではだめな場合には必要かもしれませんが、そうしないですることなら、おちを用いてはなりません。しかしもし手ぬるい方法では不十分であるとわかったら、子供を本心に立ち返らせるような懲罰を、愛をもって行なうべきです。このような矯正の仕方は、子供には自分自身を治められないことを教えるために、一生に一度で十分であることがしばしばです。

そしてこの手段を必要とするときは、これが親を満足させるためや、親が勝手な権威をほしのままにするためではなく、子供自身のためだということを真剣に印象づけてやるべきです。どんな悪いことも治さないのであれば、自分自身を不幸にし、神を悲しませるということを

子供に教えなくてはなりません。そのように教えられた子供は、自分の意志を天の父のみ心に従わせることに最大の幸福を見いだします。

多くの場合むちは必要でない——あなたはもし子供に親切に言ってきかせるなら、多くの場合むちで打つ必要がないことを知るでしょう。そしてこのように扱えば、子供はあなたを信頼するようになります。子供はあなたを、心の底から信頼するでしょう。彼らはあなたのところに来て、わたしは今日これの悪いことをしました。どうぞゆるしてください。そして神様にゆるして下さるようお祈りしてくださいと言うでしょう。わたしはこのような場面に出会ったことがあるので、知っているのです。わたしは子供が悪いことをしたときに、断固とした処置をとり、彼らと共に祈り、神のみ言葉という模範を彼らの前に持ち続ける勇気を、自分が持っていたことを感謝しています。

感情で子供を打ってはならない——あなたが子供になぐり合いやけんかをおぼえさせたくないければ、決して子供を感情で打ってはなりません。親であるあなたは、子供に対して神の代わりをしているのですから、用心をしなければなりません。

むちでこらしめなければならぬことがあるかもしれませぬ。ときにはそれが、どうしても

必要なこともあります。しかしあなたが自分自身で、おちで打つべきだと確信をもつまでは、それを延ばすべきです。あなたは自分がやろうとすることとやり方とを、主にゆだねましたか。また家の中で手に負えない子供を扱う知恵と忍耐と親切と愛を持てるように、神がみちびいて下さることを願いましたか。

短気な父親への戒め――兄弟。あなたは自分の子供がどんな子で、どんな人間になるかを考えたことがありますか。あなたの子供たちは、主の家族の若い一員です。子供たちはあなたがみくにふさわしく訓練し教育するために、天父があなたの監督のもとにおゆだねになった兄弟姉妹なのです。あなたがしばしばしてきたように、あれほど乱暴に彼らを扱っているなら、神はそういうやり方に対してあなたに釈明を求められると、あなたは考えないでしょうか。そのように手荒に子供を扱ってはなりません。子供はあなたの横暴な命令によって追い使われたり、棒やおちや手でなぐられながら、どんな場合でも気ままに操縦される馬や犬ではないのです。ある子供は非常に気性が悪く、痛い罰を加える必要がありますが、それでもこのようなしつけ方は非常に多くの場合、もっと事態を悪くするものです。

あなたが明らかな良心をもって神のみに頭をたれ、あなたが与えようとしている矯正に祝福を求めることができないなら、決して手をあげて子供を打ってはなりません。子供の心に愛

を育てなさい。子供に自制心を持たせる高く正しい原動力を示しなさい。その原動力があなたの横暴な意志であるからとか、子供が弱くあなたが強いからとか、彼らが子供であなたが父親であるからその監督に従わなくてはならないとかいう印象を、決して子供に与えてはなりません。もしあなたが家庭を破壊したいと思うなら、暴力をもって支配し続けなさい。そうすれば、あなたの家庭は完全に破壊されるでしょう。

子供を決して動揺させてはならない——子供を動揺させることは、一つの悪を取り除こうとして二つの悪をうえつけるようなものだ、わたしは言ったことがあります。子供が悪いときに子供を動揺させることは、子供をよけいに悪くするのであって、その気持ちをやわらげることはなりません。

まず理性を働かし、それから祈る——まず子供によく話してきかせ、彼らの悪いところをはつきりと指摘し、彼らがあなたに対して罪を犯しただけでなく、神に対して罪を犯したのだということを印象づけなさい。あやまちを犯した子供に対してあわれみと悲しみで心を満たし、彼らを矯正する前に共に祈りなさい。そうすれば子供は、自分があなたに迷惑をかけたから、またあなたが不快な気持ちを彼らにぶちまけたいから罰するのではなく、よくしたいという気

持ちで罰するのだということがわかって、あなたを愛し尊敬するでしょう。

その祈りは彼らの心に深い感銘を与え、彼らはあなたが不当でないことを理解するでしょう。そしてあなたが不当でないことが子供にわかれば、あなたは大きな勝利をおさめたのです。これこそこの末の世に、わたしたちの家庭内でなされなければならない働きです。

しつけが危機にあるとき、祈りは効果がある——子供が悪いことをしたときに、神の怒りでおどしたりしないで、祈りをもって彼らをキリストに導きなさい。

子供に肉体的な痛みを与えるよりも、あなたがクリスチャンの父であり母であるならば、あやまちを犯した者に対する愛を表わすほうがよいのです。あなたが子供と共に神の前にこうべをたれるなら、「幼な子らをわたしの所に来るままにしておきなさい。止めてはならない。神の国はこのような者の国である」(マルコ一〇ノ一四)と言われた同情深いあがない主ご自身の言葉を、あなたは子供に示すことになります。そのような祈りは、天使をあなたの味方にします。子供はこのような経験を忘れませんし、またそのような訓戒には神の祝福があつて、子供をキリストに導いてくれます。両親が自分を助けようと努力していることに子供が気がつけば、彼らは正しい方向に努力を向けるようになります。

時間を十分にとる——わたしは幼児期に子供が、親のわたしを困らせることができるとは決して考えさせませんでした。わたしはまたよその家庭の子供をあずかって育てましたが、その子供たちにも、彼らの母を困らすことができるとは決して思わせませんでした。わたしは自身にも、子供にもとげとげしい言葉を言ったり、短気を起こしたり、いらだったりすることを許しませんでした。彼らは一度でもわたしの優位に立つことはありませんでした。つまり、一度でもわたしに腹を立てさせるようなことはしませんでした。わたしは心が乱されたり怒りなくなったりすると、よくこう言ったものです。「さあ、あなたたち、この事はこのままにして、今は何も言わないことにしましょう。夜寝る前に話しましょうね」と。このようにして、よく考える時間を十分にとると、彼らは夜までには平靜になって、とても扱いやすくなったのです。

そこには正しい方法もあるし、間違った方法もあります。わたしは子供と話し合う前に、彼らに向かって手をあげたことは一度もありませんでした。そしてもし彼らが折れれば、もし彼らに自分たちの誤りがわかれば（わたしがそれを彼らに指摘し、共に祈るときにはいつもそうであった）、またもし彼らが心をしずめれば（わたしがこうすると、いつも彼らの心はしずまった）、わたしはもう彼らを制御したのです。彼らがそうならなかったときはありません。わたしが子供といっしょに祈ると、彼らはすっかり折れて、わたしの首にかじりついて泣きました。

わたしは子供を矯正するとき、自分の声さえ変えるようなことはしませんでした。何か悪いことを見ると、わたしは「熱」がすっかりさめるのを待ち、彼らがよく考えることができるようになってそれが恥ずかしくなってから、彼らに話しかけるのです。子供たちはこうしたことについて考える時間を一、二時間与えられると、いつも恥じました。わたしはいつもその場を去って祈りました。わたしはそのときは、何も彼らに口をききませんでした。

彼らはしばらくひとりであつておかれると、そのことでわたしのところに来ます。わたしは、「そうね、夜まで待ちましょう」と言うのです。そのようなとき、わたしたちは祈りの時間を持ち、わたしは彼らが悪いことをして自分の心を傷つけ、また神のみ霊を悲しませたことを話してやりました。

祈る時を持つ——わたしはおこりなくなったり、自分で恥ずかしくなるような言葉を言いたい気持ちにかられると、だまってすぐへやを出て、これらの子供たちを教える忍耐をお与えくださいと、神にお願いします。それからわたしはへやに戻って子供たちと話し、もう二度とこのようなことをしてはならないことを、彼らに言うことができました。わたしたちはこの点では、子供をおこらせないような態度をとることができます。わたしたちはどんなに自分たちがわがままであるか、また天のみ父にどのように扱っていたかだと願っているかをいつも覚



やさしく忍耐強く、よく教えてくれる親ほど子どもにとって価値ある存在はありません。

えて、親切に忍耐をもって語らなくてはなりません。

さて以上が親の学ばなくてはならない教訓であり、あなたはこれらのことを学んでしまえば、キリストの学校で優等生となり、あなたの子供は最良の子供となります。あなたはこうして神に対する尊敬の念を持ち、神の戒めを守るべきことを子供に教えることができます。なぜならあなたは、彼らを自分のすぐれた管理のもとにおき、こうすることによって周囲の者に祝福となるような子供を育てて、社会に送り出しているからです。あなたは彼らを、神と共に働く者にふさわしくしているのです。

訓練の苦しみのもとには喜びがある——訓練に対処する真の道は、訓練から逃避すること

はなくて、試練を変えることにあります。このことは、子供のときにはもちろん後年になってからでもすべての訓練にあてはまります。子供の幼年時代の教育をなおざりにし、その結果、悪い傾向が強くなって来ると、後年の教育はいつそう困難なものになり、訓練に非常な苦痛を伴うことが多いのです。言わば生まれつきの欲望や傾向を殺すことは、劣等な性情にとつては苦痛にちがいありません。しかしその苦痛は、はるかに高い喜びの中に忘れられるでしょう。

過失や欠点や困難を征服するたびに、それは、もっとよい、もっと高いものへの踏み石となるのだということを少年少女たちに教えなければなりません。生きがいのある一生を送ったすべての人がなしとげた成功は皆このような経験から生まれたものなのです。

四、甘やかすこととその結果

真の愛は甘やかすことではない——愛は子供の心を開く鍵です。しかし子供たちに不当な欲求をほしいままにさせるような愛は、子供たちに益となる愛ではありません。イエスに対する愛から生まれる真剣な愛情があるなら、親は、権威を賢明に行使して、子供がすぐに服従することを要求するでしょう。親と子供の心が互いに結び合い、一つの家族として、知恵、美徳、忍耐、親切、そして愛が流れる水路とならねばなりません。

過度の自由の危険——子供たちが神を敬う者とならないのは、自由を与えられすぎているからです。子供たちはしたい放題のことをしています。子供たちが放蕩むすこととなるのは、多くは親が聖書の教えを実行せず、子供たちを家庭で甘やかしてきたためです。心と意志は、しっかりした、不動のそして清められた原則によって、支えられねばならないのです。堅実さと愛情が、愛に満ちて首尾一貫した模範によって教え込まれなくてはなりません。

甘やかせば甘やかすほど扱いにくくなる——ご両親がた、家庭を子供たちにとって幸福なところになさい。といっても、子供たちを甘やかしなさいと言っているわけではありません。子供たちを甘やかして好き勝手にさせればさせるほど、よい扱いにくくなりますし、子供たち自身もやがて世の中に出ていくとき、真実でりっぱな生活をするのがいっそうおずかしくなってしまう。子供たちにしたい放題にさせておくなら、子供たちの清らかさや愛らしさはすぐに失われてしまうでしょう。従うことを子供たちに教えてやりなさい。親の権威を尊重しなくてはならないことを教えるのです。これは子供たちにとって、今はあまりうれしくないことのように思えるかもしれませんが、実は将来の多くの不幸から救ってくれるものなのです。

子供たちはしたい放題にさせられていると、自分たちは当然世話をやかれ、甘やかされ、喜ばせてもらうものだと思えるようになってしまいます。自分たちの願いや思いは絶対だと思えるようになってしまうのです。

甘やかしは不安と不満を生む——子供の言いなりになっている家庭があります。ほしがるものは何でも与えてやり、きらいなものはきらいなままでいいようにしてやっています。こんなふうに甘やかすことは、子供を幸福にするように思われていますが、子供が落着きのない、欲求不満な、そして何ものにも満足できない人間になってしまふのは、まさにこうした甘やか

しのためなのです。甘やかしたために子供は、単純で健康的な食べ物を食べなくなり、堅実で健全な時間の使い方ができなくなってしまうました。自分の楽しみばかり求めたために、この世にも永遠の世にも不適格な品性をつくってしまった。

きげんをとる親——親は子供たちを甘やかした罪のゆえに、審判の日には多くの責任を負わねばならないことでしょう。たくさん親たちが、子供たちのどんな法外な要求でも、かなえてやっています。そのほうが、子供たちのしつこい要求をのがれるのに容易だからです。しかし子供は、いけないと言われたことは素直に聞き、それを決定的なものとして受け入れるようにしつけられなければならないのです。

一生の重荷——子供を好き勝手にさせておくとどんな害悪を生じるか、それはとても言葉では表現できないほどです。幼い時に放任されたために道に迷ってしまう子供たちの中には、後に実際の教訓を受けて本心に立ち帰る者もいます。しかし多くの者は、幼年時代や青年時代にただ部分的で片寄った訓育しか受けなかったために、永遠に失われてしまいます。甘やかされた子供は一生重荷を負わねばなりません。試練のとき、失意のとき、また誘惑にあうとき、彼は自分の訓練されていない誤った意志に従ってしまいます。服従することを一度も学ばなかった

た子供たちは弱い衝動的な性格を持つようになります。彼らは支配しようとするだけで、従うことを学んできませんでした。彼らは自分たちのわがままな気質を制御したり、悪い習慣を直したり、勝手気ままな意志を抑えたりする精神力を持っていません。訓練されず、しつけられなかった幼年時代の大きな失敗を、彼らは大人になっても持ち続けることになってしまいます。ゆがんだ知性は、真実と偽りとを見分けることがほとんどできません。

誤った教育の弊害は三、四代に及ぶ——子供たちを、神をおそれるように教育せず、しつけないでわがままに成人させてしまった親はわざわいです。そういう子供たちは、自分たちの幼児期に、激情やわがまを表わしたり、衝動的に行動したりすることを許されたので、この同じ精神を自分たちの家庭に持ち込みます。彼らの気性は欠陥が多く、やり方は感情的です。キリストを信じることにあいてさえも、彼らは、子供っぽい心を支配するのを放っておかれたあの激情を、克服していません。彼らは子供のころの教育の結果を、宗教生活全体にわたって持ち続けます。主の苗木にこのようにしておかれた刻印を取り除くことは、本当にむずかしいことです。なぜなら若枝が曲げられると、その木は曲がったまま成長するからです。もしこのような親たちが真理を受け入れると、厳しい戦いをしなくてはなりません。彼らの品性は変えられるかもしれませんが、その宗教経験全体は、幼児期に受けただらしなしいしつけの影響をこうむ

ります。そして彼らの子供たちは、彼らの欠陥の多い教育のために苦しまねばなりません。彼らは自分たちの欠点を、三代から四代に至るまで「子孫たちに」刻みつけてしまうからです。

子供は親の誤ちをくりかえす——だらしない教育の結果は、子供たちが世の中に出て行つて、自分の家族の長となるとき、明らかになります。彼らは親が犯した誤りをくり返すのです。彼らの品性の欠陥は抑えられることがなく、彼らは自分たちのうちに育つがままにされた悪い趣味や習慣や氣質を、ほかの人々に伝えていきます。このようにして彼らは、社会にとって祝福となる代わりにわざわざいとなります。

今日世に存在する悪は、その原因をたどっていくと、親が自分自身と子供たちとを訓練することを怠っていることに行き着きます。サタンの無数の犠牲者たちは、幼年時代に思慮のない育て方をされたために、そうなってしまうたのです。神はこうした誤った指導をきびしく譴責されます。

子供たちになつてほしいと望むような人間にあなたがた自身がなりなさい。親たちは教えと模範によって自分たちの品性の特徴を子供たちに伝えてきました。気まぐれで粗野な礼儀をわきまえない気性や言葉が、子供たちに、そしてそのまた子供たちにと次々に刻みつけられ、こうして親たちのやり方がどんなに間違っていたかを代々にわたって証言することになります。

五、子供の反応

子供は怒る——子供たちは主にあって親に従うよう勧告されていますが、親もまた「子供をいらだたせてはいけない。心がいじけるかも知れないから」と命じられています。

わたしたちはしばしば、説得するよりも怒らせてしまえます。ある母親が子供の手から、その子が特別楽しんでいたものを取り上げてしまうのを見たことがあります。子供にはわけがわからなかったので、ひどいことをされたと感じたのも当然でした。親子の間で口論が始まりました。そして厳しい罰が与えられて、その場はともかく終わりましたが、その争いは子供の感じやすい心に、容易に消すことのできない傷跡を残しました。この母親の行為は賢明ではありませんでした。彼女は理由をきちんと説明してやることをしませんでした。とげとげしい、思慮のない彼女の行為は、子供の心に最悪の感情をかきたて、同じような事が起きるたびに、こういう感情が呼びさまされ強められていきました。

厳しく責めれば氣落ちする——小さな間違いをとがめだてしたり厳しく責めたりすることによって、子供たちの幸福に暗い影を落とす権利は、あなたがたにはありません。実際悪いことをしたときには、それとしてはつきりさせなくてはなりませんし、そのようなことが再び起きないよう断固とした方針をとる必要があります。けれども、子供たちを氣落ちしたままにほうっておいてはなりません。自分たちはもっといい子になって、親に信頼されほめられるようになることができるのだという勇気を、持たせてやらねばならないのです。子供たちは正しいことをしたいと思っているかもしれない。素直になろうと心の中では決心しているかもしれない。ただそれには助けと励ましが必要なのです。

□やかましさは反抗をひきおこす——家庭のしつけとはどんなものか正しい理解を全然持たず、しつけや親のやり方について子供たちがとまどってしまっているような家庭は、神にとつてどんなに不名誉なことでしょう。厳しすぎるしつけ、□やかましさ、そして不必要な規則や制約の結果、子供たちは権威を尊重しなくなり、ついにはキリストが守られたはずの規則をも無視するようになってしまふ、ということは確かです。

親が荒々しくきびしい、そして横柄な精神を示すなら、子供たちの中には頑固で強情な精神が起きてきます。このようにして親たちは、本来ならば子供たちの心を和らげる感化を及ぼす

ことができたかもしれないのに、それに失敗してしまうのです。

ご両親がた、あなたがたには、とげとげしい言葉は反発を生むということがわからないのでしょうか。あなたがたが子供たちを扱っているような無思慮なやり方で、もしあなたがた自身が扱われたなら、いったいどうなさるでしょうか。どんな原因からどんな結果が生じるかを研究することは、あなたがたの義務です。子供たちをガミガミ叱りつけたとき、まだ幼くて自分の身を守れない子供たちを怒ってぶつたとき、そんなときあなたがたは、自分がそんな仕打ちを受けたならどう感じたか、考えてみたでしょうか。非難や譴責の言葉に、あなたがた自身どんなに傷つきやすいか、また、人があなたがたの能力を認めていないように思われるとき、どんなに心が傷つけられやすいか、考えてみたことがあるでしょうか。あなたがたは、成長した子供にすぎません。それなら、とげとげしい辛らつな言葉を子供たちにむかって言ったり、子供たちに対するあなたがたの態度に比べれば、神の御目にはその半分も悪くはない子供たちの過失を、きびしく罰したりするとき、子供たちがどう感じるか、考えてごらんなさい。

子供は当惑する——悪を正するとき気をつけなければならないことは、あら探しやとがめだての傾向です。始終とがめてばかりいると、正すよりもむしろ当惑させます。たいていの子供たちにとって、特に繊細な感受性を持っている子供たちにとっては、同情の欠けた批判的な空気が

冷たい風の中では花は開きません。



は本人の努力を殺してしまいます。冷たい風の中では花は開きません。

ある特別な欠点をしかられてばかりいる子供は、その欠点をどんなに努力しても直すことのできない癖であるかのように思いこむものです。こうして失望から落胆の気持ちが生ずると、おとんちやくやからいばりを装ってそれをかくそうとするようになるのです。

明るさと意欲を失う——自制心が欠けているために、あらしを起こしてばかりいる親たちがいます。子供たちにやさしく頼むことをしないで、ガミガミ命令し、しなくてもいいとがめだてや非難を口にするのです。ご両親がた、そんなことをしていると、子供たちは明るさと意欲を失ってしまいます。子供たちがあなたがたの

命令に従うのは、愛からではなくて、そうせざるを得ないからです。ですから少しも身が入りません。それは喜びどころか苦役となります。そのためにしばしば子供たちは、言われたことを全部し終えるのを忘れてしまい、それがますますあなたがたをイライラさせ、子供たちにとってもますます悪い事態になっていってしまうのです。あらさがしが繰り返され、子供たちの悪い行いが派手に並べ立てられるため、ついには子供たちは失望落胆して、人にどう思われようとかわわないという気持ちになってしまいます。「どうでもいい」という精神が子供たちをとらえ、子供たちは、家庭では得られなかった喜びと楽しさを、家庭の外に、親たちから離れたところに、求めるのです。こうして町の仲間とつきあうようになり、まもなく最悪の状態にまで至ってしまいます。

不当な扱いをうける気持ち——もし親たちが、しつけにあたって厳しく苛酷であるなら、彼らは自分たちではもう決して元に戻せないようなことをしているのです。こういう親たちは、その勝手気ままなやり方によって、「子供たちに」、自分たちは不当な取り扱いを受けているという気持ちを起こさせます。

不公平は権威をなくす——子供たちはちょっとした不公平にも敏感です。そんなことをされ



子どもが反抗するとき、親の態度に問題があるかも知れないと考えてみることは大切です。子どもへの態度を改めてみると子どもは驚くほど素直になるものです。

ると本当にかっかりしてしまつて、大きな声で
どなられようが、罰を与えるよとおどかされよ
うが、全然気にかけなくなつてしまふ子たちも
います。もし正しい方針が取られていたら、調
和のとれた立派な品性を形成したはずの子供た
ちが、親の誤つたしつけのために、心に反抗心
を持つようになるということが、しばしばあり
ます。自分自身を完全に制御できない母親には、
子供たちを管理する資格はありません。

ぶたれると尊敬を失う——母親が子供をこづ
いたり打ったりするとき、子供はそこにクリス
チャン品性の美しさを見ることができると、あ
なたはお思いですか。いいえ、決してそうでは
ありません。それは子供の心に悪い感情を起こ
させるだけで、子供は少しもよくなりはしませ

ん。

思いやりのない言葉は子供をいらだたせる——キリストは、父親や母親が真の教育者となるよう、いつでも教えてくださいます。キリストの学校で学ぶ者は決してとげとげしい思いやりのない言い方をしません。というのは、そんなふうには語られた言葉は、耳ざわりで、神経にさわり、精神的な苦痛を与えるもので、子供をかえっていらだたせてしまうからです。子供が親に対して失礼な口をきくのは、このためであることがしばしばです。

子供の強情さに対して——いらだったり、叱りつけたり、あざけったりする権利は、親にはありません。子供たちの強情さを決してあざけったりしてはならないのです。そういう悪いところは、親自身が子供たちに伝えたのですから、そういうしつけ方は決して悪を矯正するものではありません。ご両親がた、神のみ言葉の教えを持ってきて、わがまな子供たちをいさめ、戒めなさい。あなたがたの要求するところに關して、「主はこう言われる」というみ言葉をお供たちに示しなさい。神のみ言葉として与えられる譴責は、親の口から出るとげとげしい怒った口調の譴責よりも、はるかに効果的です。

短気は短気をおこす——親が短気な態度をとると、子供も短気になります。親がカンシヤクを起こすと子供もカンシヤクを起こし、悪い性質が出てきてしまいます。親は、自制を失って短気な言葉を出したり、短気な行動をしたりするたびに、神に対して罪を犯すのです。

カンシヤクを増長する——何かをねだって聞き入れられなかった子供が、ふくれて床にころがり、足をバタバタさせて泣き叫び、母親のほうは子供の機嫌を直そうとして、なだめたり叱ったりしている、そんな光景をわたしは何度も目にしました。このような扱いは、ただ子供のカンシヤクを増長させるだけです。次には、前と同じようにうまくいくという自信を持って、もっとわがままに、同じことを繰り返します。このようにして、ムチを惜しむために、子供は甘やかされてだめになってしまいます。

母親はどんな場合でも、子供につけこまれるようなことがあってはなりません。また、権威を保つために苛酷な方法に頼る必要ありません。いつも変わらないしっかりした手と、あなただけの愛を子供に確信させるようなやさしさが、目的を達してくれるでしょう。

甘やかしは落ちつきのない子供をつくる——断固たるところと決断力が欠けていることによって、大きな害が及ぼされます。あれはいけない、これはいけないと言っておきながら、あと

になって厳しすぎたかもしれないと考えて寛大になり、最初はだめだと言ったそのものを子供に与えてしまう親たちがいます。こうして子供たちは生涯に及ぶ害をこうおつてしまうのです。望んだものが、全然見込みがないほどきつぱりはねつけられると、それを望む気持ちもまもなくなくなって、ほかの事に集中するようになるということは、重要な心の法則であり、見過ごしてはならない法則です。しかし欲しいものを得られるという望みが少しでもある限り、それを得ようとする努力が続くでしょう。

親が直接命令をしなければならぬとき、それに従わない場合の罰は、自然の法則のように、一定不変でなければなりません。このように堅実で断固とした規則のもとに育てられている子供たちは、あるものが禁じられたり拒否されたりするときは、いくらせがんでも策を弄してもそれを手に入れることは出来ないと知っています。ですからすぐに言いつけに従いますし、しかもそうするほうがずっと幸福なのです。優柔不断で甘やかし過ぎる親の子供たちは、甘えたり泣いたりふくれたりして欲しいものを手に入れようとか、言うことを聞かないで、しかも罰をまぬがれようとか、そんなことばかり考えるようになってしまいます。こういう子供たちは、欲求と期待と不安とがいりまじった状態におかれ、そのために、落ち着かず、イライラし、反抗的になってしまいます。子供たちをそんなふうにしてしまう親たちに対して、神は子供の幸福を台なしにするその責任を問われます。頑迷で不信仰な人々が大勢いるのは、こうした悪い

間違った育て方のためです。クリスチャンと称する多くの人々がここで失敗してきました。

不必要な束縛は放蕩児をつくる——年とった親たちが若い子供たちを育てねばならないとき、父親は、自分が歩いているどっしりした厳格な道を、子供たちにも歩かせねばならないと思いがちです。親は子供たちのために、人生を楽しく幸福なものにしてやらねばならないことが、年とった父親にはなかなか理解できません。

多くの親は、子供たちが安全で罪のない楽しみにふけることさえ許さず、また、間違ったことに対する子供たちの欲求を助長することを恐れるあまり、子供たちには当然の楽しみさえ持たせないようにしています。悪い結果を心配するあまり、子供たちに避けさせたいと思っています。その悪から守ってくれるはずの単純な楽しみさえ、許そうとはしないのです。そのために子供は、期待してもむだだと考えて、親には頼まなくなります。そして、言っただめだと言われそうな娯楽の場へ、こっそり行くようになります。親子の間の信頼が、こうしてこわされていきます。

当然の権利が認められないと不従順になる——父親や母親が幸福な幼年時代を過ごさなかった場合、この点での自分たちの大きな損失のために、子供たちの生活まで「厳格すぎて」暗い



子どもにとって過干渉の教育ママは人間とは思えないものです。

ものにしていよいでしょうか。父親はこれがとるべき唯一の安全な道だと考えるかもしれません。しかし人の心はみな同じようにつくられてはいないということ、また制限しようと努めれば努めるほど、拒否されたものを手に入れたという欲求は抑えがなくなり、その結果、親の権威に従わなくなってしまうということを心にとめる必要があります。言うことを聞かない息子だと思つて、父親は悲しみ、息子の反抗に心を痛めるでしょう。しかし息子の不従順の第一の原因は、罪のない楽しみを持たせてやらなかったことにあるという事実を、考えたほうがよいのではないのでしょうか。親が禁じたのだから、それだけで息子がそれをやめる十分な理由だと、親自身は考えます。しかし子供たちは知性を備えた人間であるということ、また自分たちが扱

ってほしいように子供たちをも扱わねばならないということを、親は忘れてはなりません。

厳格さが宗教不信を生む——支配や権威の精神を働かせる親たちがいます。こういう親は、そうした精神を自分たちの親から受け継いでおり、しつても教えも厳格なものになって、子供たちを本当に正しく教育することができなくなります。子供たちの間違いを厳しく取り扱うことによって、人間の心のいちばん悪い感情をかきたて、子供たちに、不当な、誤った感覚を残してしまうのです。親たちは子供たちの中に、自分たち自身が分け与えたとおりの性質があるのを見るでしょう。

このような親は、宗教的な事柄について話すことによって、かえって子供たちを神から離れさせてしまいます。なぜなら、真理を間違っして示すことによって、キリスト教は魅力のない、反発さえ感じさせるものにされてしまうからです。「もしあれが宗教なら、宗教など信じたくない」と子供たちは言うでしょう。このようにして、しばしば、宗教に対する敵意が心に生じるのです。そしてまた、親が勝手気ままに権力をふるうために、子供たちは天の律法と統治を嫌うようになってしまいます。親は、自分の間違っしたやり方によって、子供たちの永遠の運命をきめてしまうのです。

静かな優しい態度は快活な子供をつくる——もし子供たちに快活であってほしいと思うなら、親は決してガミガミ叱りつけたりしてはいけません。母親はイライラしたり神経質になったりするものがよくあるものです。子供を乱暴につかまえてはきつい言葉を出すのです。しかしもし子供を静かな優しい態度で扱うなら、そのほうがもっと子供は快活さを保つことでしょう。

優しく辛抱強く扱う——家の祭司である父親は、子供たちを優しく辛抱強く扱ってやらねばなりません。子供の中に争い好きな傾向を育てないよう注意しましょう。罪を矯正しないですべておいてはなりません。人の心にある最悪の感情をかきたてないで直してやる方法もあるのです。愛情をもって子供たちと語りあい、救い主が彼らの行為をどんなに悲しんでられるかを話してやりましょう。そして子供たちといっしょに恵みの座にひざまずき、子供たちをキリストのみ前に出して、キリストが彼らをあわれんでくださって悔い改めに導き、ゆるしてくださいるようにと祈ろうではありませんか。このようなしつけ方はほとんど常に、どんなにかたくなな心をも打ち砕きます。

神は、わたしたちが、子供たちを単純素朴なままに扱うよう望んでおられます。子供たちは大人と違って、長年にわたる訓練という利点を持っていないということを、わたしたちは忘れがちです。子供たちがあらゆる面でわたしたちの考えどおりにしないなら、これは一つ叱って

やらねばならないと、わたしたちは考えてしまいます。しかしこれでは事態は良くなりません。子供たちを救い主のもとにつれて行って、救い主にすべてを申し上げましょう。そして、主の祝福が子供たちの上に与えられることを信じましょう。

第五章

人間教育の基本

この章ではしつけの内容がとりあげられています。ひとことでしつけと言っても、その内容は国によってあるいは家庭によってちがったものになるでしょう。しかし細かい違いはあるにしても、基本となるしつけは共通のものがあるはずです。この章では愛の輪を広げる生き方の基本となる具体的なしつけの目標を三の項目に分けて述べています。

第一に著者が強調していることは「服従」です。服従を教える場合、いちばんたいせつなことは誰に服従するかです。もちろん幼児にとっては父母に服従することに他なりません。ここで著者が述べていることは、単に父母に従うということではなく、父母よりもさらに上にある権威である神に従うことを指しています。神に従うことを人間の第一の義務とする場合、親の権威に盲目的に服従するだけではないということになります。親が普遍的な道徳に表われている神の意志に反しているときには、親に服従しなくてもよいのです。ですからここで述べられている「服従」は権威主義を助長する教えではありません。子供が小さいとき、親は神の代理者のような立場をとらなければなりません。親が子供に服従を求めるとき、どれほど深く自分を省み、慎まなければならぬことでしょうか。

第二の項目である「単純さ」は著者独特のしつけ目標です。人間の真の魅力は気取らない自然さの中にあるということです。現代人は「単純さ」を失っています。あれもこれもと求めて結局何も得られずにいたずらに焦燥感と絶望に陥っています。「単純さ」のしつけはこのような時代だからこそ必要ではないでしょうか。

次に「礼儀と謙遜」があげられています。堅実な家庭には自然に秩序ができあがり、作りものでない礼儀が行なわれます。形にとらわれず、心から相手を大切な人と思えば、心の通い合う礼儀が行なわれるのです。「快活さ」が次にあげられていますが、これを否定する人はいないでしょう。人生には悩みや苦しみ、時

には欠乏が起こります。そのようなときに父母が真実に助け合い、涙の夜から喜びの朝へ雄々しく立ち上がる体験をもつとき、そこに人生を肯定する力が親から子へと伝わっていくのです。

「誠実と正直」ということはどの社会でも教えられている道徳であるにもかかわらず、実践は困難と感じている人が多くいます。問題は自己への誠実ということがあいまいになっていることにあるのではないのでしょうか。自己の内面のわだかまりを取り去るとき、自然に自分に正直になれるのです。

「自立心と自尊心」は幼児期からの親子関係のつくり方一つで立派に育てることができます。まず親が子供を理解することです。そしてありのまま受容することです。理解されたら巣立っていけるのです。それだけの精神的エネルギーを子供は持っているのです。

「自己に克つ」ことはスポーツなどの激しい訓練には必ず必要です。人生の戦場でも「克己」が必要です。自己に克つことは最も激しい戦いであるとも言われています。ここでも単なる欲求の抑制にとどまったのでは、真に自己に克つことにはなりません。抑えつけるのではなく、むしろ自発性を強めることによって、客観的な判断や理性的な判断を強くすることが必要です。

以上のほかになお「静かにすること、尊敬」「きちんとする、秩序を守る」「健康と清い生活」「人の役に立つ」「勤勉」「節約の大切さ」などのしつけの目標が述べられています。これらはみな愛の循環という大きな秩序の中で、その実現をめざして生きるという人生観に基づいています。それは愛の勝利を信じる明るい人生観ですが、それと共に悪の存在も否定していません。結局、子供たちは大人と同じように善悪を自分で選んでいかなければならないのです。このきびしい人生において愛の勝利を信じていくように、子供を助けることが親としての最も重要なつとめなのです。

一、服従

幸福は服従にかかっている——父親も母親も学校の教師たちも、子供たちに服従を教えることは、教育の中でも特に大切な部分だということを心に留めましょう。教育のこの面が、あまりにもないがしろにされています。

子供たちは、全然しつけられないでいたい放題にさせられているよりも、正しいしつけを受けているほうが、ずっとずっと幸福なのです。

親の賢明な指導にいつもすぐに従うことは、神の栄えと社会の福利を増すばかりでなく、子供自身をも幸福にします。家庭の規則に従うことの中にこそ完全な自由があるということを、子供たちは学ばねばなりません。

早くから教え始める——父母に従うことは赤ん坊のうちに早くから教え、児童期までに十分教えましょう。

子供たちを赤ん坊の時はわがままにさせておいて、少し大きくなった時に言ってきたせればわかると考える親がいますが、それはまちがいです。服従することは、赤ん坊の時から教え始めましょう。あなたの家庭学校では服従することを必修科目としましょう。

子供は赤ん坊の時から、親に従うこと、親の言葉を守ること、また親の権威を尊ぶことを教えらるべきです。

理性が発達する前から——子供が学ばなければならない第一の教訓の一つは服従という教訓です。子供がまだ十分に道理をわきまえることのできない年ごろからでも、服従ということは教えられるものです。

母親の仕事は赤ん坊と共に始まります。母親は子供の意志や気分を抑え、服従する気持ちを育てるようにすべきです。子供に服従することを教えなさい。そして子供が大きくなって手をはゆるめてはなりません。

自我の意志が強くなる前に——子供に早くから服従を教える親はほとんどいません。子供が服従を覚えるには早過ぎると思って、親がしつめることを控えるために、それを始めるのが二、三年遅れるのが普通です。しかしその間に自我は幼児の中でどんどん強くなり、親が子供を制

おびえて泣いたとき抱きしめてくれた父の腕の力強さ。子どもはその感覚を大事にします。



御することが日ごとに困難になってきます。

子供は、非常に幼い年齢でも、はっきりと単純なことで言って聞かせれば、理解することが出来ます。またやさしく、思いやり深く扱えば、服従を教えることも出来ます。母親はどんな場合でも、親につけこむようなことを、子供に許してはなりません。この権威を持ち続けるためには、手荒な手段を使う必要はありません。しっかりした、おらのないやり方と、子供にあなたの愛を確信させるようなやさしさがあれば、目的を達成することが出来ます。しかし、最初の三年間に、わがままや怒り、また自我を増長させてしまうと、子供を完全にしつけることはむずかしくなります。そのようにしてしまうと、子供の性質は気おずかしくなり、自分のしたい放題のことをするようになり、親の抑制がきか

なくなります。このような悪い傾向は、子供が成長するに従ってひどくなり、成人してからはどうにもならないほどのわがままと自制の欠乏のために、彼は国中にはびこっているいろいろな悪事に自分を売ってしまっています。

子供たちが両親を敬わない態度を示すことを決して許してはなりません。子供のわがままな意志を黙って許してはなりません。子供の将来を幸福にするためには、親切でやさしく、しかもしっかりしたしつけが必要です。

服従を習慣づける——神の誉れと栄えのために、才能が与えられていることを、子供たちに教えましょう。その気高い目的のために、子供たちは服従という教訓を学ばなければならないのです。やさしく根気のよい努力によってこれを習慣づけましょう。そうすれば、後になって親や教師に対して離反したり、悪感情をひき起こしたりする意志と権威の争いが子供の心に生じるのを大いに防ぐことができます。この争いは神や人間のあらゆる権威に対して、たびたび抵抗させるものなのです。

品性を築く土台——家庭の教師として両親は、規則が守られているかどうかに気を配らなければなりません。子供たちが服従しないままにしておくと、正しいしつけはできません。子供



子どもをありのまま受容し、その気持ちを共感してやれるとき、子どもの心と親の心は愛の絹糸で結ばれます。

の教育は、きちんと服従するまで徹底すべきです。不服従を許してはなりません。子供たちを不従順のままほうっておく親に罪があります。子供たちに服従しなければならぬことをわからせましょう。

親が今すぐ完全な服従を子供たちにしつけないと、子供たちの品性をきずく土台を失うことになります。そうすれば自分たちが年老いたときに恥をかかせ、墓に近づいたときに悲しみをもたらすような子供になってしまうでしょう。

愛の絹糸で結ぶ——父母が子供に要求することは、常に、道理にかなっていないければなりません。愚かに甘やかさず、賢明な仕方やさしさを表現しましょう。親は、叱ったり、小言を言ったりしないで、子供たちの心を愛の絹糸で

自分たちに結びつけるように努力し、快活に教えるべきです。父母も、教師も、兄や姉も、霊的な関心を大いに強めて、子供たちを教育する隊列に加わってください。そして小さい子供たちが、主の薫陶と訓戒のうちに成長するのを助けるすばらしい雰囲気、家庭にも学校生活にもつくり出してください。

自分の子供や他の人々の子供を訓練して分かることは、子供たちが悪事をしないように止めることが少なければ少ないほど、親や保護者を愛さなくなるということです。

くりかえし教える——服従や権威を尊ぶことはくりかえし教える必要があります。家庭内でなされるこのような働きは、善の力です。それは子供たちを悪から遠ざけ、真理と正義を愛させるばかりでなく、両親にも同じように益を与えます。神がお求めになるこのような働きは、両親の側の真剣な思慮深さと神のみ言葉の熱心な研究なしに、実行できません。またそれを神の指示に従って教えないければならないのですから、なおさらそうです。

二、単純さ

自然な単純さのうちに教育する——子供たちは、子供らしい単純さの中に教育されなければなりません。人の役に立つ小さな義務をつくすことや、その年ごろにふさわしい楽しみや経験を持つことに満足するように、彼らを教育しなければなりません。子供時代は、たとえばの芽に相当するが、芽にはそれ自体の特有の美しさがあります。子供たちに年齢に不似合いな成熟をしいることなく、できるだけいつまでも幼いころの清らかさと美しさを持ちつつげさせなければなりません。子供の生活が、静かな単純なものであればあるほど、すなわち、不自然な刺激から離れて自然との調和の中にあればあるほど、その知力、体力、また霊的な力は順調に発達するのです。

親は子供たちが単純な習慣を身につけるよう、模範を示さなくてはなりません。そして子供たちが不自然な生活を離れて自然な生活をするよう、導かねばなりません。

気どらない自然さ——自然でありのままの子供がいちばん、人を引きつけるものです。子供たちに余り注目しすぎるのは良くありません。顔つきや言葉、行為をほめそやすことによって、虚栄心をあおってはなりません。また服装も高価なものや派手なものは避けましょう。そんなものを着せると、子供は高慢になりますし、遊び仲間たちをうらやましがらせます。本当の装飾は外面的なものではないことを、子供に教えてやりなさい。「あなたがたは、髪を編み、金の飾りをつけ、服装をととのえるような外面の飾りではなく、かくれた内なる人、柔和で、しとやかな霊という朽ちることのない飾りを、身につけるべきである。これこそ、神のみまえに、きわめて尊いものである」(ペテロ第一・三ノ三、四)。

真の魅力——女性の真の魅力は、容姿の美しさとか、なんらかのたしなみを身につけているとかいうことだけにあるのではなくて、むしろ、柔和で穏やかな精神、忍耐、心の広さ、親切、そして他の人々のために喜んで尽くし、耐えることのうちにあるということと、女の子たちに教えてやらねばなりません。女の子たちは、仕事をする事、何か目的を持って学ぶこと、目標をもって生活すること、神に信頼し神をおそれること、そして父母を敬うことを教えられねばなりません。そうすれば、年と共に少女たちはいつそう清らかな心をもって育ち、自主的で、人々から愛される者となっていけます。このような女性を堕落させることはできません。多く

の人々を滅ぼした試練や誘惑を、彼女は免れます。

うぬぼれの種まき——多くの家庭ではほとんど幼児期に、うぬぼれと利己心の種が、子供の心にまかれてしまします。あどけない片言や動作が、子供たちの目の前であれこれ言ってほめられ、大げさに繰り返されて他の人たちに伝えられます。子供はこれに気がついて、得意になります。大人が話している時も割り込んできてじゃまをするようになり、厚かましく生意気な子供になっていきます。ご機嫌とりと溺愛がうぬぼれとわがまを助長し、ついには親を含めて家族全体が小さな子供の言いなりになってしまふということが、しばしば見受けられます。

このような教育によって形づくられた傾向は、子供が大きくなってもっと成熟した判断力を持つようになってからでも、捨て去ることができません。それは子供の成長と共に育ち、赤ん坊の時にはかわいく思えたことも、大人になると不愉快なことになってきます。このような人たちは、人々を自分の思い通りにしたが、もし思い通りにならないと、自分が不当な扱いを受け、侮辱されたように考えてしまします。小さい時に、人生の困難や労苦に耐えるのに必要な克己心を教えられないで、思う存分甘やかされていたために、こうなってしまったのです。

ほめすぎない——子供たちに感謝し、同情し、彼らを励ますことは必要であるが、ほめられる

ことの好きな精神を育てることのないよう注意する必要があります。自分の子供に人の注意をひいたり、目の前で子供の利口な言葉をくり返したりすることは賢明ではありません。親や教師が、子供について真に理想的な品性や将来の可能性を念頭におくなら、子供にうめぼれの気持ちを抱かせたり助長したりしてはなりません。自分の才能や優越を人の前に誇示したいという気持ちや努力を彼らの中に助長してはならないのです。自分自身よりもっと高いところを見ている人はけんそんです。そのような人は、外面的な誇示や高い地位の人の前でおどおどしたりすることのない、しっかりした威厳を持っています。

単純な食物や衣服——親は子供たちに、家事を分担することを教え、質素で単純な食物や、きちんとした、しかし高価でない衣服で満足することを教えるという、神聖な義務を負っています。

親たちが、神の前に負っている責任をもっと自覚したなら、社会にはどんなに大きな変化が起きることでしょう。子供たちはほめられ甘やかされてだめになったりすることもなく、ぜいたくな服を着せられてうめぼれが強くなったりすることもなくなるでしょう。

単純さと信頼を教える——子供たちに単純さと信頼を教えなければなりません。造り主を愛

し、敬い、従うことを、子供たちに教えましょう。人生のあらゆる計画や目的の中で神の栄えが最高位におかれねばなりません。そして神の愛があらゆる活動の源とならねばなりません。

柔和な心とともに——わたしたちのあがない主イエスは、この地上を、王の威厳をもって歩かれましたが、柔和で心の低いおかたでした。イエスは快活と希望と勇気を身につけておられたので、どの家庭でも光となり祝福となりました。家を飾るために、いろいろなものを無理に得ようとして骨折ったりするよりも、神が宝石より尊ばれるもの、すなわち柔和で穏やかな精神を大切にしていけたら、そのほうがどんなによいことでしょう。単純さ、柔和、そして真の愛情は、どんなに質素な家庭であってもそこを天国にします。平和と安らぎを失うより、どんな不自由でも喜んで耐えるほうがいいのです。

三、礼儀と謙遜

礼儀は家庭から始まる——子供たちに、家庭でほんとうに礼儀正しくふるまうにはどうしたらよいか、教えてやりましょう。互いに親切にやさしくするよう教えましょう。心の中にも、家の中にも、利己心が見られないようにしましょう。

言葉や態度が軽率で乱暴な子供は、家庭で受けている教育がどんなものかを表しています。そういう家庭の両親は、自分たちの責任の重さを自覚してきませんでした。そして、自分たちがまいたものを、自分たちで刈り取ることになるのです。

わたしたちがみな天の王室の家族であるなら、家庭生活には真の礼儀正しさが見られるはずです。家族のひとりびとりが、互いに家庭を楽しいものにしようとするのは、努めるはずで

す。お年寄りを敬う——神はまた、特に年老いた人々に対してやさしい尊敬を示すようにお命じになります。「しらがは栄えの冠である、正しく生きることによってそれが得られる」(箴言



親がお年寄りを大切に扱えば、子どもも親を大切にできるようになります。

一六ノ三一と神は仰せになっています。それは戦いをたたかい、勝利を勝ち得、重荷に耐え、誘惑に抵抗したことを物語っている。それは休息に近づく疲れた足、まもなくあく座席を物語っている。このことを子供たちに考えさせるとき、彼らは礼儀と尊敬をもって年老いた人々の道を和らげるでしょう。「あなたは白髪の人の前では、起立しなければならぬ。また老人を敬い、あなたの神を恐れなければならぬ」(レビ記一九ノ三二)との命令を心に留めるとき、彼らの若い人生には恵みと美がもたらされるでしょう。

謙遜は徳を守る——謙遜というこの上なく尊い宝を大切にしましょう。これが徳を守ってくれます。いつになったら若い女性たちは、慎み

をもって行動するようになるのでしよう。子供を正しく教育するためにはもっと注意深くなければならぬことを、親が本当に悟らない限り、事態は決して好転しないでしょう。慎みと謙遜をもってふるまうことを、子供たちに教えようではありませんか。

子供のすぐれた美点——子供の本当のすぐれたところは、謙遜と従順の中にあります。指導の言葉を注意深く聞き、しなければならぬ務めを、きちんと、喜んでやるということが、いちばん大切なのです。子供のこうした美点は、この地上の生活においても、報いをもたらすものとなります。

四、快活さ

家庭を気持ちのよい雰囲気で満たす——両親は子供たちを快活な、礼儀正しい愛の雰囲気で見守るべきです。愛の宿っている家庭、愛が表情に、言葉に、行動に表現されている家庭は、天使用も喜んで姿を現わすところです。

親は愛と喜びと、幸福な満足の光線を自分の心に入れ、その感じのいい、明るい感化が家庭にみなぎるようにすべきです。親切な、忍耐強い精神を表わし、そういう精神を子供にも持たせるように励まし、家庭生活を明るくするあらゆる美德を養成しましょう。こうして生ずる雰囲気は子供にとって、ちょうど植物に対する空気や日光のように健康と心身の活気を増進するものです。

明るい顔をしよう——イエスの宗教には、暗いものは何一つありません。クリスチャンは悲しそうに打ち沈んだり、意気消沈したりはしません。彼らはまじめであると同時に、ただ神の



感謝の心は幼児にもわかります。「ありがとう」と口に出して言いましょう。

恵みだけが与えることのできる本当の明るさというものを、世の人々に示すのです。

子供たちは明るい快活な態度にひきつけられます。わたしたちが子供たちに親切と礼儀を示すとき、彼らもまたわたしたちに対しまたお互いに対して同じ精神を表わすのです。クリスチヤンの持つ快活さは清い美しさそのものです。

明るく楽しい言葉を語ろう——明るく楽しい言葉を語るのに、めんどろなことは何一つありません。ちょうど不愉快な暗い言葉を出すのに手間ひまはかからないように。あなたはひどいことを言われるのは、好きではないでしょうね。それなら、あなたがそんな言葉を口に出すと、言われた人も鋭い痛みを感じるということ、忘れないでください。ご両親がた、信仰を、

家庭の中で実践してください。み使いたちは不和の支配する家庭には引きつけられません。光と喜びを与えるような言葉を語るよう、子供たちを教育しましょう。

いつも笑顔を——親たちの中には——そして教師たちの中にも——自分たちがかつては子供であつたことを忘れていように見える人たちがいます。いかめしく、冷淡で、思いやりのない大人たちが。彼らはいつももったいぶった、きびしい顔をしています。子供らしい陽気さや気まぐれ、じっとしていない若い若い生命の活動は、彼らの目には許しがたく見えるのです。ちよつとしたあやまちが、重大な罪とみなされます。このようなしつけは、キリストには受け入れられません。このようにして育てられた子供は、親や教師を恐れはしますが愛することはしません。子供らしいいろんな経験を打ち明けて話すことをしません。若い芽が冬の風にあたって枯れてしまうように、子供たちの心の中の大切なものが冷えていき、失われてしまうのです。

ご両親がた、笑顔を見せなさい。先生がた、笑顔を見せなさい。たとえ心が沈んでいても、顔に出してはなりません。愛と感謝に満ちた心から出る光を、顔にたたえなさい。鉄のようないかめしさをやわらげて、子供たちの必要に自分たちを合わせ、子供たちから愛されるようになりなさい。子供たちの心に宗教的な真理を印象づけたいと思うなら、まず子供たちの好意をかちとらねばなりません。

五、誠実さと正直

誠実さの模範を示す——親も教師も、神に対して真実でなければなりません。生活から欺瞞的な習慣を捨て去りなさい。ずるい言葉を語ってはなりません。たとえどんなにむずかしく思われても、あなたがたの態度や言葉、働きを、聖なる神の前に正しいものにしなさい。最初にごまかすことを教えられたなら、その結果はなんと恐ろしいものになることでしょう。

「お母さんは本当のことを言わない」とか、「お父さんはうそばかり言ってる」とかいうようなことを、決して子供たちに言わせてはなりません。あなたがたが天の法廷でさばかれる時、名前の横に“偽る者”という記録があってもいいでしょうか。

子供たちに全く正直であるよう期待するのは無理というものです。しかし、それにしても、もし親が思慮を欠く育て方をしますと、子供の生活体験を特徴づけるはずの率直さというものを、こわしてしまっておそれがあります。親は言葉でも行為でも、できるだけのことをして、自然な単純さを保つようにしなければなりません。年と共に成長していく子供たちに、親は、よ

くない種——うそやごまかしとなって育ち、信頼できない習慣となって実る種——をまくような、どんな小さな機会をも与えてはなりません。

ごまかしてはならない——ご両親がた、決してごまかしてはなりません。教える時であれ、実例を示す時であれ、本当でないことを決して言うてはなりません。真実であってほしいと子供に願うなら、まずあなた自身真実でありなさい。ごまかさないうで、率直でありなさい。ちよつとしたごまかしもしてはなりません。母親がいつもごまかしてばかりいて、本当のことを言わないなら、子供もその例にならつてしまいます。

荒々しい言葉はうそをつかせる——子供が間違いをした時、気短になつてはなりません。間違いを正してやるのに、荒々しい厳しい言葉を出さないようにしましょう。そんなことをすると子供たちは、どうしてよいかわからなくなり、本当のことを言うのを恐れるようになってしまいます。

小さなことに正直を——母親は生活のどんな小さな事にも、正直さを実践することが絶対に必要です。また子供をしつける時、決してごまかしたりだましたりしてはいけないということ

を、幼い少年少女たちにしっかりと教えることが大切です。

正直なばかり——正直な人とは、キリストのはかりによると、ゆるがぬ誠実さを表わす人です。この世の利益を高めようとして多くの人が用いる偽りのはかりは、神の目にはいまわしいものです。堅固な誠実さは、世のちりあくたの中で、金のように光り輝きます。ごまかし、うそ、不誠実は、人の目からは隠すこともできますが、神の目からは、隠すことができません。品性の成長を見守り、道徳的な価値をはかる神のみ使いは、品性を表わすこういった小さな行為をみな天の書に記録しています。

原則を実行して信頼にこたえる——クリスチャンはどんな商売上の取り引きにおいても、クリスチャンとしての自分に対する相手の信頼にこたえます。彼の行動は根本的な原則によって導かれています。彼はたくらむことをしません。ですから隠さねばならないこと、取り繕わねばならないことは何一つありません。批判され、試みられることがあっても、ゆるがぬ誠実さは純金のように輝きます。彼は関係するすべての人に祝福となります。なぜなら彼の言葉は信頼できるからです。彼は隣人を利用するような人ではありません。彼はすべての人の友であり、親切的な助け手です。仲間は彼の助言に信頼を置きます。本当に正直な人は、自分のふところを

こやすために人の弱点や無力につけこむようなことは決してしません。

小事に忠実な人は大事にも忠実——生活上のどんな細かな事柄においても、正直という原則を本当にきちんと守らなくてはなりません。商売において完全な正直さを守らないことは、ある人には小さなことに思われるかもしれませんが。しかし救い主はそうにはお考えになりませんでした。この点についての救い主の言葉は、はっきりしていて明確です。「小事に忠実な人は、大事にも忠実である」。ちよつとしたことで隣人をだます人は、誘惑を受ければもっと大きなことでも人をだますでしょう。小さなことで偽りを言うことは、神の目には、大きなことと偽るのと同様に大きな不正行為なのです。

六、自立心と自尊心

自立心を持たせる——子供はみな、できるだけ自立心を持たせるよう教育する必要がある。いろいろな能力を働かせてみることによって、子供は自分の最も得意とするところと、足りないところとを、知るようになります。賢明な教師なら、子供がバランスのとれた円満な品性を築いていけるよう、足りないところを伸ばしてやることに特に注意を払うでしょう。

樂をさせすぎると弱虫を作る——もし親たちが、生きている間に、子供たちが自分たちで自活していけるよう手助けしてやるなら、そのほうが、死ぬ時に大きな遺産を残してやるよりもいいのです。自分たちでやっていかなくはならない子供たちは、父親の財産に頼っている子供たちより、もっとすぐれた人物、もっと実生活に適した人間となります。自活していかなくてはならない子供たちは、一般に、自分たちの能力を尊び、自分たちの価値を高め、自分たちの力を人生の目的を成し遂げるために伸ばし、働かせようとします。彼らはしばしば、クリス



過保護や過干渉にならないようにするには、母
親は家庭だけに引きこもらないで、社会に尽くす
心がけが必要です。

チャン人生に成功を収めるための基礎である勤
勉や質素、そして道徳的堅固さを持った品性を
発達させます。親が何でもしてくるような子
供たちは、親に対する感謝さえ感じないことが
よくあります。

困難は強さを育てる——困難が人を強くしま
す。援助ではなくて困難や葛藤、拒絶などが、
道徳的に筋金入りの人をつくるのです。楽をし
すぎたり、責任を負うことを避けたりしていま
すと、道徳的な力と強い精神力を持った責任あ
る人物となるはずの人が、弱虫になり、つまら
ない人間になってしまいます。

問題に勇敢に立ち向かう子を育てる——人は
みな家庭や学校における訓練のほか、人生の

きびしい訓練に会わなければなりません。これに賢明に対処するにはどうすればいいかということ少年少女たちにはつきり教えなければなりません。この世において罪の結果として、どんな人の一生にも苦難や悩みや重荷があるということはまた事実であります。こうした悩みや重荷に勇敢に対処することを子供たちに教えておけば、それは彼らのために一生の間、益となります。子供たちに同情はしなければなりません、その同情は彼らに自分をあわれむような感情を起こさせるようなものであってはなりません。子供たちにとって必要なのは、彼らを弱くするものではなくて、激励し強めるものでなければなりません。

この世界は練兵場ではなくて戦場であるということ子供たちに教えなければなりません。だれでもりっぱな兵士のように苦難に耐えるべきです。われわれは心を強くし雄々しくふるまわなければなりません。この世において認められたり報奨を受けたりしなくても、自分から進んで重荷を負い、困難な立場を引き受け、しなければならぬ働きをすることに品性の真の価値が表わされるのだということ子供たちに教えなければなりません。

自尊心を大切にする——賢明な教育者は生徒を取り扱うときに、信頼心を深め、自尊心を強めることに努力します。信頼されているということは子供たちにとって益となります。たいいていの子供は、どんな小さな子供でさえも、強い自尊心をもっているのです。信頼と尊敬をもつ

て扱ってほしいというのはみんなの望みであり、それはまた彼らの権利でもあります。外へ出るにも内へはいるにも監視されているという気持ちをもたせてはなりません。疑惑の目で見られることは氣力をくじき、かえって防ぼうと努めている悪を招くことになります。少年少女たちには、自分は信頼されているという気持ちをもたせるとき、彼らはたいてい、その信頼に値する者であることを示そうと努力します。

七、自己に克つ

わがままな望みをかなえてやってはならない——親は注意していないと、子供たちが自分たちに注意をひき、特別なことを要求するのを許してしまうようになります。そうすると自分の小さい子供を甘やかせるために、親自身が自分を失うというはめになるのです。子供たちは親にいろいろなことをしてくれるように、また自分の望みをかなえてくれるように要求します。すると親はそれが子供たちの心に利己心を植えつけているという事実におかまいなしに、その望みをかなえてやります。ところがこうしているうちに、親は子供を誤らせ、後になって、子供の生涯の最初の数年間にした教育の影響をなくすことがどんなに困難なことかに気づくのです。わがままから出た望みは聞いてもらえないことを、子供は早いうちに教えられる必要があります。

泣いてほしがっても与えてはならない——母親が子供に何度でもくりかえし教える必要があ

る大切な一つの教訓は、子供が支配者ではないということです。子供が主人となるのではなく、母親の意志と望みがいばんに立つべきです。こうして子供に克己を教えるのです。子供が泣いて欲しがっても与えないようにしましょう。たとえあなたのやさしい心がそうしてやりたいと思っても、与えないほうがよいのです。子供は一度泣くことによって勝利を得たら、次のときもそうすることを期待します。二度目は戦いはもつとはげしくなります。

怒りの感情を表わすことを許してはならない——母親として第一にしなければならぬ仕事に、幼児の感情を抑制することがあります。子供たちに怒りを表わすことを許してはなりません。彼らの益にならないものを与えられなかったといって、床をころげまわったり、物を叩いたり、泣き叫んだりすることを許してはなりません。私は子供を甘やかして怒りの感情をむき出しにすることを許している親が、どれほど多いかを見て、失望しました。母親たちは、こうした怒りの爆発を何か耐えるべきもののように思っています。そして子供の行動に注意を払おうとしません。しかし悪いことが一度許されると、それはくりかえし行われます。それは習慣となり、子供の性格に悪い鋳型をはめてしまします。

悪い心をしかる——わたしは幼児が何かの理由で自分の思うことが通らないと、体を投げ出

したり泣き叫んだりするのをたびたび見ました。こういう時こそ、その悪い心をしかなければなりません。幼児たちはどんな精神が彼らに影響を与えているかを見分けることができません。ですから親は彼らにかわって判断し識別すべきです。親は子供の習慣を注意深く見守らなければなりません。悪い傾向を抑制し、幼児の心が正しいことを好むように励ますべきです。幼児が自分を統御できるように、あらゆる努力をはらって、彼らを励ましましょう。

動揺したり優柔不断であってはならない——子供の強情な性質はできるだけ早く直さなければなりません。このことを怠って引きのばしていると、それだけ矯正が困難になります。短気で感情的な性質の子供は、両親の特別な注意が必要です。このような子供は、とくにやさしく、また断固とした方法で扱うべきです。この場合、両親の側に動揺や優柔不断があってはなりません。子供たちに特有の短所が大きくなるのを自然に妨げるような、性格上の特性を注意深く育て強めなければなりません。感情が激しく、強情な性質の子供を甘やかすことは、その子供を破滅させることになります。子供の欠点は年とともに強まり、頭脳の発達を遅らせ、善良で気高い性格をみな失わせる結果になります。

親の模範——ある親たちは自制心をもっていません。彼らは自分たちの不健康な食欲や激し

い感情を抑えません。それですから、彼らは子供たちに節制するように教育したり、自己に克つことを教えたりすることができないのです。

子供に克己心を教えたいなら、親はまず自分がその習慣を作らなければなりません。親が子供に怒りをぶちまけたり、子供のあらさがしをしたりすれば、短気で、怒りやすい性質の子供にしてしまいます。

自分を統御する——親が安楽と娯楽を好むあまり、神がお定めになった働きをしていない家庭があります。今日の青少年にみられるような恐ろしい状態は、もし彼らが家庭で正しい訓練を受けていたならば、なかったはずです。もし両親が神から与えられた仕事を引き受けて、教えと模範によって子供たちに自分の感情を抑えること、自分の欲望を捨てること、また自分を統御することを教えたいならば、神の意志に従って自分たちのつとめを行っている間に、キリストの学校で貴重な教えを学んでいることになるのです。彼らは忍耐、愛、謙遜を学びますが、これこそ彼らが子供たちに教えなければならぬものなのです。

親が道徳的な感受性を強くし、新しい気力をもって、これまで怠けていた仕事を始めたなら、失望したり仕事を邪魔されたりしてはなりません。よいことをするのに疲れはてている人があまりに多いのです。予期しない出来事に対処するためには、知識をもつと共に、大変な努力、

たえまない克己、また一層豊かな恵みが必要となることを知って、失望し努力をやめ、魂の敵の言いなりになってしまう人たちがいます。しかし、この仕事は毎日に、月毎に、また年を追って、子供の品性が築かれ、正しい習慣がつくられるまで継続されるべきものです。あなたは努力することをやめてあなたの家族をしまりのない、無政府状態になるままに放っておくことがないようにすべきです。

自制を失ってはならない——「怒ることをおそくする者は勇士にまさり、自分の心を治める者は城を攻め取る者にまさる」と賢者は言いました。感情的になるような誘惑を受けた時、心の平静さを保つことができる男女は、軍隊を率いて、戦いに勝利する最も有名な将軍よりも、神とみ使いたちの前に高く立つのです。名高い一人の皇帝は臨終の床で、「わたしがしたすべての征服の中で今わたしに慰めとなるものがあるとすれば、それはただ一つ、自分の狂暴な気性を征服したことである」と言いました。アレキサンダーやシーザーは、自己を征服するよりも世界を征服するほうがはるかにたやすいことを知りました。次々に世界の国々を征服して、彼らは倒れました。その一人は「不節制の犠牲となり、もう一人は向こうみずな野心の犠牲となって」倒れたのです。

子供を注目の的にしてはならない——二歳から四歳ぐらいまでの子供たちに、ほしいものなんでも手に入るなどと思いこませてはなりません。親は、幼い子供たちに、自分の欲望を抑えるということを教えなければいけないのです。自分たちが家庭の中心であり、なんでも自分たちの思いどおりになるなどとは、決して子供たちに思わせてはなりません。子供たちの性質からこの悪い傾向を根こそぎ抜きとる努力をします。キリストは、貪欲でわがままな人たちを、何度も叱責なさいました。親は自分の子供たちの中に利己的な性質のきざしを見たら——それが自分たちの目の前であらうと、あるいはよその子供たちと遊んでいる時であらうと——そうした傾向を抑えて取り除くように努めなければなりません。

小さい苦痛や不快なことを忘れる——ある親は子供を遊ばせるために多くの時間を費やし、手段を尽くしますが、子供が自分の才能や技術を働かして、自分で遊ぶように訓練しなければなりません。そうすれば、非常に単純な楽しみで満足するようになるのです。また子供が小さい失望や試練に勇敢に耐えるように教えるべきです。小さい痛みや外傷を一つ一つ取りあげず、かえって子供の気持ちをそらし、小さい苦痛や不快なことを軽く忘れてしまうように教えましょう。

自己を忘れる精神——どの子供の心にも特につちかわれて宿らなければならない特性の一つは、自分を忘れる精神です。それは知らず知らずのうちに人生を美しくします。これはすべてのすぐれた品性の中で最も美しいもののひとつであり、人生のあらゆる真実な働きをなすにあたって欠くことのできない資格の一つであります。

人を思いやる精神を子供に教えるにはどうしたらよいか、研究しましょう。服従と克己、そして人の幸福に関心を寄せるということが、小さい時から子供の身につくようにしなければなりません。短気を抑え、感情的な言葉を出さないようにし、いつも親切で礼儀正しく、自分を制することができるよう、子供たちに教えてやらねばなりません。

親は、子供たちのうちに見られるあらゆるわがままな傾向をなくすために、どんなにか注意深く子供たちを扱わねばならないことでしょう。子供たちが、人に対して思いやり深くなり、また、自分たちのためになんでもしてくる両親の役に立つ者となることを学ぼう、親はいろいろな方法をたえず示唆してやらねばなりません。

八、静かにすること、尊敬

余計な騒音や騒ぎを抑える——母親は最大の勤勉さと細心の用心深さをもって、子供たちの世話をしなければなりません。子供たちは未熟で無知な心からいっばいに溢れ出るあらゆる衝動に、機会さえあれば従おうとしているのです。彼らは元氣いっばいに家の中で騒音をたて、騒ぎまわります。これは止めさせなければなりません。子供たちはこうしたことをしないように教えられても、同じように楽しくしていることができません。来客の時は静かに礼儀正しくすることを教えましょう。

家庭では静かにする——子供たちには規則に従うことを教えましょう。子供だから家の中でたてたいだけの騒音をたててもいいと、彼らに思わせてはなりません。美しい家庭生活がそくなわれないように、よく考えられた規則をつくり、それを実行しましょう。

親は子供たちに叫んだり、わめきちらしたりすることを許すとき、その子供たちに悪いこと

をしているのです。軽率で騒々しくすることを許してはなりません。子供の幼い時にこのような性質をとめないでよくと、大きくなって宗教生活や仕事にまで、もっと強力な性質を持ちこむようになるでしょう。子供は家の中で静かにするように教えられても、けっこう楽しくできるものです。

経験のある人の判断を尊重するように教える——経験のある人の判断を尊重するように、子供たちに教えましょう。子供たちの心が親や教師の心と一致するように教育し、彼らの言うことを聞くほうが正しいと子供たちが知ることができるようになるように教えましょう。そうすれば子供たちが指導者の手をはなれたとき、彼らの品性は風にそよぐあしのようになることはありません。

母親としての威厳をもつ——もし家庭で子供たちが親を敬わず、服従せず、感謝せず、おこりっぽいという状態を許されているならば、親の責任は重大です。

母親は母親としての威厳をもって、家族を賢明に治めるべきです。家庭では彼女の感化力が最も強いのです。彼女の言葉は法則となるべきです。もし彼女が神の統治の下にあるクリスチャンならば、子供たちの尊敬を受けることができます。子供たちにあなたが要求することを、はっきり話すようにしましょう。

親が親としての権威を維持していないと、子供たちは学校へ行つて、校長や教師に対して尊敬の態度を持たなくなります。彼らは当然持たなければならぬ敬虔さや尊敬することを、家で教えられなかったからです。父と母は子供と同じ立場にいたのです。

尊敬の心は服従することによって現われる——本当の尊敬の心は、服従することに現われることを子供に教えましょう。神は不必要なことは何もお命じになりませんでした。神が語られたことに服従することによって神を喜ばせるほど尊敬の心を現すよい方法は他にありません。

九、きちんとする、秩序を守る

きちんと上品にする——何事もきちんと、折り目正しくできるようにさせることは、子供の教育上とても大切なことです。

あなたは子供たちの保護者また教師として、家の中のどんな小さな事でも、きちんと、品よくするようにしなければなりません。服装をきちんとするという大切なことを、子供たちに教えましょう。そのためにはあなた自身、清潔で感じのよい、そして上品な服装をしなければなりません。

どの家庭もみな、きちんとすることと清潔さと、そして何事でも徹底的にやるという習慣をつける必要があります。

神に対する愛は子供に対する愛となって家庭の中で表わされます。本当の愛は、それがいちばん手がかからないからといって子供たちを怠けるにまかせたり、だらしくさせたりはしません。子供たちを本当に愛している両親が、勤勉な習慣を身につけさせようと、やさしさの中

にも毅然とした態度で正しい模範を示すなら、子供たちもまた自分たちの子供を、同じようにきちんとした態度で教育するようになるでしょう。

衣服の整理整頓を教える——子供がまだ小さいうちに、自分の衣類を片付けることを教えるやりましょう。物をしまふ場所を与え、どんなものでもきちんとたたんで、きめられた場所にしまわせるのです。安いタンスなどを買ってやるのもちよつと無理なようでしたら、何か洋品類などの箱にでもたなをつけて、明るくてきれいな模様の布でおおい、タンスの代わりに使つてごらんなさい。整理整頓を教えるこの仕事は、毎日少しずつ時間をとるでしょうが、子供の将来に大きな益となることですし、結果的には親の時間と労力を大いに節約することにもなるのです。

自分の部屋はいつもきちんと——もし子供が自分の部屋を与えられ、それをいつもきちんと片付けて居心地よくしておくよう教えられるなら、子供は家の中に自分自身の家があるという気がして、そこをきちんとし、きれいにしておくことに満足を感じることでしょう。ただし、母親は必ず子供たちのしていることを調べ、忠告したり教えてやったりする必要があります。これは母親の仕事です。



就寝時間をきちんと守ると生活にリズムがでています。

睡眠時間は規則正しく——昼を夜のようにし、夜を昼のようにするという悪習慣が、なんとたびこつていることでしょう。多くの青年たちは、小鳥の歌声とともに早く起き、自然界が目覚めるとともに活動していなければならない朝の時間に、ぐっすりと眠っています。

秩序と規律にひどく反抗する青年たちがいます。彼らはきまった時間に起きるという家庭のきまりを尊重しません。朝日がさしてきて、みんなが活動する時になっても、まだ何時間も寝床にはいつています。彼らは、自然がちょうどいい時に備えてくれた光の代わりに、人工的な光に頼って夜遅くまで勉強していますが、そうすることによって実は、貴重な機会をおぼけているばかりでなく、大きな損失を招いているのです。しかも彼らは大ていの場合、「全部しき

れない、まだやることがある、早く寝るなんてできない」などと弁解しています。規則正しい生活という大切な習慣を破り、朝の時間をむだに過ごしてしまうと、一日全体の調子が狂ってしまうものです。

もし青年たちが、規則正しさという習慣を身につけるなら、健康も精神も、記憶力も、そして性格さえも、非常によく become することでしょう。

きちんとした生活習慣を守るということは、すべての人の義務です。若いあなたがた、これはあなたがた自身のためなのです。規則正しい生活は、あなたがたの心にも体にもいいのです。朝起きた時、その日にしなければならぬことを、できるだけきちんと考えてみましょう。必要とあれば手帳などを用意して、しなくてはならないことを書き留め、予定を組んで仕事をするようにしてごらん下さい。

物をこわさないようにさせる——教育はかたよったものであつてはなりません。母親は勤勉である必要があります。彼女は心を他のことに散らすことを許してはなりません。母親は子供たちによく教え、勝手に家の中の物を扱うことのないようにしなければなりません。子供たちは遊びのために物を使って、家の中をいつもちらかしておくのですが、それはいけないことを教えましょう。子供たちがまだ小さいうちに、家の中の物は何でも自分の遊び道具だと思わな

いように教えましょう。こうした小さいことによって、彼らに秩序を教えることができます。子供たちがどんなに文句を言っても、彼らの破壊本能——それは嬰兒期や幼児期に強い——を強め、発達させてはなりません。親は短気をおこさず、きちんとした態度で、子供たちに、「してはなりません」とはっきり言い、そうさせなければなりません。

親は子供たちが家の物を勝手に扱い、床の上やごみの中に捨てたりするのを決して許してはなりません。そのようなことを子供に許しておく親は、その子供に対して何か大きなまちがいをしているのです。その子供は悪い子供ではないかもしれませんが。しかしその子が受ける教育は、その子を非常にやっかいで破壊的な性質の子にしていくのです。

他の人の持ち物を大切にすることを教える——ある親たちは、自分の子供たちが破壊的で、触ってはならない物をおもちゃにするのを許しています。子供たちに他人の物を勝手に扱ってはならないことを教えましょう。子供たちは物の扱い方のきまりを守ることを学ばなければなりません。それは家族の幸福を守るために必要なことです。子供は目に見るものを全部いじりまわしても決して幸福ではありません。もし彼らが物を大切にするように教育されないならば、彼らは愛らしくない、破壊的な性質をもつ人間になってしまいます。

丈夫で長もちするおもちゃ——子供にこわれやすいおもちゃを与えないようにしましょう。そうでないと、子供に物をこわす快感を教えることになります。子供には数を少なく、丈夫で長持ちするおもちゃを与えましょう。このような提言は小さいことのように見えますが、子供の教育には大切なことなのです。

一〇、健康と清い生活

健康教育は早くから——人間を創造された神は、わたしたちのからだの生きた機械装置を組み立てられました。どの身体機能も皆、驚くほど巧みに造られています。そして神は、それを働かせる人間が神の律法に従い神と協力するならば、この人体機構を健康に活動させようと約束なさいました。わたしたちは自然の中の神のみわざを見て感嘆しますが、しかし実は人体こそ最も不思議ですばらしいものなのです。

物心がつくころから、人は身体の構造について知っていなければなりません。主はここにご自身の型をお与えになりました。というのは人間は神のみかたちにかたどって造られたのですから。子供がまず最初に学ばなければならないことは、自分自身を知り、どうしたらからだを健康に保つことができるかを知ることです。

いちばん大切なこと——幼い子供の教育にあたっては、心身共に健康な状態が確保できるよ

う、身体に最大の注意を払う必要があるということを、多くの親や教師は理解していません。家族の将来の幸福と社会の繁栄とは、子供たちが幼年期にどんな体育と徳育を受けるかにかかっています。

生理学を教える——もし親たち自身が「健康に関する」知識を持ち、そして愛する子供たちの教育にあたってそれを実際に用いることが大切だと気づくなら、子供たちや青年たちに見られる状況は、今とは違ったものになることでしょう。子供たちは自分のからだについて教えてもらう必要があります。人間の生命の神秘についてははっきりした知識を持っている青少年はほとんどいません。彼らは人体の生きた機構についてほとんど知らないのです。ダビデは言っています、「わたしはあなたをほめたええです。あなたは恐るべく、くすしき方だからです」と。

子供たちに、原因から結果に至るまでを研究するよう教えなさい。つまり、からだの法則を破るなら、病気で苦しまねばならなくなる、ということをお教えるのです。努力しても少しも進歩しないように見えても、がっかりしてはいけません。一つ一つ、少しずつ、しんぼう強く教えましょう。勝利を得るまで押し進めていきなさい。からだについて、またからだの取り扱いについて、子供たちに教え続けましょう。からだの健康を考えない人は、品性においても思慮分別を失いがちです。

家族全体の健康と自制——健康な生活は、家族全体の問題であるべきです。両親は神から与えられた責任に目覚めましょう。健康改革の原則を学び、自制こそ唯一の安全な道であることを子供に教えましょう。この世の多くの人々が、身体の法則を軽んずることによって自制の力をなくし、自分自身を永遠の事物を悟れないものにさせています。人々は自分のからだの構造を知ろうとしないために、自分たちの子供を放縦の道に導き、こうして子供たちが自然の法則を犯して苦しむ道を準備してやっているのです。

からだの訓練——からだを成長させるための訓練は、心の訓練よりずっと容易にできます。子供部屋や遊び場、親の仕事場、それから種まきや刈り入れのときなど、こうしたものはすべてからだの訓練を与えるものです。普通に活動できる良い環境にあれば、子供は自然に健康的な体力を得、からだの諸器官も正常に発達するものです。しかし、それでも子供は、身体的な面において注意深く訓練されなくてはなりません。

自然の法則に従う——子供たちは自分のからだの器官について、正しい知識を持つように教えられねばなりません。痛みや病気を免れたいなら、からだの法則に従わなければならないことを、早くから忍耐強く教えれば、子供は理解することができます。病気でからだをこわして



土に親しむことは親にとっても子どもにとっても、はかりしれない益をもたらします。また動物の世話も心の成長にはよい働きをします。

しまったら、十分に活躍できなくなってしまうということ、子供たちにわからせなければなりません。そしてまた、自然の法則に従わないことによって自ら病気を招くようでは、神に喜ばれることはできないということも。

清潔を第二の天性とする——家庭が不潔であることはたいへんな間違いです。なぜならそれは事実上悪い教育をしていることであって、影響甚大だからです。まだ赤ん坊のうちからでも、子供の心と習慣を正しい方向に向けなくてはなりません。体であろうと衣服であろうと、不潔は神に喜ばれないということを、子供たちに教えましょう。また清潔な食べ方で食べることを教えてやりましょう。こういった習慣が子供たちにとって第二の天性となるよう、たえず気を

つけてやらねばなりません。

これらの小さな義務があるそかにされてはならないということを、みんなが理解したらどんなにいいでしょう。子供時代の習慣ややり方が、大人になってからの全生涯を形造っていくのです。子供は特に印象に敏感ですから、乱雑にさせないことによって子供に衛生上の知識を与えることができます。

家のまわりを清潔に——もし両親が子供たちのために、何か仕事を見つけてあげるなら、家中の人が助かり、恵まれることでしょう。牧師や教師たちは、体の健康と霊的な健康にとってこれほど大切なこの問題を、なぜもつとはつきりさせないのでしょうか。少年少女たちは、自分たちが家庭という組織の一員であることを自覚する必要があります。子供たちは、自分たちの家のまわりの見苦しいものは全部片づけて、いつもきれいにしておくよう努力しなければなりません。このことについて、子供たちに教えてやりましょう。

どんな種類のものであっても、不潔は病気を招きます。死を引きおこすような病原菌は、暗いそうじの行きとどかぬ隅、腐敗した廃物の中、湿気、腐植土、かびの中に繁殖します。野菜の残りや落葉の山が家のそばに放置され、腐敗して空気を汚毒するままにしておいてはなりません。また不潔な物や腐敗した物は何一つ家の中に置いてはなりません。

完全な清潔、十分な日光、および家庭生活の細部にわたって注意することが病気にかけられないため重要であり、家族が幸福であり、元気であるための必要条件です。

健康に不可欠な清潔——肉体の健康にとっても精神の健康にとっても、清潔ということが絶対に必要です。皮膚を通してからだからは絶えず不純物が排泄されており、しばしば身体を洗って清潔にしておかなければ、たちまち幾万の毛穴がふさがり、このため皮膚から排泄されるべき不純物は他の排泄器官にとって余分の負担になってしまいます。

たいていの人には毎日、朝か晩の冷水浴か微温湯浴がからだのためになります。入浴は適当な方法とするなら、かぜをひきやすくするどころか血液循環をよくし、かぜに対する抵抗力を強めます。血液は体表面に導かれ、ずっと楽に規則正しく循環するようになります。そして心身ともに元気になり、筋肉は動かしやすく頭脳は明せきになります。入浴は神経をしずめ、胃腸や肝臓の働きを助け、それに健康と力を与え、また消化力を増進します。

衣服を清潔にしておくことも重要です。下着類は毛穴から出る老廃物を吸収するので、それをたびたび洗濯して着替えないとその不純物はまた元に吸収されてしまうからです。

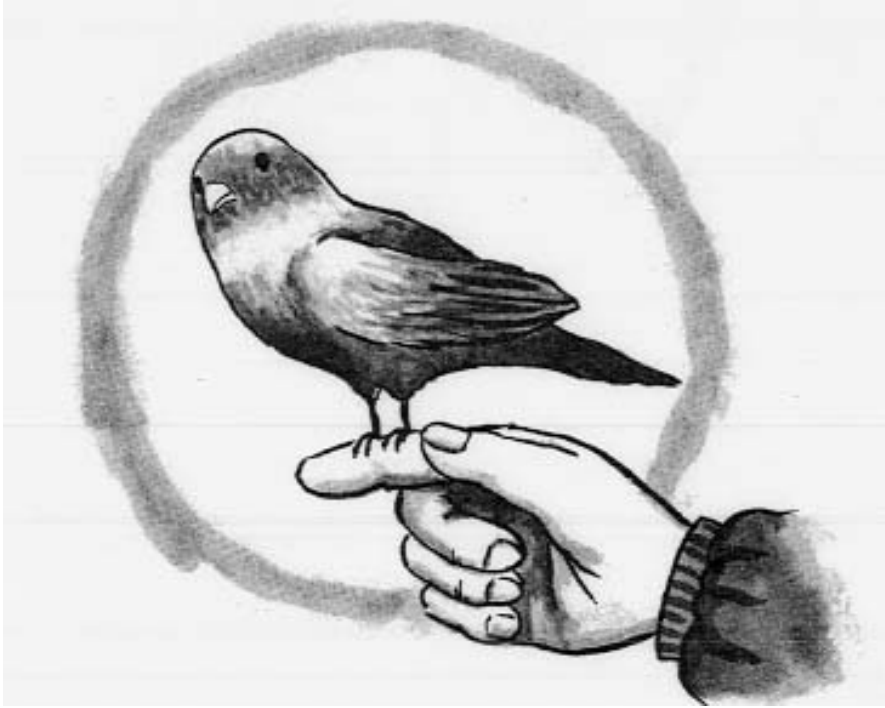
まず清潔な環境を——わたしにはとてもたえられないほど、ひどい不潔なおいを放ってい

る子供たちのベッドを、わたしはしばしば目にしました。日夜子供たちの目にとまり、からだに触れるものは、すべて清潔で衛生的にしておくべきです。これが清潔で清いものを選ぶように子供たちを教育する、一つの手段となるのです。高価な家具などなくてかまいません。子供たちの寝室はただきちんとしておくことが大事なのです。

純潔を教える——子供たちを悪い影響から守るために、親は純潔という原則を教えてやらねばなりません。服従と自制という習慣を家庭で身につけた子供たちは、学校生活にほとんど困難を覚えず、また青少年を襲う多くの誘惑を免れることができます。親は子供たちを、どんな境遇どんな場所にあっても、神に真実であるよう教えなければなりません。そして品性を強くするような感化を及ぼすものを、子供たちのまわりに置いてやらねばなりません。子供たちは、そうした訓練を受けるなら、学校に送られても迷惑や心配の種になったりするようなことはないのです。そのような子供たちは、教師にとって助けとなり、生徒たちの中の模範、また励ましとなります。

生活を清く保つ——親や保護者たちは子供たちを清い者にしたいと思うなら、まず自分たち自身が心と生活を清く保たなければなりません。必要な教えを与えるとともに、絶えず注意深

性教育の基本はいのちをいとおしみ大切にする
心を育てることにあります。



くなければなりません。青少年の頭には毎日新しい思想が呼びさまされ、心には毎日新しい印象が刻みつけられていきます。どんな友人たちとつきあっているのか、どんな本を読んでいるのか、どんな習慣を身につけていっているのかなど、こういったことをみな注意深く見守る必要があります。

家庭を清く魅力あるところにする——家庭を清い清潔なところにしておかなくてはなりません。家の中に、不潔なままで顧みられない場所があると、そこに住む人の心の中にも、不純なままで顧みられない場所ができてくるのです。お母さんがた、あなたがたは子供たちの教育者です。子供たちの部屋を清潔に、感じよく、そして魅力的にしつらえることによって、早くか

ら清い思いを教えはじめると、それは本当にすばらしい効果があります。

交友関係に注意する——軽率でだらしない退廃的な習慣から子供たちを守るために、親はどんなに注意を払わねばならないことでしょうか。ご両親がた、あなたがたは、自分たちがどんなに大切な責任を負っているか、気づいてらっしゃいますか。あなたがたは、子供たちがどんな友人と交わり、どんな感化を受けているかも知らないで、だまってつきあうがままにさせていますか。子供たち同士だけでいさせて、何の注意も払わないのは、よくありません。子供たちには特別な配慮が必要なのです。子供たちが毎晩どこにいて、何をしているか、知っていなければなりません。子供たちが身につけている習慣は、みな清いものでしょうか。あなたは心の純潔という大切なことを、子供たちに教えてきましたか。もしこのことをきちくと教えてこなかったなら、今すぐにでも、大事なことを怠ってきたということを子供に打ち明けましょう。そして、これからは神に命じられたことを実行していくつもりであること、そのために協力してほしいということを話しましょう。

放縦に対して防壁を築く——神のかたちに造られた子供たちの、魂と肉体という神の大切な財産をあずかっている人々は、現代の肉欲的放縦に対する防壁を築く必要があります。この放

縦のために、何干という青少年たちが、心と体の健康をむしろおぼれているのです。現代の多くの犯罪の真の原因をつきとめていくなら、こうした問題に無関心で、あまりにも無知な父母たちに責任があるということがわかります。まことに嘆かわしいこの無知のために、健康も、命そのものも、犠牲にされているのです。

親たちは子供たちに教育を施すよう、神から命じられています。この義務をもし怠るなら、その結果については神に申し開きをしなければなりません。子供たちを正しく教育することを怠ったその影響を受けるのは、当の子供たちだけではありません。ちょうど畑に一本のアザミが生えるのをそのままにしておくなら、やがてはびこっていくように、正しく教育されなかった子供たちは、自分たちが交わるすべての人々に悪い影響を及ぼしていくのです。

純潔なもので心を満たす——もし子供たちの心が、まだ柔らかくて感受性に富む時に、真実なもの、清いもの、良いもので満たされるなら、子供たちの内には純潔で高尚なものを好む傾向が形造られ、そう簡単には悪い思いや汚れた思いに負けたりしなくなります。それとは逆に、親がいつも低俗な事に心を奪われたり、くだらないことばかりしゃべったり、ほかの人たちのことをあれこれ不平を鳴らしてばかりいたりするなら、子供たちは親の低俗な言葉や表情から学んでいき、その有害なお手本にならうようになってしまいます。悪の刻印はライ病の汚点のように、あとあとまでくっついて離れないものなのです。

一、人の役に立つ

家族の中での役割を教える——家庭という学校の中で子供たちに、日常生活の実際的な務めをどのように果たしていくかということをお教えする必要があります。母親は子供がまだ小さいうちから、日常の何か簡単な仕事をあてがうようにしましょう。子供たちにやり方を教えていると、自分でやるより時間がかかるでしょうが、子供の品性を築くにあたっては、人の役に立つということを基礎にしなければならないことを、心に留めねばなりません。母親は、家庭が一つの学校であって、自分がその主任教師であることを、忘れないようにしましょう。家庭での務めを手早く上手にいくことを子供に教えるのは、母親の仕事です。子供はできるだけ早くから、家庭での責任を分かちあうよう訓練されねばなりません。男の子も女の子も、子供の時から、だんだんと重い責任を負うようになっていき、家族という一つの団体の中で賢明に役割を果たしていくよう教えられねばならないのです。

掃除、洗濯、食器洗い、庭の手入れなど子どもも家庭の一員としての責任を与えましょう。



子供らしい間違いは大目にみる——家庭では
とんど教育されずに、ほっておかれる子供たち
がたくさんいます。「ほんとに世話が焼けるわ
ね。これなら自分でしてしまったほうが楽よ。
かえって手がかかって大変なもの」と、母親は
こぼします。

母親たちは、自分たちも人の手助けができる
ようになるまでには、いろいろ小さなことまで
教えてもらわなくてはならなかったということ
を、忘れてしまったのでしょうか。子供たちに
少しずつ教えようとしなないのは、子供たちを不
当に扱っていることになります。なんでも質問
させ、しんぼう強く答えてやらねばなりません。
幼い子供たちに、何かすることを与えてやり、
お母さんのお手伝いをしてるんだという喜びを
持たせてやりましょう。

子供たちが何かいいことをしようとしている時、それをはねつけたりしてはなりません。子供たちが間違ったり、思ったようにいかなくて失敗したりしても、責めてはいけません。子供たちの前途はみな、幼い時に親が与える教育にかかっているのです。

家事の責任を分担させる——子供たちの生活を楽しいものにしてやりなさい。そしてそれと同時に、親たちが大きな責任を負うように子供たちにも小さな責任を負わせ、素直で人の役に立つ者となるよう教えなさい。働くことが習慣となるよう教育するのです。そうすれば魂の敵が子供たちの心をとらえることはなくなるでしょう。子供たちに何か考えることを与え、何かすることを与えなさい。そうすれば子供たちは、この世においても来るべき世においても、役立つ者となることができます。

子供たちが早くから家事の責任を分担するよう、訓練しましょう。責任はお互いに負い合うものだということを教えてやらねばなりません。子供たちはまた、手早くきちんと仕事をすることを教えられる必要があります。このような教育が、後に子供たちにとって最も貴重なものとなるのです。

家族のひとりびとりは、他の人たちと協力してやっていかねばならない自分の役割を、正しく理解する必要があります。六才以上の者は皆、生活の責任を分担しなければならぬことを

自覚すべきです。

父母を助ける喜び——両親は子供がまだほんの赤ん坊の時から正しい訓育を与えるようにしなければなりません。これは本当に大切なことです。「あなたの父と母とを敬え。これは、あなたの神、主が賜わる地で、あなたが長く生きるためである」という戒めを、子供たちに教えましょう。そして子供たちが大きくなってから、親が自分たちにかけてくれた心づかいをありがたく思い、父母の手助けをすることにこの上ない喜びを見いだすようにしなければなりません。

つまらない仕事も楽しくできる——もし子供たちに、毎日のきまりきったつまらない仕事も、神によって定められたコースであり、忠実で効果的な働きができるよう訓練を受ける一つの学校であることを教えてやるなら、子供たちはどんなに楽しく、誇りをもって働くようになることでしょう。すべての務めを神に対するものとしてやるなら、どんなにつまらない仕事も魅力 را帯びるようになります、地上で働く人々を、天で神のみこころを行なう聖なるみ使いたちと結びつけるようになります。天使たちが天で忠実に働いているように、わたしたちも自分たちに割り当てられた場所で、忠実に義務を果たさねばならないのです。

一、勤勉

青少年を守るもの——若い人たちは有益な仕事に携わるときに、いろいろな誘惑から最も確実に守られます。与えられている時間をみな有益で楽しい仕事に使うよう、勤勉に働く習慣をつけられた子供たちは、自分にあてがわれた仕事に不平を言うこともなければ、ぼんやり空想にふけて時を過ごしたりすることもありません。そのような子供たちには、悪い習慣や仲間をつくったりする危険は、ほとんどありません。

勤勉には測り知れない価値があります。何か役に立つことをするよう子供たちに教えましょう。子供たちがこの世で有益で幸福な生活を送り、きたるべき世においても一層高い奉仕とより大きな喜びにあずかれるよう教育することが、どんなに大切であるか、それを両親が理解するには人間の知恵以上のものがが必要です。

年齢と能力に応じた仕事を——子供たちは幼い時から、それぞれの年齢と能力に応じた仕事

をするよう訓練される必要があります。親は子供たちがもっと自主的になるよう励ましてやらねばなりません。やがて地上は激しい悩みに見舞われます。子供たちがそれに対処できるように、訓練しておかなくてはならないのです。

人の役に立つ者となり、年齢に応じて責任を負うよう、子供たちを教育しましょう。そうすれば勤労の習慣は子供たちにとって第二の天性となり、有益な仕事を決して苦役とは思わなくなるでしょう。

怠惰の結果——子供になんの仕事も与えないでおくことによつて、神から賜わった責任をおろそかにすることほど、親にとって大きな罪はありません。なぜなら、このような子供はすぐに怠けぐせがつき、だらしない無能な人間になってしまふからです。彼らは大きくなって、生計をたて職業につくようになってからも、怠けてのらくらと働き、怠けて過ごしてもまじめにやっているのと同じように給料をもらえるだろうと考えます。このような種類の人々と、忠実に働かねばならないことを自覚している人々とは、あらゆる点で違っています。青年たちは、どんな種類の仕事にたずさわってしようとも、「熱心で、うむことなく、靈に燃え、主に仕え」なければなりません。なぜなら、小事に忠実でない人は大事にも忠実でないからです。もし子供たちが家庭で正しくしつけられるなら、よく見られるような、街にたむろしてくだ

らないことを覚えたりするようなことはなくなるでしょう。本当に子供を愛し、子供のことを思う親なら、子供たちに怠けぐせをつけさせたり、家の仕事のやり方も教えないまま育てたりはしません。無知は決して神に喜ばれることではありません。それは神のみわざをするのにマインナスとなるのです。

時間の生かし方——子供たちが時を最善に用い、親の手助けをし、自分で何でもきちんとやっていたりするように教育しましょう。必要とあればどんな仕事でも喜んでするようにしつけましょう。

時間は、測り知れないほど大切なものです。むだに費やされた時間は二度ととり戻すことができません。むだに過ごしてしまう時間を、正しく活用するということが、本当に大切です。

使わないでいると衰える——怠惰は大きなわざわいです。神が人間に与えてくださった神経や器官、筋肉は、使わないでいると衰えてしまいます。使うことによって強くし、健康に保たねばならないのです。何もすることがないということはいへんな不幸です。なぜなら怠惰は人間にとってずっとわざわいでしたし、これからもうだからです。

子供たち、あなたがたは家で決して怠けてはいけません。自分の務めを果たしなさい。

適度の筋肉労働は、あなたがたの骨と筋肉を丈夫にします。家の手伝いをすることによって、あなたがた自身が最も豊かに祝福されるのです。

働くことをまず覚える——母はわたしに、働くことを教えてくれました。わたしはよく母にたずねたものです。「どうしていつも遊ぶ前に、こんなにたくさん仕事しなくちゃならないの」「それはね、あなたが上手に仕事ができるようになるためと、もう一つは、いたずらしないうにさせておくためよ。もっと大きくなったら、きっとお母さんに感謝するようになるわ」。孫の一人がわたしに「ねえ、おばあちゃん。どうしてわたし編み物しなくちゃならないの。編み物はおばあちゃんたちがするものなのに」と言った時、わたしはこう答えてやりました。「それじゃおばあちゃんたちは、どうやって編み物をおぼえたのかしら」。「あら、それは小さい時に習い始めたからだわ」。

一日の計画を立てる——その日にしてしまうことを、できるだけ考えておくようにしましょう。しなければならぬいろいろな仕事を書き留めておき、それぞれに時間を割り当てなさい。すべてのことを徹底的に、きちんと、てきぱきとしましょう。もし寝室の仕事を割り当てられたなら、空気の流通はどうか、寝具はよく日光に当てられているかどうかなどを見ましょう。

その仕事をするのに一定の時間をきめ、途中で目にとまる新聞や本を読んだりして手を休めたりしないで、「しなければならぬこと」がたくさんある。決まった時間のうちにすませてしまわねば」と自分に言ってきかせなさい。

食事の支度があなたの仕事であるなら、注意深く計画をたて、十分時間をとって食事をととのえ、予定どおりの時刻にきちんと配膳できるようにしましょう。食事の用意は、最初の予定より五分早くできるほうが、五分遅れるよりもいいのです。しかし動作ののろい人、または手順ののろい人は、短い時間ですむはずの仕事も長くかかってしまいます。このような人たちは、それを改めて、もっと手早くするよう努力する必要があります。そのように努めるなら、ぐずぐずして手ばかりかかるといふ悪い習慣を克服していくことができます。お皿を洗うにしても、注意深くしかも手早くすることができます。そのように意志を働かせるなら、手も敏速に動くようになるのです。

頭も体もいっしょに働かせる——よその子供たちをしばらく家に下宿させた時など、子供たちが「自分で自分のものを洗おうとせず」「母はわたしには洗濯をさせたがらないんです」と言ったりすると、わたしはこう答えたものです。「そう、それじゃうちでして上げるから、その代わりあなたの下宿代をもう半ドル余計に出していただくわね」。「いえ、それは困ります。母は

もうこれ以上わたしのために出してくれませんか。」「それだったら、朝起きた時自分でしたらどうなの。なんでも他の人にしてもらうというのは、決して神様の望んでらっしゃることじゃありません。あなたが寢床にいて、お母さんが起きて朝食の仕度をするというんじゃないくて、あなたが起きて上げて、『お母さん、まだ寝ていいですよ。わたしがんばるとやるから』と言って上げるようでない。と。だんだん白髪になっていく人たちは、朝は休ませて上げなさい」。

どうして現実にはそんなふうにかないのでしょうか。どこに問題があるのでしょうか。問題は、子供たちに家庭の仕事をさせようとしなない親たちにあるのです。このような子供たちが学校へ行くようになると、「ママはわたしに、仕事しなくてもいいって言ってます」と言うようになるのです。なんと愚かな母親たち。彼女たちは自分たちの子供をだめに行っているのです。しかもそんな子供たちを学校にやって、学校までだめに行っているのです。子供たちをしつけるには、仕事をさせるのがいちばんです。それは子供たちにとって、母親が思うほど負担ではありません。知能といっしょに体も働かせましょう。そうすれば知力もつとよく発達していきます。

子供の手助けを感謝する——子供たちを有益なこのために忙しくさせておくよう、両親はいろいろ工夫する必要があります。もしできれば、子供たちに小さな土地を当てがって耕させ、そこでできたものを自由献金としてささげることができるよう工夫するのもよいことです。



子どもが一生懸命に手助けをしてくれたとき心から感謝しましょう。そうすれば、子どもの心は喜びでいっぱいになります。この喜びが無償の愛の基礎をつくるのです。

子供たちができることは何でもして親を手伝うようにさせなさい。そして親は、子供たちの手助けに対して感謝の気持ちを表わしましょう。家族という団体の一員であるという自覚を、子供たちに持たせましょう。仕事を手早くきちんとやるために、できるだけ考えて計画を立てるよう子供たちに教えてやりなさい。仕事は機敏にしかも効果的にやるように、そして割り当てられた時間を一刻もむだにすることのないよう経済的に使うように教えてやりましょう。

労働は神聖——子供たちの手が小さくまだ力も余らない時から親を手伝うことを教えましょう。労働は神聖であって神がお定めになったものであり、心身の健全な発達になくてならないものとしてエデンでアダムに与えられたもので

あることを、子供たちにしっかり教え込みましょう。ただの遊びなどよりも実際に役に立つことを一生懸命やる方が、はるかに心に満足が与えられるものであることを教えてやりなさい。

仕事を完成した時の満足感——子供はよく一つのことを夢中になって始めますが、ちょっとむずかしくなったり疲れたりすると、何かまた別のことをしたがるものです。こうしていろいろなものに手を出しては、ちよつとむずかしいとがっかりしてやめてしまいます。そして何一つきちんとは仕上げないで、次から次へと移っていくのです。親は、そんなふう子供たちがすぐに何でも変えたがるのを、許しておいてはなりません。ほかのことに追われて、成長していく子供たちの心をつかり訓練してやるひまがないというようではいけないのです。ちよつと励ましてやれば、あるいは、ちよつどいい時にちよつと助けてやれば、子供たちは困難や失望を乗り越えることができるのです。そしてまた、手がけた仕事が完成したのを見る時の満足感、子供たちに、もつと大きなことをやってみようという刺激を与えてくれます。

子供たちの多くは、励ましの言葉や、ちよつとした助けがないために、失望落胆してまた別のことに移っていくのです。そしてこの悲しむべき欠点は、大人になってからもつきまといまゝす。がっかりさせられるようなことにも耐えられるよう教育されてはこなかったために、何をやっても成功を収めることができません。こうして多くの人々は、若い時に正しい訓練を受け

なかったために、生涯を失敗に終わってしまいます。子供時代と青年時代に受けた教育は、成人してからの職業生活全体に影響を及ぼします。そして宗教生活も、そうした「若い時に受けた」教育に見合った性格のものとなります。

怠け癖はあとあとまでたたる——ちやほやされ世話を焼かれてきた子供は、いつもそうしてもらえるものと思ってしまう。そしてその期待どおりにいかないと、失望し落胆してしまうのです。この傾向は一生を通じて見られるようになります。無力で、いつもだれかの助けに頼り、人が自分に好意を示してこちらの要求を通してくれると期待します。そしてもし反対でもされると、たとえおとなになっても、自分はひどい扱いを受けたと思い込んでしまうのです。こうして、このような人たちは、自分自身の責任を負いきれず、何もかもうまくいかないところほしたりイライラしたりして、苦しみながら世の中を渡っていくのです。

何でも手早く、徹底的に——子供たちは母親から、何でもきちんとして徹底的に、しかも手早くするという習慣を学ばねばなりません。三十分もあれば簡単にできる仕事に、子供が一時間も二時間もかけるのをそのままにしておきますと、子供はのろのろした習慣を身につけるようになってしまいます。勤勉と徹底性という習慣は、人生というより大きな学校に入っていないかねば

ならない青年たちにとって、測り知れない祝福となります。

おしゃべりをやめる——わたしがとても不愉快になり心配になるもう一つの話は、つまりないことばかりしゃべって貴重な時間を浪費する、女の子たちのおしゃべりぐせです。女の子たちがしゃべることに夢中になると、仕事はどうしても長びきます。こういったことはささいなことで、余り気にしなくてもいいと思われてきました。しかし多くの人が、ささいなことの持つ意味について思い違いをしています。小さなことが大きなことにつながるのです。

「小さなこと」の大切さ——小さなことの大切さを見くびってはなりません。人は小さなことによって、実際にしつけられ、訓練されて行くのです。小さなことによってわたしたちは、キリストのかたちへと成長したり、あるいは悪魔に似た者となったりするのです。

失敗を踏み台とする——どんな間違いも、失敗も、困難も、もしそれを乗り越えるなら、それは、もっと良い、もっと高いものへの踏み台となるということ、子供たちや青年たちに教えてやりましょう。生きがいのある一生を送ったすべての人がなしたげた成功は、皆このような経験から生まれたのです。

一三、節約の大切さ

浪費の習慣をなくす——神はわたしたちが持っているすべてのものの、本当の所有者であること、またこの権利を無効にできるものは何もないということ、子供たちに教えましょう。持っているものはみな、神からの預かりものにすぎません。そしてそれをどう用いるかによつて、神への従順が試めされるのです。金銭は必要なものです。ですから、不必要に浪費してはなりません。だれかがあなたの心からの助けを必要としているのです。もし浪費癖があるなら、できるだけ早くそれを断ち切りなさい。さもないと、あなたは永遠という富を失ってしまふでしょう。節約、勤勉、節制の習慣は、永遠の命に関係するだけでなく、この世においても、あなたや子供たちにとって、豊かな資産などよりもっとよい財産なのです。

ぜいたくにさせることが愛情の表現ではない——家庭で節約を実行しましょう。多くの人たちが偶像を大切にしている。偶像を捨てましょう。利己的な楽しみは捨てましょう。

物を少なくして簡素な生活をするように心がけないと、物の洪水によって心が荒らされます。物を大切にし倏約する習慣は、物に支配されない心を養います。



家を飾るために資材を注ぎこむことは、どうかやめていただきたいのです。なぜなら、あなたの持っているものは神の財産であり、またお返ししなければならぬものだからです。ご両親がた、どうか神の金銭を、子供たちのわがまを満足させるために用いたりしないでください。人の気を引くために流行や虚飾を追い求めることを子供に教えたりしないでください。

子供たちに、親が自分たちを愛しているなら、したい放題にぜいたくにさせてくれていいはずだ、などと思い込ませるような教育をしてはなりません。お金を使う新しい方法をあれこれ考えたりしているひまは、もうありません。できるかぎり工夫して、どうしたら節約できるか考えてみなければならぬのです。

パンくずのあまりを集める——キリストが五千人を養われたことの中には、わたしたちに対する教訓があります。これは、わたしたちが困難な事情の下におかれ、経済を切りつめることを余儀なくされている現在、特にあてはまる教訓です。キリストは、奇跡を行ない群衆の飢えを満たしてから、残った食物がむだにならないよう気を配られました。

キリストは弟子たちに、「少しでもむだにならないように、パンくずのあまりを集めなさい」とおっしゃいました。天のあらゆる財源を自由にすることがおできになったにもかかわらず、一かけらのパンくずさえもむだにはされなかったのです。

役に立つものを捨ててはならない——利用できるものを捨ててはなりません。これには知恵と先見の明、そして絶えざる注意が必要です。小さなことに節約できないということが、多くの家族が生活の必要に事欠いて困っている一つの理由であることを、わたしは示されました。

お金の正しい用い方——子供たちに、頭の中でだけ問題を解くのではなくて、自分たちの収入と支出を実際に正しく計算し、記録することを教えましょう。実際にお金を使わせることによって、正しい用い方を学ばせましょう。親から与えられたものであろうと自分たちで得たものであろうと、とにかく子供たちが自分のお金を持ち、衣類や本やそのほか必要なものを自分で

選んで買うことを学ぶようにさせてやりたいものです。子供たちは出費の記録をつけることによって、ほかの方法で学ぶことのできない、お金の価値と使い方を学んでいくことでしょう。

小遣い帳をつける——子供たちは小さい時から、読み、書き、計算ができ、そして自分で小遣い帳をつけるよう教えられる必要があります。子供たちは一步一步、こうした知識を身につけてつち成長していくことができます。

子供たちに小遣い帳をつけることを教えましょう。そうすれば子供たちは、正確さということとを学ぶようになります。金使いの荒い子供は、大人になってからも浪費家です。虚栄心が強く、わがままで自分のことしか考えない少女は、成長してからもういった女性になります。なお、わたしたち大人は、ほかの子供たちに対しても責任があるということを忘れてはなりません。もしわたしたちが自分たちの子供に正しい習慣をつけさせるなら、その子を通して、ほかの子供たちにも良い影響を与えることができるのです。

第六章

心を育てる方法

現代の教育は心の教育を忘れていられるとされています。それにはいろいろな理由があることでしょう。ただ心の教育は家庭において生まれてからすぐに始めなければならないものです。学校へ入る前に心の教育の大部分は完結しているのです。学校では幼児期に出した芽を育てているに過ぎないのです。

著者はここでもういちど幼児期の重要性をのべています。心を育てるという点から幼児期のあり方を考えるとき、著者は束縛を少なくし、遊びを大切にすることを強調しています。このことは著者の清教徒的背景を考えてみるとき大胆な主張と思われれます。子供には束縛はできるだけ少なくして、自由に活動できるようにしてやる必要があります。親は危険から守ってやるだけでよいのです。こうして自由に広い心を養うのが何よりも大切です。

もちろん子供の自由は、子どもの能力の範囲内にあるものです。たとえばタバコを吸ったり酒をのんだりする自由はありません。子供の発達の道程において、それぞれの時点にふさわしい自由があるのです。その自由にいつも干渉していますと、健全な心の発達は望めません。

心の健全な発達を願うならば、親の基本姿勢は静かであるべきです。それと同時に、子供への過度の関心を控えるようにします。そうすれば子供は自由な解放された心の状態になり、自分から能動的に環境に適応し、頭も体も使って物事をするようになります。親に理解され受容されているとき、子供は親との関係で余計な心理的エネルギーを使うことがないので、心配なしにより創造的な活動にうちこむことができるのです。創造的でいきいきした状態こそ、健全な心を示しています。

理解することと共に必要なことは、子供の心の欲求を知ることです。心の欲求というのは、まず親密な人間同士の交わりが欲しいということや、自分の能力を最もよく用いて何かすばらしいことをしたいというこ

となどがあります。もし親密なすばらしい交わりを親やきょうだいや友人と持つことができれば、自分の能力をよりよく用いることができるでしょう。

親密な人間関係をつくる能力は、幼児期に親と親密な関係を持つことによって養われます。それはまず親子のスキンシップのふれ合いから始まり、互いの真実な心のかかわり合いへと進みます。一方が喜ぶとき他方も喜び、一方が悲しむとき他方もその悲しみを心から受容するという関係です。ことに幼児期に必要なことは喜び、悲しみ、悩みの感情をわかってもらえることです。わかってもらえたとき、新しい心的力がわきあがるのを誰しも経験したことでしょう。

心を育てる本として多くの本の中から一冊を選べと言われたら聖書を選びます。なぜなら聖書ほど人間の真実を教えている本はないからです。また人生への勇気を与える本で聖書にまさるものはないでしょう。

子供の心を育てるのに自然は大きい力をもっています。自然は人間の心を素直にさせるふしぎな力をもっています。自然を失ったことが現代人の悲劇です。自然への愛はいのちをいとおしむ心を育てます。これこそ人間の道德の土台です。また自然は、日常の生活を越えたより高い精神を養う力をもっています。ですからできるだけ多く機会をつくって子供たちを自然のなかに連れていきたいものです。鋭い感受性が自然のなかで柔らかく包まれ、人生への深い肯定的な感覚が養われるのです。

子供は親の背を見て育つと言いますが、なかでも親が人生の重荷を負いながらきびしく自己の生と対決している姿を見ると、子供の心は人生の真実に向かって大きく飛躍します。さらに親が愛の循環をめざして、他の人びとへの奉仕に生きるとき、子供も奉仕に深い興味を持つようになります。こうして築かれていく人格の深さと高さには限りがありません。

一、幼児期に全力を注ぐ

教育は幼児期から始まる——「教育」ということは、学校での勉学などより、もっと多くのことを意味しています。教育は、幼児が母親の腕の中に抱かれている時から始まります。母親は、子供たちの品性を築くと同時に、子供たちを教育しているのです。

親は子供たちを学校へやります。そして学校へあげてしまうと、もう子供たちの教育をしてしまったように考えてしまいます。しかし、教育とは、多くの人が考えているよりもっと範囲の広いものです。それは幼児から子供へ、子供から青年へ、青年からおとなへと教育されていくすべての過程を含んでいます。子供が物事を考えられるようになったらすぐ、教育を始めなければなりません。

心が最も感受性に富んでいる時に始める——教育と訓練という働きは、子供が幼児のころから始めなければなりません。なぜなら、このころは心が最も感じやすく、与えられた教訓が記



赤ちゃんはお母さんの乳房を吸うとき体の栄養ばかりでなく、心の栄養もとります。

憶に残るからです。

日ごとに両親は、キリストの学校で、自分を愛してくださる方から教訓を学ばねばなりません。そうするなら、神の永遠の愛の物語が、家庭学校において、幼い子供たちに幾度となく語り聞かされることでしょう。このようにして、子供たちは、理性が完全に発達する前に、両親から正しい精神を学びとることができるのです。

幼児期のしつけの研究をする——子供たちの幼児期のしつけということは、だれもが注意深く研究しなければならぬ課題です。わたしたちは子供たちを教育することを、自分たちの重大な務めとしなければなりません。なぜなら、子供たちの救いは、主として幼児期に受ける教

育にかかっているからです。もしも両親と保護者たちが、子供たちに清くあつてほしいと思うなら、自分たち自身の心と生活を清く保つようにしなければなりません。父親また母親として、わたしたちは、自分自身を訓練し、しつけていかなばならないのです。そうすれば、わたしたちは、家庭の教師として、子供たちを訓練し、永遠のみ国を受け継ぐ準備をさせることができます。

細心の注意をもって——あなたの子供たちは、価を払って買われた神の宝です。ですから、キリストがなされたように、子供たちの扱いには細心の注意を払ってください。

青少年は、注意深く思慮深く教育しなければなりません。なぜなら、子供時代や青年時代に形成された悪い習慣は、しばしば全生涯に悪影響を及ぼすからです。正しく始めることが必要だということを、神がわたしたちに悟らせてくださいますように。

最初の子供をしつけることの大切さ——最初の子供は特に注意深くしつけねばなりません。というのは、その子があとの子供たちを教育することになるからです。子供たちは自分たちをとりまく環境から影響をうけながら成長していきます。もしも子供たちが、騒々しく乱暴に扱われるなら、その子供たちも騒々しくて耐えられないような人間になってしまいます。



人間は一生のあいだ体と心のふれあいを求めています。スキンシップは心の成長に不可欠です。

最初の八年間——子供たちを長時間室内に閉じこめておいてはいけません。また、身体の発育の基礎が十分にでき上がるまでは、子供たちをあまり勉強に没頭させてはなりません。八才か十才ごろまでの子供の生活にとっては、野原や庭がいちばん良い教室であり、母親がいちばん良い先生であり、自然がいちばん良い教科書です。子供が学校へ通う年ごろになっても、本からの知識よりは、その子の健康をもっとたいせつに考えるべきです。子供は、肉体と知能の発育にもっとも適した環境に囲まれていなければなりません。

子供たちがまだ幼いうちから学校にやるのが普通のようになっています。子供たちは、幼い頭にはまだ重荷となるようなことを本から学ぶよう強いられます。こういうやり方は賢明では

ありません。神経質な子供はどの面においても、重過ぎる荷を負わせてはなりません。

束縛を少なく——最初の六、七年間は、子供たちの知育より体育のほうに、特別な注意を払う必要があります。この時期が過ぎて、丈夫な体を持つようになったら、知育と体育の両方に心を留めねばなりません。幼児期は六、七才にまで及びます。それまで子供たちは、心配事や悩みから解放されて、家の回りや庭の中を、とんだりはねたり、子羊のように楽しげに歩きまわらせておくのがいいのです。

親、特に母親が、そのような幼い子供たちの唯一の教師であるべきです。母親は子供たちを本によって教育してはなりません。子供たちは一般に自然の事物について非常に知りたがるものです。見たり聞いたりするものについて質問してきますが、親はその機会を利用して、そういう小さな質問に辛抱強く答えてやり、教えてやらねばなりません。幼い時に母親から与えられる、愛情のこもった教えは、子供たちの品性形成になくてはならないものです。

自然に遊び仕事を手伝う——どの子供にとっても、最初に授業を受ける学校は家庭であり、最初の教師は母親でなければなりません。そしてこの授業には、勤勉という習慣をつけることが含まれていなくてはなりません。お母さんがた、子供たちを戸外で遊ばせなさい。子供たち

に鳥の歌声を聞かせ、美しいみ手のわざに表わされている神の愛を学ばせなさい。自然という書物から、そして子供たちの周囲のいろんなものから、単純な教訓を与えなさい。子供たちの知力が発達するにつれて、本からの教えを加え、それをしっかり記憶させることができます。また子供たちには、どんなに小さくても、人の役に立つということを学ばせなさい。子供たちが、自分たちは家族の一員として直接家事の責任を分担しなければならない、そして、しなければならぬ家の仕事をするることによって、体を健康的に運動させねばならない、と考えるよう教育しなさい。

楽しく仕事を学ぶ——このような訓練は、子供にとって、測り知れないほど価値のあるものです。この訓練を、つらいものにする必要はありません。役立つ者となることに、子供が喜びを見いだすようなやり方で、教えてやることができます。母親は、子供たちを楽しくさせながら、小さな愛のわざやちよつとした家の仕事をすることを教えることができます。少しずつ、くり返しくり返し、辛抱強く子供たちを教えることが、母親の仕事です。そしてこの仕事をするときに、母親自身、貴重な訓練と鍛練を受けるでしょう。

二、親の態度と話し方

おだやかな気持ちと愛の心で——A姉妹よ、神はあなたに母親としての責任をゆだねられたのではないだろうか。……あなたは、子供たちが主の道を守るように、子供たちをしつける正しい方法と技術を身につける必要があります。子供たちの教育と訓練にあたっておだやかな気持ちと愛の心をもって接し、また子供たちにきよい抱負を植え付け、そして、正しいこと、純真なこと、神聖なことに対する愛をはぐくむことができるように、あなたはいつも心と魂の最も高いものを求める必要があります。神の謙遜な子供として、キリストの学校で学ぶようになさい。教えと模範によって、家庭の仕事において完璧を期することができるように、絶えずあなたの能力を向上させなさい。

静かでおだやかな態度の効果——幼児の保育においておだやかでしっかりした態度がどんなによい結果をもたらすか、ということに気づいている人はほとんどいません。おだやかな態度

には幼い子供の神経を和らげる傾向があるのに反し、イライラして忍耐力のない母親や乳母は、抱いている子供の心を気おずかしいものにしてしまいます。

注意深く経験から学ぶ——書物を学んで得た知識を实际生活に実行しないなら、何の役にも立ちません。しかしまた、他人のどんなに有益な助言であっても、無分別にとり入れてはなりません。そうした助言は、どの母親の環境にも、あるいは、さまざまな性質や気質を持ったどの子供にも、みな同じようにあてはまるというわけではないからです。母親は、他の人たちの経験を注意深く学び、自分のやり方との違いに注意し、そして真に価値があると思えるものを注意深く試めしてみるようにしなければなりません。

親切と愛情をもって教える——親切と愛情をもって子供を教えることは、父母たちの特別な働きです。両親は、自分たちは親として手綱を取って指導する立場にあるのであって、子供たちの言いなりになるのではないということを、示さなくてはなりません。父母たちは、子供は親に服従することを要求されているということを、彼らに教えなければならないのです。

父であり母であるかたがた、あなたがたには、なすべき厳粛な働きがあります。あなたがたの子供たちの永遠の救いは、あなたがたがどんな行動をとるかということにかかっています。



子どもの感情を豊かにするには、まず親が子どもの感情を受けいれてやらなければなりません。感情は表現し受容されて豊かになるのです。

どのようにすれば子供たちを正しく教育できるでしょうか。しかることによってではありません。なぜならそれは、なんら益するところがないからです。子供たちの賢さを確信して、それにふさわしいように子供たちに語りなさい。子供たちを親切に、やさしく、愛情をもって扱いなさい。神が彼らにさせようとしておられることを教えなさい。神はご自分の共労者にしようとして、教育し訓練されることを、子供たちに話してあげなさい。あなたがたが自分の分を果たすとき、主もまたご自分の分を果たして下さるということを信じることができます。

言い聞かせるために時間をとる——母親は、時間をとって、子供たちに言い聞かせ、過ちを正してやり、忍耐をもって正しい道を教えるよ

うにしなければなりません。

本当の欲求を知る——青少年の教育においては、心の気高い能力を呼び起こすことができるよう、最大の注意が払われねばなりません。心の最も本質的な欲求を知り、青年の発達しつつある知力や、成長しつつある思想や感情をどう導いていったらいいかを知ることが大切です。しかしそれを知っている人はほとんどいません。

自然から学ぶ——お母さんがた、子供たちを戸外で遊ばせなさい。子供たちに鳥の歌声を聞かせ、美しい自然の中にあらわされた神の愛を学ばせなさい。子供たちに、自然や周囲の事物から、やさしい教訓を教えなさい。そして、子供たちの心が成長するにつれて、書物からの教訓がこれに加えられ、覚えさせることができるのです。

土地を耕すことは、子供たちや青年にとってよい仕事です。それは彼らを、自然と自然の神とに直接、接しさせます。彼らがこのような機会を持てるように、なるべくわたしたちの学校には、大きな花壇や耕作用の広い土地がなければなりません。

そのような環境の中での教育は、神が青年の教育のためにお与えになった方針と一致するものです。

本から学ぶのに疲れを感じ、覚えるのが困難だと思う神経質な子供や青年には、それ（戸外での活動）は特に貴重なものとなるでしょう。自然について学ぶ人には、健康と幸福が与えられます。そしてそのようにして与えられた印象は、心から消え去ることがありません。なぜならそれらのものは、いつも目の前にある事物と関連づけられているからです。

簡単に、そしてくり返し言うこと——子供を教育する人たちは、くどくど話すことは避けねばなりません。短くて要点をついた話が良い結果をもたらします。たくさんのことを言わねばならない場合は、短い言葉で何度もくり返して言うようになさい。興味深いわずかな言葉を時折話されるほうが、それを全部一度に聞かされるよりずっと有益なのです。長い話は、子供たちの小さな心には重荷となります。あまりたくさん言いすぎると、ちょうど食物を食べ過ぎると胃に負担となり、食欲が減退し、食物を見るのさえもいやになるように、精神的なことについての教えも嫌いにさせてしまいます。あまりに多くの話を聞かされると、人の心は飽きてしまうのです。

自分で考えるようにさせる——少年少女たちは、教師や教科書からいろいろな事について知識を得ると同時に、また自分自身で教訓をひきだし、真理をみわけけることを学ばなければ

なりません。彼らが畑の仕事をしているときには、作物の世話からどんな教訓を学ぶかをたずねてみましょう。彼らが美しい風景をながめているときには、神はなぜあんなに美しい変化のある色彩で森や野を装われたのかを尋ねてみましょう。彼らが花を摘んでいるときには、神はなぜこれらの美しい花を、わたしたちのためにお残しになったかを考えさせてみましょう。自然界のいたるところに、わたしたちに対する神のみこころが現わされ、わたしたちの必要と幸福のためにすべてのものが驚くばかりにふさわしく造られていることに、彼らの目をむけてやりましょう。

仕事を与える——両親は、子供の活動を抑えなければならぬと考える必要はありません。しかし、それを正しく適切な方向に導き、しつけることが、ぜひとも必要であることを理解しなくてはなりません。子供たちの活発な衝動は、ちやうどぶどうのつるのようなもので、もし手を入れないと、巻きひげをどんな切株や小枝にも巻きつけて、低い支えにしがみついてしまいます。もしぶどうづるを、正しい支えに巻きつくように導いてやらないなら、全くむだに活動力を浪費させてしまいます。子供たちも同じです。子供たちの活動は正しい方向に導かれねばなりません。子供たちの手と心に、何か仕事を与えて、子供たちが肉体的にも知的にも成長していくことができるように導いてやりましょう。

手助けをすることを教える——ごく小さいときから人を助けることを教え、体力と思考力が十分に発達したら、家庭で仕事を与えましょう。父母を助け、自分を制し、統御し、自分の便宜を計る前に他人の幸福と便宜を考え、機会をとらえて兄弟姉妹や遊び友だちを元気づけ、また助け、老人や病人や不幸な人に親切を示すように励ましましょう。真の奉仕の精神が家庭にもっとみなぎれば、それだけ子供の生涯にもそれが養われ、子供は他人を益するための奉仕や犠牲に喜びを見いだすことを学ぶものです。

子供たちが、家庭の一員として実際にしなくてはならない務めを、忠実に行なうことによって、神のみ心を行なうよう、助けてやりましょう。これは子供たちに、最も貴重な経験を与えます。それによって子供たちは、自分のことだけを考えたり、自分の楽しみだけを求めたり、自分のおもしろいと思うことだけをしたりしてはならないと教えられます。子供たちが家庭の中にあって自分たちの分を果たすよう、忍耐強く子供たちを教育しましょう。

心をやさしく取り扱う——子供たちを教育するときに、神が自然界の中にお与えになった教訓を学ぶことはよいことです。なでしこやばらやゆりを栽培するとしたら、あなたがたはどうするだろうか。どんなやり方で、枝や葉をあんなに美しく茂らせ、形のよい美しいものに仕立てるかを園芸家にたずねてみましょう。彼は、手荒な扱い方や無理な手入れは弱い茎を痛める

ただだから、そんな育て方は決してしないと教えてくれるでしょう。彼は、こまかい注意を何度もくりかえしながら育てました。彼は、土をしめらせ、成長する植物を激しい突風や焼けつく太陽から守りました。そのようにしたとき神がその植物を立派に茂らせ、美しい花を咲かせてくださったのです。子供を扱うとき、園芸家の方法に従ってはいかがですか。やさしい取り扱い、愛の奉仕によって、子供たちの品性をキリストのご品性の型にならって形づくるように努力しましょう。

小さなことに注意を払う——子供たちや青年たちの教育において、彼らを甘やかし、気ままだにさせ、おやみにかわいがることによって、どんなに大きな過ちがなされていることでしょう。彼らは利己的で自分では何もできなくなり、生活の小さなことにも氣力を欠く者となってしまいます。彼らは、毎日の務め——それがどんなに小さなことであっても——を果たすことによって得られる品性の強さを獲得するように訓練されていないのです。

小さな義務を忠実に果たしてきた人でなければ、大きな大切な仕事を行なう資格はありません。品性は徐々に形成され、人は徐々に、しなければならぬ仕事に適した努力と力を発揮することができるようになるのです。

才能のある子供たちには一層の配慮が必要——もしも子供たちに、個人的な魅力とまれにみる生来の才能とが備わっているようなら、こういった賜物がわざわざいとなったり、また、そのためにきびしい現実の生活に不適格となったり、また、おだてや虚栄や虚飾を愛することによって、神の国にはいるのに不適当なものとなることのないように、彼らの教育にあたっては一層の注意が払われなければなりません。

過度の関心を控え、子供をおだてない——子供たちに注意を払いすぎてはなりません。自分で楽しむことを学ばせなさい。子供たちを神童か何かのように来客の前で見せびらかしたりしないで、できるだけ子供らしい単純さのままにしておきなさい。あまりに多くの子供たちが、出しゃばりで、厚かましく、生意気であるということの一つの大きな理由は、子供たちが注目されすぎ、ほめられすぎるから、そしてまた、子供たちが気のきいた賢そうなことを言う、それを子供たちのいる前で何度もくり返したりするからです。不当にしかつたりしないように、しかしまた、ほめすぎたりおだてたりもしないようにしなければなりません。

家庭読書会——時間をとって、子供たちに本を読んで聞かせましょう。家族みんなが一日の雑務を片付けて、ともに学び合う家庭読書会をつくってごらんなさい。特に、小説や安っぽい



寝る前に本を読んでもらう時が、子どもにとっていちばんうれしい時です。

物語などを読みつけている青年たちは、夜の家庭読書会に加わることによって、大きな益を受けるであろう。

自制することを教える——人のしてきた働きの中で、青年や子供たちに正しい訓練と教育を施すことほど、大きな注意と技術を要するものはありません。幼児期にわたしたちをとりまいている環境ほど、わたしたちに大きな影響を及ぼすものはないのです。人間性には三つの面があります。ソロモンによって言われた教育は、知、徳、体の三面にわたる正しい発達を意味しています。この働きを正しく行なうためには、父母と教師はともに、「子の行くべき道」を理解していなければなりません。これは、ただ単に書物から得る知識とか、学校での勉強以上のも

のを含んでいます。それは、節制、兄弟愛、信仰を実践し、自分に対し、隣人に対し、また神に対して義務を果たすことを含んでいます。

子供たちをしつけるのと、理性のない動物を訓練するのでは、土台となる原則が全く違ってきます。猛獣ならば主人に服従するよう馴らしさえすればよいのですが、子供には、自分で自分を制御できるよう教えなければなりません。意志を理性と良心の命令に服従させるよう、訓練しなければなりません。子供を動物のように、自分の意志を持たず、自分の個性が教える者の個性の中に失われてしまうようにしつけることもできるでしょう。しかしそのような教育は賢明ではなく、不幸な結果を招くものです。そのように教育された子供たちは、堅固さと決断力に欠けた者となってしまう。彼らは原則に基づいて行動するように教えられていません。理性はそれを働かすことによって強められるのですが、それがなされていないのです。子供はみな、できるだけ、ひとりだちできるように訓練されねばなりません。いろんな能力を働かせることによって、子供は自分はどうな点で強く、どのような点で足りないかを学んでいきます。賢明な教師であれば、子供が調和のとれた品性を形成できるよう、弱い点には特別な注意を払って、それが発達していけるように仕向けるでしょう。

三、心を育てる教科書

最初の教科書——聖書が子供の最初の教科書でなければなりません。両親はこの書物から、賢明な教えを与えるようにいたしましょう。神のみ言葉が生活の規準となるべきです。それから子供たちは、神が自分たちの父であられることを学び、み言葉のすばらしい教訓を通して、神のご品性を知るようにしなければなりません。み言葉の原則を教えることによって、子供たちに、正義と公正を行なうことを学ばせましょう。

最高の価値を示す——母親は、神のみ言葉の約束と祝福、そしてまた禁じられている事などなどを、いつも思い起こして心にとどめ、子供たちが悪いことをしたとき、み言葉をもって彼らをたしなめ、そのことがどんなに神のみ心をいためるかを示してやらねばなりません。イエスがほめてくださり、ほほ笑んでくださることこそ、最高に価値のあることであって、この世のどんなにお金持ちの人から、どんなに地位の高い人から、あるいはどんなに学問のある人か

ら受ける賞賛や賛辞などよりも、はるかに価値のあるものであることを、子供たちに教えてやりましょう。日々愛をもって、やさしくまた熱心に、子供たちをイエス・キリストのもとに導きましよう。あなたは、この大切な仕事は、何ものにも邪魔されてはなりません。

聖書の物語はあく病な子供にも勇気を与える——あく病な子供は恐怖心のために人生を重荷に感じますが、それは神のみ前にあるという意識によつてのみ払いのけることができるのです。「主の使は主を恐れる者のまわりに陣をしいて彼らを助けられる」という御約束を彼の記憶にきざみこみましょう（詩篇三四ノ七）。山の上の町で、エリシヤと武装した敵の軍勢との間を天使の大軍勢がとりまいていたというふしぎな話を子どもに読ませましょう。死刑を宣告されて獄中にあつたペテロに神の天使があらわれ、武装した番兵と重い戸とかんぬきのかかった鉄の大門を通りすぎて、この神のしもべを安全に連れ出したことを読ませましょう。あらしにほんろうされた兵士と船員たちが、働きと見張りと幾日もの断食に疲れ果てたときに、審問と処刑のために道中にあつた囚人パウロが、彼らに向かつて、「元気を出しなさい。舟が失われるだけで、あなたがたの中で生命を失うものは、ひとりもないであろう。昨夜、わたしが仕え、また拝んでいる神からの御使が、わたしのそばに立って言った、『パウロよ、恐れるな。あなたは必ずカイザルの前に立たなければならない。たしかに神は、あなたと同船の者を、ことごとく

あなたに賜わっている」と、勇氣と希望に満ちた堂々たる言葉を語ったときのあの海上の光景について読みましょう。この約束を信じてパウロは「たしかに髪の毛ひとつすじでも、あなたがたの頭から失われることはないであろう」と仲間に保証し、そして実際その通りになったのです。船の中に、神がその人を通して働くことのできる人がひとりいたために、船全体の兵士と船員たちの生命が救われたのです。「こうして、全部の者が上陸して救われたのであった」と記録されています（使徒行伝二七ノ二二―二四、三四、四四）。

こうしたことは、ただわたしたちが読んで、ふしぎに思うために書かれたのではなくて、昔の神のしもべたちのために働いた同じ信仰がわれわれの中にも働くように書かれたのです。今日も神は、神の能力の器となる信仰心のあるところには、昔働かれた時と同じようにめざましく働かれるのです。

一生の祝福となる教え——両親は、子供たちが、聖書の教えをすぐに理解できるように、単に教えなければなりません。

神のいましめが生活の規準とならねばならないことを、子供たちに教えましょう。いろいろな事情が起きて、子供たちが両親のもとや家庭から離れねばなくなっても、少年時代や青年時代に教えられたことは、子供たちにとって一生の祝福となります。

四、自然から学ぶ

つぎない泉——聖書に次いで、自然が、わたしたちの偉大な教訓の書とならねばなりません。まだ本を読むことも教室の勉強もできない幼い子供たちにとって、自然は尽きることのない教えと喜びの泉です。すなおな心を持っている子供たちは、あらゆる被造物の中に遍在する神をたちまち見つけます。世の騒音に耳をふさがれていない子供たちは、自然界の言葉を通して語られる神のみ声をききつけます。無言のうちに永遠の霊的事物を心に描くことが必要なおとなたちにとっても、自然の教えは、やはり歓喜と教訓の泉です。

人類最初の教科書——自然界のすべては、神の事柄を説明するものとして計画されています。エデンの園にいたアダムとエバにとって、自然は、聖なる教えに満ち、神の知識であふれんばかりでした。彼らの注意深い耳に、自然は知恵の声を語りかけました。知恵は目にも語りかけ、心の中に入っていくきました。なぜなら彼らは、神が造られた作品の中で、神と交わっていたか

からです。

目の前に生きた教課をくりひろげている自然という書は、尽きることのない教訓と喜びの泉となっていました。神のみ名は、森の木の葉に、山々の岩に、またたく星に、地に海に空に、書きしるされていました。エデンの住民はそれらの被造物——生物でも無生物でも、木の葉、草花、樹木から巨大な水棲動物や太陽の光線にうかぶ微生物にいたるまで、すべての被造物と語り、その一つ一つから生命の神秘を学びました。天に現われる神の栄光、秩序正しい運行をつづける無数の世界、「雲のつりあい」、神秘的な光と音、昼と夜——そうしたすべてのものが、地上の最初の学校の生徒たちにとって研究の対象であつたのです。

目に見えない真理を理解する——自然界の中に、神は、人の子供たちがみ言葉の宝庫を開く鍵をお置きになりました。目でみることでできないものが、目に見えるものによって説明され、神の知恵、永遠の真理、限らない恵みなどが、神の造られたものを通して理解されるのです。

聖書の教えを例示している事物を自然の中からさがし出したり、また自然界から引用されているたとえを聖書の中にしらべたりすることを、子供たちに奨励しなければなりません。彼らはまた自然と聖書の両方から、キリストを表わしているもの、またキリストが真理を説明するために用いられたものを、一つ一つさぐり出さなければなりません。こうして彼らは木につる

くさに、ゆりの花にばらの花に、太陽に星に、キリストを見ることを学ぶようになるでしょう。彼らはまた、小鳥の歌に、木のささやきに、雷のとどろきに、海の波の調べに、キリストの声をきくことを学ぶでしょう。そのとき自然の事物の一つひとつが、彼らにキリストのとうとい教訓をくりかえすのであります。

このようにキリストを親しく知る者にとって、この地上はもはや寂しい荒れはた場所ではなくなります。それは父なる神の家となり、そこにはかつて人々の中に住まわれたキリストがご臨在になるのです。

聖書は自然の神秘を説き明かす——子供でも、自然と接触するときに、そこに当惑の原因を見いだします。彼は、そこに相反する勢力が働いていることをみいだします。この点において自然は解説者を必要とします。自然界にまであらわされている悪の姿をみてわれわれはみな同じように、「それは敵のしわざだ」という不幸な教訓を学ぶのです。

カルバリーに輝く光によってのみ、自然の教えは、正しく読まれます。ベツレヘムと十字架の物語を通して悪を征服することがどんなにたいせつであるか、またわれわれに与えられるあらゆる祝福は贖罪の賜物であるということを明らかにしなければなりません。

いばらやあざみや毒麦の中には、害し傷つける悪の力が表わされています。歌う小鳥に、咲

く花に、雨に、日光に、夏の微風に、やさしい露に、森のかしの木からその根元に咲くすみれにいたるまで、自然界の幾万ともしれない事物の中には、愛のいやしがみられます。こうして自然は今もなお神の恩恵を告げているのです。

自然は理想的な教室——エデンの父祖たちが自然の書物から学び、モーセがアラビヤの平原と山々に神の筆跡をみとめ、イエスがナザレの丘に少年時代をすごされたように、今日の子供たちも、神について学ぶことができます。目に見えないものは、目にみえるものによって明らかにされているのです。

自然への愛はぐくむ——母親は時間を見つけて、自分自身の内にも、そして子供たちの内にも、自然の美しいものに対する愛はぐくむようにしましょう。天に広がる輝きや、地上を装うさまざまな美に、子供たちの目を向けさせ、それらのすべてをお造りになった神のことを、語って聞かせましょう。このようにして母親は、幼い魂を創造主に導き、幼い心の中に、あらゆる恵みを与えてくださるおかたに対する尊敬と愛を目ざめさせることができます。自然の講堂とも言うべき野原や丘が、子供たちのための教室、そして自然の中のすばらしい事物が、子供たちの教科書とならねばなりません。このようにして心に印象づけられた教えは、すぐに忘

れ去られてしまうようなことはありません。

両親は、子供たちに、神がお与えになつた自然界のものを愛し、受けているすべてのものを与え主であられる神のみ手を認めるように教えることによって、子供たちを神に結びつけさせるための大きな働きをすることができます。こうして心の土は早くから真理のとうとい種を受ける準備ができ、時期がくればその種はぐんぐん成長して豊かな実を結ぶようになるのです。

小鳥とともに賛美の歌声に加わる——幼い子供たちは特に、自然との交わりが密接になるようにしてあげましょう。型にはめて束縛するのではなく、子羊のように、のびのびと、快い新鮮な日光のもとで遊ばせるようにしましょう。低い木や草花、草や高い木などを指し示し、それらの美しい、変化に富んだ、そして繊細な形に親しませなさい。神のお造りになつたものの中に、神の知恵と愛を見るように、子供たちに教えなさい。そして子供たちの心が喜びと、感謝にみちた愛でいっぱいになる時、小鳥とともに賛美の歌をうたわせなさい。

子供たちや青年たちが、大芸術家のお造りになつたみわざについて考え、品性の形成において、うるわしい自然の恵みにならうように、彼らを教育しましょう。神の愛が心をとらえるとき、生活の中に聖なる美しさをあらわすようにさせましょう。そのようにして子供たちは、人々を祝福し、神をあがめるために、自分たちの能力を用いるようになるのです。



親と子がいっしょに自然から学ぶことが多ければ多いほど、親も子も共に人間として成長していきます。

自然から神へ——悪に抵抗する勇気を養うような教訓を、子供たちに与えてやる必要があります。自然界から、自然を支配しておられる神へと、子供たちの目を向けさせてやりましょう。そうすれば子供たちは、創造主を知ることができようになるでしょう。「いったい、どうしたら、子供たちに最もよく、神に仕え、神をあがめる方法を教えることができるだろうか」ということを、親はいつも考えていなければなりません。全天は人類の幸福を願っています。わたしたちは子供たちの幸福のために、全力を尽くして働かなくてよいでしょうか。

自然の学びは精神を強くする——神の栄光は、そのみ手のわざの中に表わされています。そこにある神秘を探求していくとき、精神は強くな

っていきます。小説を読みふけて面白がっていた人々が、自然の中に開かれた書物を見いだすとき、自分をとりまく神のみわざの中に真理を読むようになります。一枚の木の葉、びろろどのような緑のじゅうたんで地をおおっている草の葉、小さな木や草花、森の中の堂々とした樹木、高くそびえる山々、堅い岩石、休むことのない大海、夜を美しくするために空にちりばめられた光の宝石、つぎることなくふりそそぐ日光、荘厳な月の輝き、冬の寒さ、夏の暑さ、無限の力に支配され、完全な秩序と調和のうちにめぐってくる四季の移り変わり——こうしたものの中に、人はみな、かずかずの研究課題を見いだすことができます。ここに、深い思考と、豊かな想像力を要求するテーマがあります。

ふまじめで快樂だけを求めていたような人でも、もし現実の本当のものについて思いめぐらすなら、心はいつしか敬虔の念に満たされ、自然の神をあがめるようになることでしょう。被造物の中にあらわされた神のご品性について考え、研究することは、思想の広大な分野を開き、低級でくだらない、活力を失わせるような娯楽から、心を遠ざけます。この世においてはわたしたちは、神のみわざと神の方法について、やっと知りはじめるといふ程度であって、この研究は、永遠にわたって続けられるのです。神は人間に、心のすべての機能が活発に働くような思考のテーマを与えてくださいました。わたしたちは、天にも、地にも、創造主のご品性を読みとり、感謝と喜びに満たされることができます。わたしたちのすべての神経と感覚は、すば

らしいみわざの中にあらわされた神の愛にこたえます。

少年イエスが用いた教科書——イエスが聖書に精通しておられたということは、少年時代になににまじめに神のみことばを学ばれたかを示しています。イエスの前には、神の創造のみわざというすばらしい書庫がくりひろげられていました。万物をおつくりになったおかたが、ご自分の手で地と海と空とお書きになった教えを学ばれたのです。この世のきよくない方法から離れて、イエスは自然から多くの科学的な知識を集められました。イエスは植物や動物の生活、また人間の生活を研究されました。イエスは幼い時から一つの目的を持っておられました。それは他人を祝福するために生きるということでした。このためにイエスは自然界にその方法を見いだされたのです。植物の生活と動物の生活を研究されると、そこから方法や手段についての新しい考えが頭にひらめきました。

このように、物事の原因をさとうとつとめられたとき、神のみことばとみわざの意味がイエスに示されました。天使たちがイエスのそばにつきそっていたので、聖なる思想と霊的なまじわりという教養がイエスのものとなりました。知性が芽ばえはじめてから、イエスはたえず霊的な恵みと真理の知識に成長されました。どの子供もイエスと同じように知識を得ることができます。

キリストの教え——空の小鳥、野のゆり、種と種をまく人、牧羊者と羊、——こうしたものを用いて、キリストは不滅の真理を説明されました。彼はまた日々の生活に起こるできごと、すなわち、聴衆が見聞きしている実際の経験——パンだね、かくれた宝、真珠、魚とりの網、失われた銀貨、放蕩むすこ、岩の上と砂の上にたてられた家などといったようなものから例話をひかれました。キリストの教訓の中には、ひとりびとりの心に興味を起こさせ、感情に訴えるものがありました。このようにして、日々の仕事は、高い理想の失われた単なるほねおりのくりかえしとならないで、たえず目に見えない霊的なものを心に思い出すことによって、明るくそして向上したものとなったのです。

われわれもこのように教えなくてはなりません。自然の中に神の愛と知恵のあらわれを見、鳥や花や木におすびつけて神を思い、目に見えるすべてのものが、目に見えないものの解説者となり、日々の生活のできごとを通して神の教えを知ることを、子供たちに教えなければなりません。

このようにして、あらゆる被造物とあらゆる生活経験から教訓を学ぶとき、自然の事物と生活のできごとを支配している同じ法則によって、われわれもまた支配されなければならないということ、しかもそれらの法則は、われわれの幸福のために与えられているのであって、この法則に従うときにのみ、われわれは真の幸福と成功を見いだすことができるということを示さ



大自然の中で自分の存在の小さいことを悟る人は暖かく思いやりのある人になります。

なければなりません。

自然に現われている神の栄光——わたしたちはどこを向いても、神のみ声を耳にし、そのみ手のわざを目にします。荘厳な深い響きを鳴りとどろかす雷や、大海のやむことのないどよめきから、森に旋律をかなでる楽しい鳥の歌声に至るまで、自然の中の無数の声は神を賛美しています。はなやかな対照をなして変化したり、まざり合って美しく調和したりする、すばらしい色あいを持った地や海や空に、わたしたちは神の栄光を見ます。いつまでも変わることはない山々は、神の力を物語っています。その葉を緑の旗のように、日光の中にそよがせる木々や、繊細な美しさを持った花々は、創造主をさし示しています。褐色の大地を一面におおう、生き

生きとした緑は、どんなみばえのしない被造物にも、神の配慮があることを告げています。海の洞穴や地の底は、神の宝石を見せてくれます。海には真珠、岩間には紫水晶やかんらん石を置かれた神は、美を愛するお方です。空に昇っていく太陽は、造られたすべてのものの命であり光であるお方を象徴しています。地を飾り天を照らすあらゆる輝きと美は、神について語っています。

わたしたちは神の賜物を受けていながら、それをお与えになった神を忘れていいものでしょうか。わたしたちはそうした賜物を通して、神の恵みと愛を瞑想しようではありませんか。地上のふるさとの美しさを手がかりに、天のふるさとにある、水晶の川、緑の野、風にそよぐ木、わき出る泉、輝く都、そして白い衣を着て歌う聖徒たちに、思いをはせてみましょう。この天のふるさとは、どんな芸術家も描くことができず、どんな人間の言葉も描写できない、美しい世界なのです。「目がまだ見ず、耳がまだ聞かず、人の心に思い浮びもしなかつたことを、神は、ご自分を愛する者たちのために備えられた」(コリント第一・二ノ九)。

生命の調和——自然をささえている同じ能力が人の中にも働いています。星や微生物をみちびくのと同じ大いなる法則が人の生命を支配しています。体内の生命の流れを調節する心臓の働きを支配する法則は、魂の裁判権をお持ちになる偉大な英知の神の法則でもあります。いっ

さいの生命は神から出ているのです。生命は神の生命をうけることによって維持され、創造主のみこころとの調和の中に生命の営みがなされるのです。知的に靈的に、あるいは肉体的に神の法則を犯すことは、自分自身を宇宙の調和の外におくことであり、不和と無秩序と破滅をもたらすことです。

自然の教えをこのように解釈することを学ぶ者には、あらゆる自然が光を放ち、世界は教科書、人生は学校となります。人と自然と神との調和、宇宙を支配している法則、罪の結果、こういうことは必ず人の心に印象を与え、品性を形造らないではおかないでしょう。子供らはこうした教訓を学ばなければなりません。

人格の発達を学ぶ——心ある働き人は土を耕してみても思いがけない宝が目の前にあらわれるのに気がつきます。農業や園芸においては、そこに含まれている法則に注意を払うことなしには、だれも成功することはできません。それぞれの種類の植物について、その特殊な必要を研究しなければなりません。種類の相違によって、それぞれ異なった土壌と栽培が必要であり、おのおのを支配している法則にしたがうことが成功の条件であります。

移植に必要な注意、すなわち毛根を密着させたり置きちがえたりしないことや、苗の保護、剪定や灌水、夜は霜を昼は太陽を防ぎ、雑草、病気、害虫を防ぎ、整枝、配列に気をつけるな

ど、すべてこうしたことは品性の発達についてたいせつな教訓を教えるばかりでなく、また働きそのものが発達の手段でもあります。注意深さ、忍耐力、こまかいことに対する注意、法則に従う観念などを養う上にこのような働きは非常にたいせつな訓練となります。生命の神秘や美しい自然との絶えまない接触は、神の創造されたこれらの美しいものに奉仕することによって生ずる心のやさしさとともに、心をいきいきとさせ、品性を洗練して高める上に役立つのです。そして、そこに教えられる教訓によって、働き人は、人の心をいっそうじょうずに取り扱うことができるようになるのです。

五、心の教育にとり組む

真の教育の広さ——真の教育とは、あるきまった勉学の課程を修めること以上の深い意味を持っています。それは幅の広いものです。それは体力と知力全般の円満な発達を含みます。それは神に対する愛と畏敬を教えることであり、人生の義務を忠実に果たすための準備をさせることです。

正しい教育は、知的訓練だけでなく、健全な道徳と正しい態度とを身につけさせる訓練をも含んでいます。

すべての教育の中でまず大切な教訓は、神のみ心を知ってそれを理解するということです。わたしたちは毎日の生活の中でこの知識を得るよう務めねばなりません。人間の解釈だけを通して知識を得ることは誤った教育を受けることになりましたが、神とキリストから学ぶことは天の知識を学ぶことです。教育の混乱は神の知恵と知識が高められていないことから来ています。

利己主義に勝つ——今日のような時代に、どんな傾向の教育が授けられているでしょうか。たいていの場合どんな動機が強調されているでしょうか。利己主義です。今日与えられている教育の大部分は、教育の邪道です。真の教育においては、利己的な野心とか、権勢欲とか、人類の権利と必要を無視するといったような、世の災いとなるものはすべて否定されるのです。神はひとりびとりのために人生の計画をお持ちになっています。各人はその才能を最大限に進歩させるべきで、あたえられた天分が多かろうと少なかろうと、忠実に才能をみがくことによつて、その人は尊敬に値する人物となることができるのです。

「何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から働きなさい。あなたがたが知っているとおり、あなたがたは御国をつぐことを、報いとして主から受けるであろう。あなたがたは、主キリストに仕えているのである」と教えられています（コロサイ三ノ二三、二四）。こうした原則を実行することの中に、尊い奉仕があり、また尊い教育が得られるのです。しかし今日あたえられる教育の大部分は、全然これとは異なったものであります。子供たちは、幼い時分から負けじ魂と競争心を刺激されるような教育をうけて、利己心が養われ、あらゆる悪の原因が植えつけられます。

人生の重荷からのがれる方法ではない——教育とは、人生のいやな仕事や重荷からのがれる

道を教えることではなくて、よりよい方法とより高い目標を教えることによって、働きを軽くすることが目的であることを青少年たちに印象づけなければなりません。人生の真の目標は、自分のためにできるだけ最大の金もうけをすることではなく、この世の働きで自分の立場を果たすことによって創造主の栄光をあらわし、また自分より弱い者や無知な人たちに手を貸して、かれらを助けることであることを生徒たちに教えなければなりません。

奉仕の精神を呼び起こす——日常経験する小さいことでキリストのために奉仕することは他のどんな手段よりも品性を形成し、その生涯を無我の奉仕へと導く力をもっている。この精神をめざめさせ、励まし、正しく導くことが両親の働きであり、教師の仕事であって、これよりも重要な働きはありません。奉仕の精神が天の精神であり、これを発達させ、のばしてやるための努力に対して天の使いが協力するのです。

こういう教育は神のみ言葉に立脚しています。その原則が完全に示されているのは聖書だけであって、聖書を研究と教えるの基本とする必要があります。重要な知識とは神を知ることと、神がおつかわしになったキリストを知ることです。

知的教育より人格教育——子供たちが世の中で役立つ人間となるためには、正しい教育が本

当に大切です。しかし知的教養を道德教育以上に重んじようとするなら、それは間違いです。親にとっても教師にとっても、青少年を教え、育て、洗練し、みがくことが、いちばん大事な務めでなければなりません。

目標としての品性の建設——最高の教育とは、品性を最もよく発達させ、人を永遠の生命にふさわしいものとするような、知識と訓練とを与える教育です。永遠ということのをわたたちの計算から落としてはなりません。最高の教育とは、子供たちにキリスト教の科学を教えるもの、神のみ心についての体験的知識を与えるもの、そして父なる神のご品性について、キリストが弟子たちにお与えになった教えを分け与えるものです。

本からの知識以上のもの——親や教師がこの仕事をするためには、自分たち自身、子供の行くべき「道」を理解していなければなりません。これには単に本からの知識を持つこと以上のことが含まれています。そこには善なるもの、徳なるもの、義なるもの、そして聖なるものすべてが含まれます。それは節制、敬虔、兄弟愛、神と人に対する愛などの実践を含みます。この目的を達成するには、子供たちの身体的、知的、道德的、そして宗教的教育に心を留めねばなりません。

たえず進歩し、決して終わることがない——地上での一生の仕事は永遠の生命への準備であり、地上で始まった教育はこの世で完成するものではありません。それは永遠に続き、たえず進歩し、決して終わることがないのです。贖罪の計画の中にある神の愛と知恵がますます完全になるのと同時に、救い主がその子を生ける水の源に導き、豊かな知識をお与えになるのです。そして、神の驚くべきみわざ、すなわち宇宙を創造し、ささえておられる神の力の証拠が日ごと新しい美しさをもって理解され、みくらから輝きでる光に照らされて、不思議に思われたことも明りようとなり、今までどうしてもわからなかったことが簡単なことであつたのを見て、人間は驚きに満たされるのです。

第七章

心を育てる体づくり

母乳復活が叫ばれてきたのはここ数年のことです。戦後アメリカ追ずいの風潮の中で人工乳が母乳を圧倒した時期がありました。しかし栄養学の研究が進んで母乳の優位が確立しました。母乳は栄養にすぐれているだけでなく、赤ちゃんの心も健やかにしているのです。

体づくりと心を育てることは同時に進行します。体だけに気をとられて心の必要にこたえてやることを忘れると、精神的に問題を持つ子供になってしまいます。しかし何といっても子育てにおいて体づくりは基本になります。ここでも健全な身体に健全な精神が宿るという諺は真実を語っています。

さて著者がここで強調していることは、わたしたちの体は神の宮であるということです。つまり神が宿ってくださる清い場所だということです。この思想は一般の日本人にはなじみがないかもしれませんが、何か俗世をはなれた清らかな感じを与えます。

さらに著者はふしぎな体のしくみを説き、生命の法則に従わなければならないことを、主張します。人間の体にとって動物の肉を食べることは益がなく、かえって有害であると著者は主張しています。神が人間の食物として与えたものは、穀物、野菜、果物、堅果、などの植物性食品であると書いています。

菜食が体によいことは近年広く認められてきました。ことに心臓病、脳血管障害、ガン、肝臓病などの成人病が増加してきますと、菜食のよさがきわだってきました。本書の著者の影響によつて、およそ一世紀にわたってアメリカのセブンスデー・アドベンチスト教会の会員たちは卵乳菜食と呼ばれる食養法を採用してきました。これは卵と牛乳を用いる菜食で、肉類は全くとりません。数年前に、この教会員を対象とした大がかりな調査研究の結果が発表されました。それによりますと、長年菜食を続けてきたセブンスデー・アドベンチスト教会の会員たちは一般のアメリカ人にくらべてすぐれた健康状態にあることがわかりました。た

たとえば、成人病による死亡率をみますと、肺ガンでは一般のアメリカ人の五分の一、子宮ガンでは二分の一、消化器ガンでは三分の二、脳卒中や糖尿病は二分の一、心臓病も二分の一になっています。このほか交通事故故死数も二分の一ですし、自殺は三分の一にすぎません。

菜食といっても野菜だけではありません。精白しない穀類（米・麦・豆・雑穀）、果物、ナッツ類など、種類も多くあります。これらの材料をおいしく食べるためにはすぐれた調理の技術が必要です。著者は女性です。この点についてはとくに力説しています。

日本の料理はあまりに美的要素が強く、精白しすぎて栄養が偏る危険がありますが、塩分を少なくすれば大体において菜食が多く健康的です。ところが食事のパターンが欧米化してきて、かえって子供たちに悪い影響があらわれています。

美食と間食が子供たちの体をこわしています。いま親に要求されることは、栄養についての正しい知識を持つこととそれを実行することです。健康を守るにはそれだけの努力が必要です。子供たちも小さい時から正しい食習慣を持てば、複雑で高価な美食を求めないで、単純で自然な食物を求めるようになります。

菜食は血液をきれいにすると著者は言っていますが、たしかに脂肪の多い肉類を多くとれば、血液が酸性になり、中性脂肪がふえ、心臓や血管の障害をおこすようになります。また砂糖の害も注意すべきことです。心を育てることと体を育てることは同時に進行するものです。毎日の食事が健康的で、楽しく、家族の親しい団らんの時になるならば、子供たちは明るい心を持ち、人生に対して積極的な態度をつくっていきます。また運動や仕事をして汗をかくことも人生への能動的な態度を養います。毎日の生活をバランスのとれたものとするによって、人生をよりよく生きる意欲が力強くわいてくるものです。

一、労働と技術を教える

戸外での運動と仕事——青少年が健康で明朗活発になり、筋肉と頭脳をよく発達させるためには、戸外で多くの時間過ごし、仕事とレクリエーションの調整を上手にする必要があります。

子供たちは何か仕事を持つべきです。頭脳労働と戸外での運動とを適当に行なうなら、男の子たちはからだをこわすことはありません。有益な労働や家事に親しむことは女の子たちにとって有益ですが、何か戸外で仕事をするのが彼女たちの身体と健康には絶対に必要です。

運動には新鮮な空気を——手足を毎日動かしていない人たちは、いざ運動しようとするときを感じることでしょう。「そのような人たちは」血管と筋肉が、働いて体全体を健康な活動状態に保ち、各器官にそれぞれの役割を果たさせるような状態にはないからです。手足は使うことによって強くなります。毎日適度に運動するなら、筋肉は強くなります。運動しなければたいてい弱くなってしまうのです。毎日戸外の空気を吸って活発な運動をすることによって、肝臓



塾などへ行かせるより、自然の中で思いきり遊ばせる方が、創造性のある子どもになります。

も腎臓も肺も強くなり、それぞれの務めを果たすでしょう。

意志の力を助けとしなさい。意志は寒さに抵抗し、神経組織に力を与えます。しばらくするうちにあなたは、運動と新鮮な空気のありがたさを悟り、それらの祝福なくしては生きられないほどになるでしょう。肺に十分空気を与えないのは、飢えた人に食物を与えないようなものです。実際、食物がなくても少しは生きられますが、空気がなければ生きることができません。空気は神が肺のために備えてくださった食物なのです。

運動によってすべての機能が強められる――

学校に閉じこもって本ばかり見ている子供たち
青年たちは、健全な身体を持つことができます

ん。適当な運動をしないで、勉強で頭ばかり使っていると、血液は脳にばかり集中して、体内の血液の循環はバランスのとれないものになってしまいます。頭脳に血液が集中し過ぎ、体の末端には少な過ぎるという状態になってしまふのです。勉強は一定の時間に制限し、一日の一部分は筋肉労働に費やすようにする必要があります。そして、食、衣、睡眠などの習慣が身体の法則に一致しているなら、体と心の健康を犠牲にすることなく教育を受けることができます。子供たちにはごく幼い時から、生活の上での比較的小さな責任を負うことを教えたいものです。そのようにして使われる体の機能は、働かせることによって強められます。こうして青年たちは、主が後に彼らを召されるいっそう大きな働きにおいて、有能な働き手となることができるのです。

勤勉、思慮深さ、世話をすることなどの習慣を身につけるよう訓練されてきた人は、本当に少ないものです。現代の子供たちにとって、怠惰と不活動が最大のわざわいになっています。健全で有益な労働は、よい習慣と立派な品性をつくることによって、大きな祝福となります。

多種多様で変化のある仕事を計画する——青年たちの活発な精神と手に、仕事を与えなくてはなりません。彼らを成長させ人々の祝福とならせるような有益な仕事をするよう指導してやらなければ、彼らは心身に害となるような仕事を見つけてしまふでしょう。

青年たちは生活の重荷を喜んで親と分かち合わねばなりません。そしてそうすることによって、心と体の健康に不可欠な正しい心を保たねばなりません。この場合、同じ方面のことばかり長時間続けさせてはいけません。もし青年たちが同じ種類の仕事にしばりつけられるなら、仕事はうんざりしたものに感じられるようになり、そこで得られる成果は、仕事を変えたり気晴らしの時を持ったりした場合より劣るものになってしまいます。精神的負担が重すぎると、精神は強くなるよりも衰えてしまうのです。仕事に変化を持たせることによって、健康と活力を保つことができます。しかし無益なもののために有益なものを捨て去る必要はありません。なぜなら利己的な娯楽などは道徳的に危険だからです。

貧しさがしばしば祝福となる理由——財産のあることや、何もしないでブラブラしていることが本当の恵みだと思っている人たちがいます。けれども、いつも忙しく、日々の仕事に元気に励んでいる人たちこそ、最も幸福で、最上の健康を与えられているのです。人は日ごとの糧のために労苦しなければならぬという宣告と、将来の幸福と栄光の約束とは、共に同じみ座より発せられました。そしてどちらも恵みなのです。

多くの場合、貧しさは恵みです。なぜならそれは子供たちを、怠惰による破滅から守ってくれるからです。知力と共に体力も養われ、正しく発達させられる必要があります。親が第一に、

そして絶えず注意しなければならないことは、子供たちが丈夫な体を持ち、健全な男女となるよう気を配ることです。体を動かさないでこの目的を達しようとしても、それは不可能なことです。

子供たちは、別に必要に迫られなくても、自分たちの心と体の健康のために、働くことを教えられねばなりません。清く立派な品性を持ちたいと思うなら、筋肉全体を働かせるきちんとした労働の訓練を受けることが必要です。自分たちが役に立っているということ、また、自己を制して他の人々を助けているということから与えられる満足感は、子供たちが味わう最も健康的な喜びとなるでしょう。

労働の効果——人生は、真剣に働き、責任を負い、ほねあることであるということ。青少年たちに教えなければなりません。彼らは、実際の人間——非常事態と戦うことのできる男女となる訓練をうけなければなりません。組織立った、規律正しい労働は、人生の浮き沈みの防壁としてばかりでなく、円満な進歩に役立つものとして無くてはならないものであることを、少年少女たちに教えなければなりません。

肉体労働はいやしむべきものではない——労働をいやしいものと考え人たちが多くいます

が、これはよくある間違いです。こういう間違った考えのために、青年たちは、教育を受けて教師や事務職員、商人や弁護士等になりたい、そしてとにかく肉体労働が要求されない職務につきたいと懸命になります。若い女性たちは家事を軽んじています。そして、たとえば家事をするのに要求される体の運動が——もし適度であれば——健康を増進させるものであっても、彼女たちは、教師や事務員になるのに適した教育を求めたり、あるいは屋内に引きこもってすわって仕事をするような職業を習ったりしています。

世の中は、有用な労働について知らないことを誇らしく思っている青年男女で満ちています。そして彼らは、ほとんどきまって軽薄で虚栄心が強く、うわべだけを飾り、不幸で満たされず、浪費癖があつて無節操です。このような品性の持ち主たちは、社会の汚点であり親の恥辱です。わたしたちの働きがどんなにつまらなくいやしいもののように見えても、決して恥ずかしく思つたりしてはなりません。労働は人を向上させます。頭と手を使って精出して働く人はみな労働者です。そして人はみな、洗濯をしているときも皿を洗っているときも、集会に行くときと同じように、義務を果たし信仰を尊んでいるのです。手が最も平凡な仕事をしているときも、心は清く聖なる思いによつて高められ、気高くされることができなのです。

肉体労働が卑しまれる最大の理由は、それが、いいかげんな、考えのないやり方でなされることが多いからです。自分から選んでするというのではなくて、強制されてするのである。労働

者は、それに気乗りがせず、自尊心もなければ、また他人からの尊敬も得られません。劳作教育によって、こうした弊害が矯正されなければなりません。物事を正確に徹底的にやる習慣を養うべきです。生徒たちは熟練と組織を学び、時間を節約することと動作にむだがないようにすることを学ばなければなりません。彼らに最善の方法を教えるばかりでなく、たえず進歩しようとする向上心を吹きこまなければなりません。その働きを人間の頭脳と手によって、できるかぎり完全に近いものにするように心がけなければなりません。

このような訓練によって、青少年は労働の奴隷となることなく、かえって主人となるのです。それは勤労者の負担を軽くし、どんなに卑しい職業も高貴なものにします。働くことをただのほねおり仕事に思い、無知な自己満足をもってこれにとりかかり、進歩するために努力しない者には、ついにはそれがほんとうに重荷となってしまうのです。しかしどんなに卑しい働きにも知識をみとめる者は、そこにとうとさと美しさを見、その働きを忠実に能率的に遂行することにより喜びを感じます。

裕福でも手づから働く——多くの場合、富裕な親たちは、学問における場合と同じく、生活上の実際的な義務においても、子供たちを教育するということが、どんなに大切かを、感じていません。子供たちの知的・道徳的利益のために、また子供たちが将来役立つ者となるために、

子供たちにはぜひとも有益な労働について十分に理解させなくてはならないということが、こういう親たちにはわからないのです。子供たちが万一不幸に遭遇した場合、自分たちの手を使って働くことを知っていれば、立派に自立していけるはずです。もし体力という資本を持っているなら、たとえエドルも持っていなくても、貧乏することはありません。

若いときは恵まれた境遇にあった人が、財産すべてを失って、しかも親や兄弟姉妹を扶養しなければならなくなるという場合がたくさんあります。とすれば、青年たちがみな働くことを教えられ、どんな緊急事態にも備えができていくということが、どんなに大切なことでしょう。財産があるために子供たちに働くことを教えようとせず、子供たちを実生活に適したものとすることを怠るようなら、富はまさしくわざわざいなくなってしまいます。

子供たちに家の仕事を分担させる——しっかりとした母親なら、流行ばかり追ったりしませんし、またそんなことなどできるものではありません。そしてまた、自分が家事の奴隷になったり、気まぐれな子供たちの機嫌をとって労働を免除してやったりはしないでしよう。忠実な母親は子供たちに家事を分担させ、子供たちが実生活の知識を持つことができるようにさせます。もし子供たちが仕事を母親と分け合うなら、彼らは有用な仕事で、人を低めるよりも高めるものであって、幸福には不可欠なものだということを悟るようになるでしょう。しかしもし母親



は、親の重荷を軽くすることを子どもに教えることは、昔も今も変わらずに大切なことです。

が自分で家事の重荷を負い、娘たちは怠惰になるような教育をするなら、それは娘たちが母親を、自分たちに仕えて自分たちがしなくてはならないことをしてくれる召し使いと見なすような、そんな教育をしていることになります。そのような母親は決して母親としての威厳を保つことができません。

娘たちに骨折り仕事や世話などをさせないという誤りを犯している母親たちがいます。そんなことをすると娘たちは怠け者になってしまうのです。このような母親たちは時々、「娘はあまり丈夫でないの」と言い訳をします。しかし彼女たちを弱くて役に立たない者に行っているのは、母親自身なのです。彼女たちが丈夫で活発になり、快活で幸福で、そしてこの世の生活に伴うさまざまな試みに勇敢に対処できるように

なるためには、正しく指導された労働がぜひとも必要です。

有用な仕事を当てがう——親が子供たちに仕事を与えることを不注意にも怠る結果、多くの青年たちの人生が危険にさらされ、彼らは痛ましくも役立たずになってしまおうというような、計り知れない悪が生じています。

神は、親と教師が日常生活の実際的な務めを子供たちに教え込むよう望んでおられます。勤勉に働くように励ましてやりなさい。女の子たちは——そして外での仕事のない男の子たちも——どうやってお母さんの手伝いをするかを学ばなくてはなりません。少年少女たちは、幼い時から家庭の仕事を賢明に手伝いながら、だんだんと重い責任を担っていけるよう教育されねばならないのです。お母さんがた、娘さんたちに、どのように自分たちの手を使って働くかを忍耐強く教えてあげなさい。あなたがたが家事をする時のように、手を上手に使わなくてはならないことを娘さんたちに理解させなさい。

家庭においてどの子も家事の一部を引き受けねばなりません。そして自分の仕事を忠実に、また快活に成し遂げるよう教えられねばなりません。もしこのように仕事が分担され、子供たちがそれぞれにふさわしい責任を負うよう習慣づけられて成長するなら、家族の者はだれも過重な重荷を負うことなく、家庭内では万事が気持ちよくスムーズに運ばれることでしょう。だ

れもが家の小事に至るまで関心を寄せ、よく知っているのも、家庭の経済も適切に保たれることでしょう。

料理と裁縫は基本的な学科——お母さんがたは娘さんたちを台所に連れていき、料理について徹底的に教育しなくてはなりません。また基本的な裁縫の技術を教え込む必要があります。服を経済的に裁断する方法や、きちんと縫い合わせる方法を教えるではありません。不慣れた娘さんたちにわざわざ苦勞して辛抱強く教えるよりも、全部自分でやってしまおうとするお母さんたちもいます。けれども、そうすることは、教育の大切な部門をおろそかにし、子供たちに対して大きな間違いを犯すことになります。なぜなら、あとになって子供たちは、これらの面で知識が足りないために困ることになるからです。

男の子にも女の子にも同じ訓練を——家庭を作るには、男にも女にも責任があるので、女の子と同じように男の子も家事についての知識を持つべきです。寝具や部屋の整理、さら洗い、炊事、衣服の洗濯や繕いなどを、男の子にさせることを男らしくない訓練と思っはなりません。それは男の子をもっと幸福にそしてもっと役に立つ者とします。一方、女の子たちが馬具をつけて、馬を御することを（注・この記事は一九〇三年に書かれたが、ここに含まれている原則は現代にも十分あてはまるものである。）くまでやくわを使うこ

とはもちろん、のこぎりやハンマーを使うことをおぼえるなら、人生の非常事態に直面してもまごつかないでしょう。

母親の重荷を軽くする——料理、皿洗い、洗濯、掃除など、しなくてはならない家事が毎日あります。お母さんがた、あなたがたは娘さんたちに、こういう日ごとの務めをすることを教えたでしょうか。彼女たちの筋肉は運動を必要としています。跳ねたりボール遊びをしたりして運動する代わりに、何か目的のある運動をさせなさい。

家族の重荷を分かち合うことを子供たちに教えなさい。何か役立つ仕事に子供たちを専念させなさい。どうしたら仕事が容易に、また上手にできるか、やってみせなさい。お母さんの重荷を軽くしてあげれば、お母さんは体力が保たれて長生きできるのだということを、子供たちに悟らせなさい。多くの疲れた母親は、自分の重荷を分かち合うことを子供たちに教えなかったばかりに、早すぎる死を迎えることになってしまふのです。自分のことを忘れて奉仕する精神を家庭で育てていくとき、親は子供たちを真に無我のおかたであられるキリストへと、いっそう近く引き寄せているのです。

家庭の務めに忠実であることの報い——あなたが占めることのできる立場——たとえそれが

どんなにつまらなくいやしいものであっても——を最大限に活用しながら家庭の務めを忠実に果たすことは、本当に気高いことです。このような神聖な感化力が必要とされています。の中には平和と聖なる喜びがあります。そこにはいやしの力があります。それは魂の傷を、そして体の苦痛さえも、人知れず徐々に和らげてくれます。清い神聖な動機や行為から来る心の平和は、体のすべての器官に豊かで力強い活力を与えます。心の平和と、神に対して罪を犯していない良心は、若い植物の上に下る露のように、知性を刺激し活気づけます。そのとき意志は正しく導かれ統御されて、一層断固としたものになります。しかし強情にはなりません。黙想はきよめられているがゆえに楽しいものとなります。あなたの持っている心の静けさは、あなたと交わるすべての人を祝福します。平和と静けさは時が経つうちに自然なものとなり、あなたの周囲の人々にそのとうとい光を反映し、それがまたあなたにはね返ってきます。あなたがこの天来の平安と心の静けさを経験すればするほど、それはますます増し加えられます。それはすべての精神的エネルギーを無感覚にしたりしてしまうものではなくて、かえって目覚めさせていっそう活発に活動させる、元気な生き生きした喜びです。全き平安は、み使いたちの持つ天の特質です。

男の子たちに農業の訓練を与える——父親は息子たちを自分の職業や仕事にたずさわらせな

さい。農夫は農業が息子たちにとって高尚でない仕事だなどと考えてはなりません。農業は科学的な知識によって進歩させられるべきものです。

農業は割の悪いものだと言われてきました。人々は、土はそれに費やされる労働に対して引き合わないと言い、土を耕す者たちのきびしい運命を嘆きます。しかし適切な能力のある人がこの方面の仕事をしっかりつかみ、土を研究し、植え方、耕作法、収穫の仕方などを研究するならば、もっと励ましになるような結果が得られることでしょう。「わたしたちは農業をやってみて、それがどんなものか知っている」と多くの人たちが言います。しかしそういう人たちこそ、土を耕す方法や、仕事に科学を持ち込む方法を知る必要があります。彼らのすきはもっと深く、もっと広くうねを掘り起こさなければなりません。彼らはまた、土を耕しているからといって、品のない粗野な性質を持つ必要はないということを学ばねばなりません。時機を得て種をまくこと、植物の世話をすること、そして神の考えられたご計画に従うことなどを学びたいものです。

実業の知識は学問的な知識よりも重要——若い女性たちにいろいろな料理を教える、経験ある教師が必要です。若い女の子たちは、衣服を裁断し、作り、修繕することを習い、それによって生活上の実際的な務めが果たせるよう教育される必要があります。

青年たちのために、知力と共に筋肉をも働かせるような種々の職業を学ぶことのできる学校がなければなりません。もし青年たちがどちらか一方の教育しか受けられないとしたら、健康と生活にとって不利となる学問的な知識と、実生活のための労働の知識と、どちらが重要でしょうか。わたしたちはためらうことなく、後者だと答えます。どちらかを軽視しなければならぬとしたら、それは書物の勉強のほうです。

二、生命の法則に従う

不思議な体のしくみ——わたしたちは神の作品です。わたしたちは、「恐るべく、くすし」く造られたと言葉は述べています。神はわたしたちの心のためにこの生きた住居を備えてくださいました。それは「〔不思議に〕 つづり合わされ」、主ご自身が聖霊の住まわれる所として準備なさった宮です。心は人間全体を支配します。わたしたちの行動は、善であれ悪であれ、みな心に源を持っています。神を拝し、わたしたちを天の存在者に結びつけるのは心です。それなのに多くの人は、心というこの宝物を入れる容器「人体」について理解しようとしなくて、一生を過ごしてしまいます。

身体の器官はみな心のしもべです。そして神経は、身体の各部に心の命令を伝達し、生きた機械の動作を導く伝令です。

身体の構造を研究するときには、目的に対する手段のふしぎな適応性や、各種の器官の調和的な活動と相互依存に注意を向けなければなりません。生徒の興味をこのように目ざめさせ、

体育の大切なことを理解させることができれば、教師は生徒の正しい発育と正しい習慣を確保する上に大いに役立つことになるのです。

健康は強い精神をつくる——心と魂は、肉体を通して表現されるのですから、知的また霊的な力は肉体の力と活動によって大いに左右されます。肉体の健康を増進するものはすべて強い精神と均斉のとれた品性の発達を助長します。人は健康でなければ、自分自身に対する義務を、また人類同胞に対する義務と創造主に対する義務を、はつきり理解することも完全に果たすこともできません。したがって健康は品性と同様に忠実に保護されなければなりません。生理衛生の知識はすべての教育の働きの根本でなければなりません。

衰えつつある人類——今日、最も文明化し、恵まれた地にさえも、疾病と衰退とが存在します。しかしその根底となる原因についてほとんど考えられていません。人類は衰退しています。人類に悲惨と破滅をもたらす罪悪はたいてい、防止することができません。それを左右する力は両親の上に大いにかかっているのです。

健康管理を教える——子供たちに早くから、生理衛生の基礎知識を、簡単にわかりやすく教

えなければなりません。この勉強は、家庭の母親の手で始められ、学校で忠実に続けられなければなりません。生徒の学年が進むにしたがって、この方面の教育が継続され、自分の身体を自分で管理する資格ができるようにならなくてはなりません。あらゆる器官の活力を維持することによって病気を防ぐことがたいせつであることを理解させ、また普通の病気や、けがに対する処置を教えるべきです。

知識より実行——生理学を学ぶ者は、単に事実や原則について知識を得ることだけが、生理学研究の目的ではないということを知らなければなりません。知識だけでは不十分です。通風の大切なことを悟り、部屋に新鮮な空気を入れても、肺臓に十分な空気を満たさないかぎり、やがてその不完全な呼吸の結果、苦しめられることになるでしょう。同じように、清潔の必要が理解され、必要な設備がとられるけれども、これを使用しなければすべておだになってしまいます。こうした原則を教えるに当たってぜひ必要なことは、生徒たちがその重要さを肝に銘じて、これを良心的に実行するようになるということです。

規則正しい食事と睡眠——食事と睡眠の時間を規則正しく守ることが重要であることを見落としてはなりません。身体をつくる働きは休息している時間に行なわれますので、睡眠を規則

姿勢を正しくし腹式呼吸を学び、よく透る声を出すことは、体の健康だけでなく、自立心を育てるのにも役立ちます。



正しく十分にとることは、特に少年少女たちにとってたいせつです。

睡眠時間を調整するのに、でたらめなやり方をしてはなりません。学生たちは夜中に勉強して昼に寝るといったような習慣をつくってはなりません。家でそういう習慣がついてしまっているなら、ちよいどいい時間に寢床に入るようにして、その習慣を改めなくてはなりません。そうすればさわやかな気分で起き、その日の仕事につけるでしょう。

正しい姿勢——まず第一に心がけなければならないことは、立ったときとすわったときの正しい姿勢です。神は人間をまっすぐにおつくりになりました。神はわれわれが肉体的な恵みばかりでなく、また知的霊的な恵みすなわち美德、

気品、落ち着き、勇氣、獨立心を持つように望まれますが、そうした美德を養うには、まっすぐな姿勢が大いに役立つのです。教師はこの点について言葉と模範を通して教えを与えるべきです。正しい姿勢とはどういうものを示し、いつもその姿勢を保つように主張しなければなりません。

呼吸と発声の訓練——正しい姿勢についてたいせつなのは呼吸と音声の訓練です。まっすぐに立ったりすわったりしている人は、そうでない人よりも正しい呼吸をする傾向があります。教師は、深く呼吸することのたいせつさを、生徒たちに印象づけなければなりません。呼吸器官の健康な活動は血液の循環を助け、全体の組織を活気づけ、食欲を刺激し、消化を促進し、ふかいところよい睡眠をあたえ、こうして身体をさわやかにするだけでなく、精神を和らげ落ちつかせるということを教えなければなりません。深呼吸のたいせつさを示すと同時に、またその実行をすすめましょう。深呼吸を促進する練習をさせ、その習慣が築かれたかどうかを確かめるようにしましょう。

発声の訓練は、肺臓をひろげてこれを強くし、病気を防ぐのに役立つので、体育上重要な位置を占めています。読んだり話したりするとき、確実に正しく発声するには、呼吸にとってもなつて腹部の筋肉が充分に運動するように、また呼吸器官が圧迫されないように気をつけなければ

なりません。のどに力を入れないで、腹部の筋肉に力を入れるようにしましょう。こうすることによって、のどや肺臓がひどく疲れたり、またひどい病気になったりするのを防ぐことができます。めいりような発音、抑揚のあるなめらかな声の調子、あまり早すぎない話しぶりができるように細心の注意を払わなければなりません。

三、食物と料理

いのちと結びつく料理——料理の知識を持つということは、小さな事柄ではありません。料理の技術は、ありとあらゆる技術の中で最も価値のあるものとみなされなくてはなりません。なぜならそれは命と密接に結びついていくからです。料理の技術にもっと注意を払いましょう。よい血液をつくるためには、身体はよい食物を必要としているからです。人々の健康を支えるための基礎となるものは、上手な料理法という医事伝道の働きです。

調理の仕方がまずいために、健康改革がしばしば健康改悪になっていきます。健康改革が成功するためには、健康的な料理に関する知識の不足がまず改善されねばなりません。

料理の上手な人は少ないものです。上手に調理し、きれいに盛りつけた食べ物を家族に出すことができるよう、多くの、本当に多くの母親たちは、料理を勉強する必要があります。

料理には宗教がある——子供たちに料理の仕方を教えることを怠ってはなりません。それを

教えることによってあなたは、子供たちの宗教教育になくてはならない原則を彼らに教えていることになるのです。子供たちに生理学を教え、また単純にしかも上手に料理することを教えるとき、あなたは教育の最も有用な部門の基礎を築いているのです。おいしいふくらしたパンを作るには技術がいります。上手な料理法の中には宗教があります。料理についてあまりにも無知で、また学ぼうともしない人々の宗教とはどんなものなのか、わたしは疑問に思います。

忍耐をもって楽しく教える——母親は娘さんたちがまだ幼いうちから台所につれてきて、料理の技術を教えなければなりません。教育もしないで、娘さんたちに家事の秘訣を理解することを期待しても、それは無理というものです。忍耐強く親切に教え、快活な顔つきと、認め励ます言葉とによって、仕事をできるだけ楽しいものにしないではありません。

娘さんたちが一度や二度、あるいは三度失敗しても、とがめてはなりません。すでにがっかりしていて、「やってもむだだわ。わたしにはできない」と言いたい気持ちになっているからです。そんな時に責めたりしてはなりません。気が弱くなっているのですから、むしろ励ましの言葉が必要なのです。「失敗したからって気にしないでいいのよ。初めはうまくいかなかったりまえなんだから。もう一度やってごらんなさい。気持ちを集中して、注意深くやるのよ。そうしたらきつとうまくいくわ」と、明るい、希望に満ちた言葉で励ましてやらねばならない

のです。

子供たちが興味と熱意を失う理由——多くのお母さんがたは、この方面の知識がどれほど大切なものを悟らないで、苦勞して子供たちに教えたり、教えている間に子供たちがする失敗や間違いをがまんしたりするよりは、自分で全部やってしまうほうがいいと考えます。そして娘さんたちが努力していて失敗すると、「だめね、何をやっても。手伝うよりも困らせるほうが多いじゃないの」と言って、追いやってしまいます。

こうして最初の努力がはねつけられ、最初の失敗が教わろうとする興味と熱意とをさましてしまうために、彼女たちはもう一度やってみることを恐れ、裁縫や編物や掃除など、とにかく料理以外のことをしたがるようになってしまいます。これはお母さんの責任です。練習すれば、経験を積むことができ、ぎこちなさがなくなって上手になっていくのだということを、お母さんが忍耐強く教えてあげねばならなかったのです。

非行や悪徳に対する防壁を築く——あなたが彼女たち「娘さんたち」に料理の技術を教えるとき、もしそうしなければ引き込まれてしまうかもしれない非行や悪徳から彼女たちを守る防壁を、その周囲に築いているのです。

男子も料理を学ぶべきである——男子も女子と同様、単純で衛生的な料理法を知っておく必要がある。往々、男の人は仕事のため、衛生的な食物が得られない場所に行かなければならぬことがある。そういう場合に、料理の知識があればうまく役だてることができる。

若い男子も女子も、経済的に料理をつくることと、どんな肉類をもとらないですませる方法とを、教えられる必要があります。

最もよい食物を選ぶ——最善の食物が何であるかを知るためには人間の食事に対する神の最初の計画を研究しなければなりません。人間を創造し、その必要を理解しておられる神がアダムの食物を定めて「わたしはたねをもつすべての草と、種のある実を結ぶすべての木とをあなたに与える。これはあなたのために創造主の食物となるであろう」と言われました（創世記一ノ二九）。穀類、果実、堅果類、野菜が、わたしたちのために創造主のお選びになった食物であります。

単純に、しかもおいしく調理する——神は人間が正常な食欲を満足させるために、多くのものを備えてくださいました。神は人間の前に、地の産物——味覚をそそり体の組織に栄養を与えるさまざまな食物——をたくさん用意しておられます。いつくしみ深い天の父は、わたしたちにこれらのものを自由に食べてよいとおっしゃっています。香辛料やいろいろな油を使わな

いで調理された果実や穀類や野菜は、ミルクかクリームをそえると、最も健康的な食物となります。こういう食物は体に栄養を与え、刺激的な食物では生み出すことのできない耐久力や知力を与えてくれます。

食欲に頼ってはならない——身体を構成するのに必要な要素を最もよく供給する食物を選択しなければなりません。この選択においては食欲が安全な標準ではありません。間違った食習慣によって食欲は不正となり、健康を害し、身体を強くしないで弱くする食物を欲することがしばしばあります。至るところにある病気と苦痛の原因はたいてい食事に関する一般の誤りによるものであります。

食欲をしつけられていない子供たち——わたしは汽車の中で、自分の子供は食べ物好みがむずかしくて、肉類やお菓子がないと食事ができないと親たちが言っているのを聞きました。昼食の時、これらの子供たちにはどんな食べ物を与えられたかを観察しますと、それは精白した小麦粉のパン、黒こしようにふりかけた薄切りのハム、香料で味つけたピクルス、そしてケーキとジャムでした。その子供たちの血色の悪い青白い顔色は、胃が苦しんでいることをはっきり示していました。そのうちの二人の子供は、子供連れの別の家族がチーズも食べているの

を見て自分たちの前に置かれたものに対して食欲を失い、甘い母親は自分のかわいい子供たちが食事をしないのではないかと心配して、とうとう彼らのために一切れのチーズを分けてもらいました。その母親はこう言いました「うちの子たちは好き嫌いがひどくて困るので、食べたいものを食べさせているんです。結局食欲は体が必要としているものを欲しがるわけですから」。

これは食欲が正常である場合には正しいかもしれません。食欲には自然の食欲とゆがんだ食欲とがあります。不健康で刺激性のある食物を食べるよう子供たちをずっと教育してきたために、嗜好がゆめられ、しまいには粘土や石筆、こげたコーヒー、お茶のかす、シナモン、クローブ、香辛料などをほしがるようにさせてしまった親は、食欲は体が必要とするものを求めるのだと主張することはできません。食欲は誤った教育を受けて、ついにはゆがんってしまったのです。胃の繊細な器官は刺激されて焼けただれ、とうとうそのデリケートな感受性を失ってしまいました。単純で健康的な食べ物が、彼らにはまずく感じられます。酷使された胃は、最も刺激性のあるもので促されなければ、与えられた働きをしないのです。もしこういう子供たちが、小さいときから、できるだけ自然の持ち味を保たせ、肉や脂肪や香辛料を使わずに、最も単純な方法で調理した健康的な食物だけをとるように教育されていたなら、嗜好や食欲はそこなわれなかったことでしょう。食欲はその本来の自然な状態にあるときに、からだの必要に最もよく合ったものを大いにさし示すことができるのです。

肉食をやめる理由——肉食をする人は穀類や野菜の古物を食していることになります。動物は成長するためにその栄養を穀物や野菜からとるからです。穀物や野菜の中の生命はこれを食べたものの中にはいます。わたしたちは動物の肉を食べてその生命を受けるわけです。だから神がわたしたちのために備えられている食物をとって、直接その生命を受けたほうがどれだけよいことでしょう。

肉は決して最良の食物ではありませんでした。しかも動物の病気が実に急激に増加している今日、肉の使用反対の根拠は倍加しています。肉食している人は自分が食べているものがどんなものかほとんど気がついていません。その動物が生きている時の状態を見、自分が食べている肉の質を知ることができたら、いやになってやめる人が多いでしょう。結核菌や**がん**の菌がいったい付着した肉を人間はつねに食べているのです。こうして結核、**がん**、その他致命的な疾患が伝染するのです。

すぐにはわからない影響——肉食の影響はただちに認められないかもしれませんが、だからと言って、その事が無害である証拠にはなりません。血液を毒し、苦痛を招くものは、食した肉であると教えても信ずる人はほとんどいません。肉食だけで病気になり、死ぬ人が多数あります。しかも本人も他の人々も真の原因に気がついていないのです。



食事を楽しくすることには工夫と努力が必要です。しかしその努力は家族のきずなを強めてくれます。

菜食はよい血液をつくる——筋肉の力は肉食によると考えるのは誤りです。肉食をしない方が身体の組織の必要は十分に満たされ力強い健康も与えられます。穀類、果実、堅果類、野菜などが良い血液をつくるのに必要な栄養を全部含んでおり、肉食によってはこうした栄養素はそれほどうまく、また完全に供給できません。もし肉食が健康や体力に欠かされぬ重要なものであったならば、最初から人間に定められた食物の中にはそれが含まれていたはずです。

明るく楽しい食事——子供は食欲を制して健康に適する物を食べるように教えなければなりません。彼らに有害なものだけを自制しているのだということを明らかにしましょう。そうすれば子供は、さらによいもののために有害な

ものを捨てるようになります。神が豊かにお与えになった良い物を食卓に並べ、見るからに感じ良く、また魅力的にととのえ、食事の時間は明るい楽しい時間としましょう。

間食は胃を弱くする——胃には十分な注意が払われる必要があります。絶え間なく働かせておいてはなりません。酷使され虐待されているこの器官に、少しは平安と静寂と休息を与えてやりなさい。

普通の食事が終わったあと、胃は五時間休ませてやらねばなりません。次の食事までは一片の食物すら胃に入れないほうがよいのです。この合間に胃はその仕事を成し遂げて次の食物を受け入れる状態になるのです。

お母さんがたは子供たちに間食を許すことによって大きな誤りを犯しています。胃はこの習慣によって狂いを生じ、将来苦しむ基礎がつくられてしまします。消化しきれない不健康な食物のために子供たちはイライラしやすいのかもしれないのに、お母さんのほうはそのことをよく考えその有害なやり方を改めようとはしません。あるいはまた、手をとめて、世話のやける短気な子供たちをなだめることもできません。そして子供たちに一切のケーキか何かちよつとしたおいしいものを与えてなだめようとしますが、これはただ害悪をひどくするだけです。

お母さんたちはしばしば、子供たちのひ弱さを嘆き、お医者さんに相談します。そんなとき

もしちよつとでも常識を働かせるなら、そういう悩みは誤った食事からきているということがわかるでしょう。

朝食が大切——あなたの子供さんは神経質なほうですから、食事には細心の注意を払う必要があります。ちゃんとした栄養を与えないで、ただ嗜好を満足させるような食物を選ばせておいてはなりません。朝食をとらせずに家から学校に送り出すようなことは決してしてはいけません。このことについてあなたの好みのおもひくままにしてはなりません。

朝食を軽くとることが世の中の習慣となり、しきたりとなっていています。しかし胃にとってこれは最善のやり方ではありません。朝食の時には胃は一日の二度目や三度目の食事の時よりもっと多くの食物をこなせる状態にあるのです。朝食を控えめにとり、夕食にごちそうを食べる習慣はよくありません。朝食を一日のうちでいちばん量の多い食事としてごらんなさい。

食べすぎは体を弱める——親は子供たちに食べ物たくさん与えすぎることによって、しばしば失敗をします。そんなふうにすると子供たちは胃弱になってしまふのです。たとえば健康的な食物でも適度にとることが大切です。ご両親がた、子供たちの前に食べてよいだけの量をおきなさい。子供たちに食べたいだけ食べさせておくのはよくありません。ご両親がた、この点

が守られない限り、子供たちの知覚力は鈍くなってしまいます。学校に行っても、覚えるはずのことを覚えることができなくなります。なぜなら脳に行くはずの力が、胃に負担となる余分の食物を消化するために使われるからです。子供たちに食べ物を与えすぎると、丈夫にするよりも弱くしてしまうということを、親は知らねばなりません。

神経のバランスをくずさない——親は生命と健康を理解することを自分たちの第一の務めとしなければなりません。それは食物の調理や、あるいはそのほかのどんな習慣においても、子供たちの中に誤った性向を育てることがないようにするためです。母親は、子供たちに食べさせる食べ物によって子供の消化器官が弱ったりしないように、神経のバランスがくずれたりしないように、そして子供たちに教えていることが台なしになったりしないようにするため、最も単純で健康的な食事を準備するということをどんなにか細心の注意をもって研究しなければならぬことでしょう。胃という消化器を弱くするか強くするかは食物にかかっています。そしてそれは、神の血潮によって買われ神の所有物である子供たちの、心身の健康に大いに関係しているのです。

子供たちの心身を守って、神経系のバランスがとれ魂が危険にさらされないようにするという、何と神聖な責任が親に託されていることでしょう。

お母さんがたは、健康的で栄養のある食物だけを食卓にならべることによって、人の救いのために大きな働きをすることができます。自分たちの貴重な時間を用いて、子供たちの嗜好や食欲を訓練し、あらゆることに節制するという習慣を育て、そして克己と人々への愛とを身につけさせることができるのです。

甘やかされた子供——多くの親は、子供たちが克己の習慣を身につけるよう忍耐強く教育するという務めを避けて、好き勝手な時に食べたり飲んだりし放題にさせています。嗜好を満足させ、好みを満足させたいという欲望は、年と共に減ることはありません。こういう甘やかされた青少年たちは、成長するにつれて衝動に支配され、食欲のとりことなっています。彼らが社会に出て自分で生活するようになった時、彼らは誘惑を退ける力を持ちません。暴食家、タバコ中毒者そして大酒家の中にわたしたちは間違った教育の悪い結果を見ることができません。

第八章

永遠からの使信

「永遠からの使信」という章題は何か奥深いことを示しています。子育ては実に永遠的な課題を持つと言えないでしょうか。考えてみますと、子育ては一代限りのものではありません。子育てをする親自身が自分の親によって育てられたのです。そして自分が育てた子供たちがまた彼らの子供を育てるのです。この連鎖と続く世代の交替は何を意味するのでしょうか。

戦前の社会を振り返ってみますと、子供の敵は病気ぐらいなものでした。いまは子供たちの環境が変わりました。子供の敵が増えました。病気も内容が変わりました。交通事故や災害もあります。数年前、小・中学校では「遊ばず、学ばず、働かず」の“三ズの病”にかかった無気力な子供が急増しているといわれましたが、このごろでは「家庭内暴力、校内暴力」に変わってきました。

何が子供たちをいらだたせているのでしょうか。おそらく子供たちは現代文明の矛盾を鋭く感じとっているにちがいありません。物質に豊かになって、何不自由なく欲望を満たしてゆくことができるのに、それだけでは精神的に満たされないということが感じとられているのではないのでしょうか。また生活のどの局面も管理されていて、そこから抜け出すことができない無力さを感じたり、さらに目標を見失っているということもあるでしょう。性的に開放された社会は、同時に、堕胎を公認しいのちを軽視しています。自己の存在を無視されたものの怒りが子供たちの心も脅かしているのです。

このような時代にどうしたら子供と心を通じ合っていくことができるのでしょうか。またどのようにして子供自身が雄々しく人生に船出するのを助けることができるでしょうか。

現代の教育に欠けているもの——それは神を敬うという心の教育です。この教育は学校ではできませんので家庭でしなければなりません。今の教育からすっぱり抜けているのは、人間を超越した永遠者に対する畏

敬と服従の教えです。

以前は心の教育はいろいろな形でありました。神社へ行つてかしわ手を打って拝礼するとか、仏前に合掌瞑目するとか、日々の勤行を果たすとかがあつて、親の姿を見て子供たちもそれを学ぶ機会がありました。いま子供たちは完全に唯物的な思想と教えに囲まれて教育を受けています。彼らは人間以上の存在について実質的な教えを受ける機会をほとんど持っていない。

もつとも、その人間以上の存在が科学の発達と共に存在できなくなつたりするものであれば、そこから何の力も受けることはできません。どんな力も打倒できない存在、人間の精神を広く、深く、高く、つちかつてくれる永遠者が必要なのです。

永遠者である神を敬うように教えられた子供は、この動揺の激しい時代にあつても心のよりどころを持つことができます。自己の存在からずっと遠い過去を眺め、またはるか向こうにある未来を望むことができます。というのは、永遠者である神がこの世界とこの私を存在させておられると信じることができるからです。神が造り維持しておられる宇宙は、神の愛の循環を目的として存在するものです。神の愛は、自然のいのちの営みに、また人間の連綿と続くいのちの与え合いにもあらわれています。たしかに人間世界の悪が神の愛の循環をさまたげていることも知らなければなりません。それもまもなく除去されます。来るべきものは輝やかしい神の愛の世界です。子育ての真の意味はこの神の経綸を悟ったとき始めて会得されるのではないのでしょうか。

「すべて愛する者は、神から生れた者であつて、神を知っている。愛さない者は、神を知らない。神は愛である」(新約聖書、ヨハネの第一の手紙四章七、八節)。

一、悪のはびこる時代

未来に希望はあるか——今日の青年は未来の社会を示す確かな指標です。そして彼らをながめるとき、わたしたちはその未来に何を望むことができるでしょうか。大多数の者は快楽を好み、働くことをきらっています。彼らは克己心に欠け、ちよつとしたことにも興奮して怒ります。どんな年令、また、どんな身分の者でもその大多数は主義や良心を持ち合わせていません。彼らはその怠惰な浪費癖をもって悪に突進し、社会を墮落させて、ついにこの世は第二のソドムになろうとしています。もし食欲と情欲が理性と宗教に統御されていたならば、社会は、大いに異なつた状態を示していたでしょう。神は現在のように不幸な事態が存在するように計画されたわけではありません。それは自然の法則にはなはだしく違反した結果なのです。

悪質な本や絵の影響——青年たちの多くは熱心に本を読みます。彼らは手当たり次第に読みあさります。刺激的な恋愛小説や不潔な絵は、人格を墮落させる影響を与えます。多く

の人々は、小説に夢中になります。その結果、彼らの想像力は汚されます。車中では女の裸体写真が販売されていることがあります。これらの不愉快な写真は写真屋にもあるし、彫刻家の壁にもかかっています。現代は至るところに墮落が満ちている時代です。目の欲と汚れた欲情は見ることに読むことによつて挑発されます。心は想像によつて墮落するのです。心は下劣な欲情を起こさせるような場面を想像して楽しむのです。汚れた想像が描き出すこれらの不道徳な光景は、人々の道徳観念を腐敗させ、惑わされて欺瞞におちいった人々を情欲のままに行動させるのです。それが罪と犯罪へと導いて、神のかたちに造られた人間を獣と同じ地位にまでひきずりおろし、ついに彼らを地獄の淵にまで沈めるのです。

現代の特殊な罪であるわいせつ——世の恐ろしい状態を示す光景がわたしの前に展開されました。不道徳が至る所に満ちています。わいせつは現代の特殊な罪です。悪が今日ほど大胆にそのみにくい頭をもち上げた時代はかつてありませんでした。人々は麻痺しているかのように見えます。徳と真の美徳を愛する人たちは、その大胆さと力と優勢さに気をくじかれるばかりです。

子供たちにとって特に危険な時代——わたしたちの生きているこの時代は、子供たちにとつ

て不幸な時代です。激しい潮流が永遠の破滅におかたて流れています。この潮流に押し流されないように抵抗するには、子供の経験や力以上のものが必要です。一般に青年たちはサタンに捕らわれているように見えます。サタンと悪天使たちは彼らを破滅におとしめています。サタンとその軍勢は神の支配と戦っていて、心を神にささげ、神のご要求に従いたいと望むすべての人々を、彼の誘惑によって惑わし、屈服させ、彼らが失望し、戦いをあきらめるようにしようと努力しているのです。

二、親は目ざめねばならない

一般に親は無関心である——親が霊的生活に冷ややかになっていくのは悲しいことです。彼らの敬虔な心が衰え、神への献身が欠けているために、子供たちに主の道を守らせるように、忍耐強く、徹底的に訓練するというゆだねられた崇高な責任を自覚していません。

一般に親は、子供たちが正しいことと正しくないことを決定するように求められたり、強い誘惑に直面したりするとき、人生の厳しい現実や将来彼らをとり囲むいろいろな困難に対して、対処できないように、子供たちにあらゆることをしているのです。子供たちは強くなければならないとき自分たちが弱いことを知らされます。彼らは原則や義務に動揺し、人間として自分の弱さのために苦しむのです。

最も重要な働きがなおざりにされている——現在、この世界になぜこれほど悪が満ちているか、その大きな理由の一つは、親が最も重要な働き、すなわち子供たちに忍耐深く、親切に主

の道を教える仕事をなおざりにして、他のことに専心しているからです。

母親たちは多くのことについて知識を持っているかもしれませんが、キリストが自分を救って下さった救い主であることを知らない限り、大切な知識を身につけていると言うことはできません。もしキリストが家の中にお住みになり、母親がキリストを自分の助言者としていたら、彼女たちは子供たちを赤ん坊のときから真の教育の原則に従って教育することができのです。

三、永遠者との交わり

子供は神のもの——キリストはかつては幼子でした。キリストのために子供たちを大切にしましょう。子供たちは神からあずかったものです。甘やかしたり溺愛したりしないで、清く高い生活ができるように教えなければなりません。子供たちは神のものです。神は子供たちを愛しています。そこで神はあなたがたを召して、子供たちが完全な品性をつくるように、教える働きをさせられるのです。主はみ救いにあずかった家族に完全さを求めておられます。主はわたしたちのうちに、キリストがその人性においてあらわされた完全な人を期待されます。父親も母親も、特別に、子供たちを教育する最善の方法を、理解する必要があります。こうして神のみわざに協力することができなのです。

家族で祈る必要がある——どの家族も、主をおそれることが知恵の初めであることを自覚して、家族で祈りの祭壇を築かなくてはなりません。この世で宗教が与える力と励ましを必要と



親子が共に祈るとき、家族のきずなは強く
なり、愛の実践が容易になります。

する人がいるとすれば、それは子供たちの教育
としつけに責任のある人たちです。彼らは彼ら
に指導を求める者たちに、神なしで生きること
ができると毎日見本を示して教えるようなら、
とても神に受け入れられるような働きをするこ
とはできません。もし子供たちをこの世の生活
だけのために教育するなら、子供たちは永遠の
ための準備は何もすることができないでしょう。
彼らは神なしで生きてきたように、神なしで死
めでしょう。そして親は彼らの魂が失われたこ
とに対して責任を問われるでしょう。ご両親が
た、あなたがたはどのようにして子供たちを、
賢明に、やさしく、愛をもって教えたらよいか
を知るため、朝な夕な家庭の祭壇で神を尋ね求
める必要があります。

わかりやすくはっきりと祈る——自ら模範を示すことによって、はっきりと、よく聞こえるように祈ることを、子供たちに教えましょう。いすから顔をあげて祈ること、けっして手で顔をとおって祈ったりしてはならないことを教えなさい。こうして子供たちは単純な祈りをささげることができ、主の祈りをいっしょに唱えることができますようになります。

美しい純潔な歌を歌おう——聖書に記録されている歌の歴史は、歌や音楽がどんなに有用であり、また有益であるかということを示しています。音楽はしばしば悪用されて悪い目的に使用され、したがって人の心を誘惑する上に最も力のあるものとなっています。しかし、音楽が正しく用いられるならば、それはとうとい神の賜物となるのです。音楽が人の思いを高貴なテーマに高め、魂に靈感を与え、これを向上させるようにと神は意図されるのです。

歌は霊的な真理を心に印象づけるのに、最も効果的な方法の一つです。押しつぶされて絶望しかかっている魂が、長い間忘れていた子供時代の歌の文句をきいて、ふと神のみ言葉を思い出し、そのために誘惑が力を失い、人生に新しい意義と新しい目的が生まれ、勇気と喜びを他人にも分け与えるようになった例がどんなに多いことでしょう。

教育の一つの手段として歌の価値を見おとしはなりません。家庭で美しい純潔な歌がうたわれるとき、人をとがめだてる言葉は少なくなり快活さと希望と喜びの言葉が多くなります。

ホーム・ライブラリー

1 生活を豊かに

2 教 育

3 豊かな人生の秘訣

4 心を育てる家庭教育

NDC 379.9/320P/22cm

1982年9月1日初版発行

著 者	エレン・G・ホワイト
訳 者	広田 実・村上 良夫
発 行 者	安 河 内 寿
印 刷 所	福 音 社

〒241 横浜市旭区上川井町1966

発 行 所 福 音 社
電話(045)921-1414 振替横浜7-599番

〒241 横浜市旭区上川井町846

発 売 所 三 育 協 会
電話(045)921-1121

転載複製を禁ず 製本・関山製本社 PRINTED IN JAPAN

☆ご愛読下さいましてありがとうございます。当社出版物は直販制
です。書店には出しておりません。お問合せ、ご用命、出版目
録のご請求等は、直接発売所へお申し越し頂きたく存じます。